

わい ふ

投稿誌

読んで書いて、みんなで作る



次刊

11, 2, 14

婦人教
育情報セ/夕

特集◆嫌われる上司・好かれる上司

座談会◆なぜ「シングル」なの？

新連載◆変わりゆく中国①泥棒事件

276

杉山由美子●著

¥1500

バギー・ママの 明るい憂鬱

結婚・出産を機に企業社会をおりる高学歴の女性たち。しかし、幸せになるために選んだはずの専業主婦は息苦しくてちょっとつらい。東京は国立・国分寺を中心にしたインタビューに垣間みる専業主婦の孤独と不安。

アンカッピング研究会●編

¥1200

妻に異議あり

▼男の離婚▼ 離婚の危機に夫婦関係や家族の意義を真剣に考え直していった男たちの本音をインタビュー。

波田あい子十平川和子●編

¥2200

シェルター

女が暴力から逃れるために

女たちが傷ついた心とからだを癒し、元気を回復する場＝シェルターでの支援の実際を描いた、日本ではじめてのシェルターからの報告。

吉廣紀代子●著

¥1500

殴る夫 逃げられない妻

「夫も食わぬ夫婦げんか」として放置されてきたもう一つの家庭内暴力。夫からの身体的・心理的・性的暴力に苦しむ女たちが語りはじめる。



話題の絵本!

おちんちんの話

- やまもとなおひで・文
- ありたのぶや・絵

●A4判/本体価格1400円

「おちんちん」の全情報を親子の会話を中心にやさしくわかりやすく語る絵本。小学校中学年から中学生向き。幼・保・小・中・養護学校教諭、親必携。

●「こみゆんと」'99年1月別冊●不登校情報センター編

登校拒否と 適応指導教室

学校に行けない子たちの居場所

全国で800以上もできていて、運営内容も実にさまざま。ほとんどが自主学習で、ゆっくり休み、学び、遊びのある子どもの居場所。少人数で先生ともゆっくり話ができる。そんな適応指導教室の様子をのぞいてみませんか

●A5判/定価1400円(税込)

●定期購読受付中!

心とからだの主人公に

●B5判 隔月刊◆定価1260円(税込)

性と生の教育

Human Sexuality

◆偶数月1日発売

編集◎「人間と性」教育研究協議会

編集長◎山本直英

明日を拓く子どもと時代のニーズに添えて〈性〉と性教育をとおして今日の学校や家庭や社会のあり方、さらに社会・文化を考察します。

No.21 [特集] 自慰の人間学—山本直生先生110年記念—

No.20 [特集] 「恋愛学習」のすすめ

不登校・登校拒否・いじめの情報ネットワーク誌

こみゆんと

●A5判 隔月刊

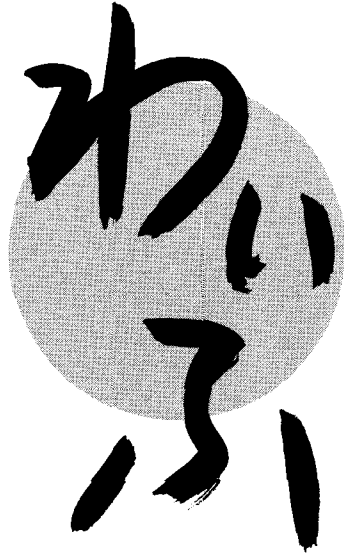
◆定価900円(税込)

◆奇数月1日発売

子どもたち、親たちの手記を取りあげ、本音で語りあえる雑誌。「情報アクセスコーナー」では各地の団体の催しを紹介。「文通コーナー」も好評。

第44号

[特集] 子どもの「傷ついた心」はどうすれば癒せるか



「わいふ」を読む

「わいふ」に書く

あなたの人生が開ける

わいふ

読んで書いて
みんなでつくる

276号

目次

デザイン／宮塚真由美
題字／石渡希和子
表紙イラスト／箕輪絵衣子

イラスト／荒井知恵 梅村 菫
小沢恵子 カステラネンコ 小林正子
佐藤瑞江子 Jasmine 田沼千恵
田村幹代 西宮さき 橋本美智子
長谷川てるみ ベティ・フジヤマ

4 今、人生が変わる時

写真提供・文／田中優子

◆ 田中優子さん

特集 嫌われる上司・好かれる上司

- 10 我があこがれの上司 土屋さゆり
14 私が出逢った上司達 林田良子
17 二人の課長 三田サキ

- 21 おすすめの一冊 神名 舞

- 22 秋風に揺れて 須賀まり子

- 91 出会いと別れ―私の場合② 田沢未実

- 99 子育てフォーラム ● NMSのページ ●

太田明子・杉田みほ・林 京子・佐野千代・香山なおみ

- 116 エッセイスト・クラブ

中松ミナ子・前橋春菜

- 121 おすすめの一冊 和田好子

- 122 パソコンワールド

鈴木美奈・古沢涼子

- 124 ブック情報

- 126 コミック **これが子供の生きる道** ⑧ 栗田 笑

- 130 私の意見・あなたの意見

小山いつか・飯塚真里・新井純子

- 132 あなたへスマツシユ

伊藤美子・石井しのぶ・青木清美・高野葉子
鈴木美奈・後藤 晶

家族のスケッチ

くわしいともみ・金田典子・和田美代子
浅川涼子・隅田美幸

今これに夢中

辻浦知津代・杉浦いち子・湯山美代子

新連載 変わりゆく中国①
泥棒事件 法村香音子

笑える！

海林寺ひろい・花岡京子

フリートーク

十河温子・宮崎貴子・大沢陽子・入江由里・浅田節子

ズバリ一言

十文字圭子・上田はるか・長谷部泊子

おすすめの一冊

岩田和子

座談会 私も言いたい

なぜ「シングル」なの？

五十木啓子・木幡 澄・染屋美代子

田沢未実・高原香奈子

編集部へ 高松恭子

一筆両断 ⑧ 西田淑子

私もひらいた

長野恵子・後藤 晶・千田るみ子・長谷川知子
かすみそう・高野葉子・青木清美・太田啓子
佐藤理恵子・十文字圭子

コミック 毎日が平日 海砂

情報コーナー

スタッフから 147

わいふインフォメーション 148

募集します 149

投稿のきまり 150

編集だより 152

自費出版はわいふへ 35

文章講座のおすすめ 70

お友達にわいふを 75

バックナンバー 115

今、人生が変わる時

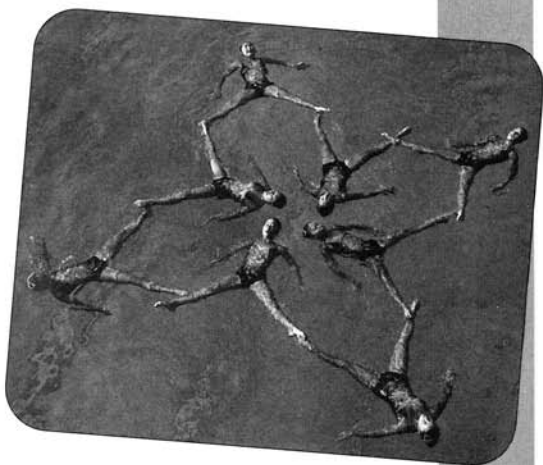
写真提供・文／田中優子



「世田谷・生活者ネットワーク」の会合で、出席者と談笑する田中さん（写真中央）。
政策担当として多忙な日が続く。

東京都世田谷区

田中優子さん



中学二年から七年間続けたシンクロナイズドスイミングの競技生活の中で、一番の思い出は、1979年の日本室内選手権でのチーム優勝（写真左 東京シンクロクラブAチームのメンバーと。前列左から二人目が田中さん）。



タイ・バンコク エメラルド寺院と王宮前広場



バンコクのゴルフ場でご主人の順さんと。バンコク滞在中は、よく夫婦でゴルフを楽しんだ。

小さいときから水泳が好きで、小学校五年生から大学二年まで、競泳選手を三年、シンクロナイズドスイミングを七年、青春の十年間はひたすらプールで練習、練習の日々を送りました。辛く、厳しい毎日でしたが、全日本の試合でのチーム優勝、海外遠征など、楽しい思い出がたくさんあります。

大学を卒業後、公立中学校の教師となりましたが、結婚してすぐ夫に海外赴任の辞令が出ました。悩んだ末、仕事を辞めて一緒に行くことに。一九八四年から一九九〇年までの五年半、タイ（バンコク）で過ごしました。

タイ国立タマサート大学（昨年タイで開催されたアジア大会で、柔道や競泳などの試合会場となったところ）で日本語を教えることができたのは、貴重な体験です。



タイ・タマサート大学日本語科の教官室で。両隣はタイ人の先生方。



タイ北部にあるスコータイ遺跡。13世紀に栄えたスコータイ王朝は、現在のタイ国家の起源とされる。



タマサート大学の卒業式。学生一人一人と記念写真を撮る。

タイでは暴漢に襲われ、あわや殺されかけるという怖い思いもりましたが（わいふ二四〇号に掲載）、それでもタイが好きで、タイでの仕事も充実してきたところに、帰国命令が出て非常に残念でした。

一九九〇年に帰国し、出産・育児で一、二年は悶々とした生活を送っていました。子どもが二歳になってすぐ保育園に預け、タイ語の講師と日本語教師の両方で仕事に復帰。ここ四、五年はとにかく忙しく、仕事三昧で突っ走ってきました。

しかし、どんなに目一杯働いても、経済的に自立できる年取にはならず、年金や税金の矛盾にもぶつかり、「こんなに女性が生きにくいのは社会の仕組みがおかしいからだ!」と思うようになりました。

そんなとき、田中喜美子編集長が「女たちよ、川下で水が汚いと嘆いていないで、川上に場をとろうではないか!」

タイでは暴漢に襲われ、あわや殺されかけるという怖い思いもりましたが（わいふ二四〇号に掲載）、それでもタイが好きで、タイでの仕事も充実してきたところに、帰国命令が出て非常に残念でした。



世田谷区・日本語教室の授業風景（1995年）。



家族そろって楽しんだ東京ディズニーランド。写真左端は息子の大貴君（1996年）。

と、「ファム・ポリテイク」を創刊されました。「何ごとも政治で決められるのだ。政治の世界に女性がほとんどいないからいけないのだ」ということに気づきました。

とはいえ、昨年の夏、「生活者の声を区政に反映するために挑戦してみないか」と世田谷区議会議員立候補の話を持ちかけられたときは、「まさか私が？」と思いました。夫の「やってみたら。（仕事、人生を）変えてみるのもいいんじゃない？」というひと言で決心がつき、現在、「世田谷・生活者ネットワーク」で政策担当をしながら、四月二十五日の統一地方選挙に向けての準備を進めているところです。

市民の声、特に女性の声が直接反映される政治を実現することができるよう、頑張りたいと思っています。

投稿誌 **わいふ** から
生まれた

ニュー・マザリングシステム (NMS)

ゼロ歳から満3歳までの子どもを持つお母さんを対象とする通信教育です

「生きる力」のある子を育てましょう!!



- ・実践と理論の両方を学べます
- ・子育ての悩みから解放されます
- ・徹底した個人指導で安心できます

お問い合わせ先 **NMS研究会** 〒162 東京都新宿区市谷加賀町2-5-26
（株）グループわいふ分室内 ☎03-3260-2509 FAX03-3260-9398

妻と夫が 定年後を 楽しく 暮らす本

グループわいふ・編著

- 趣味だけでは人生を過ごす
支えにならない
- 老後の資格、最も将来性あ
るのは……
- 身体を動かす暮らしが老後
を支える
- 「老後はホフンテュル」の
落とし穴

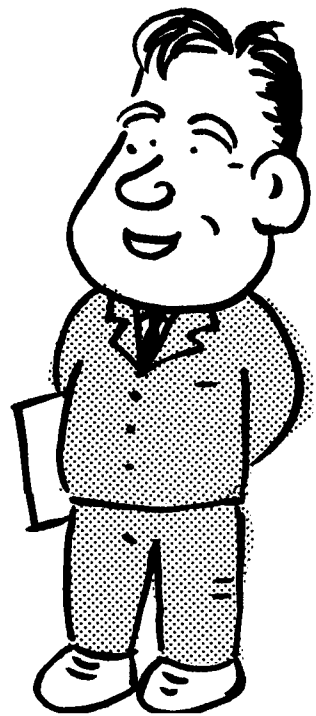
河出書房新社 (03) 313-4004 (11101)

“主婦集団”が
足で集めた
エピソードの数々

◎本体1400円 (税別)

特集

嫌われる上司・好かれる上司



我があこがれの上司

東京都北区 土屋さゆり（33歳）

先日、一年ぶりに元上司の声を聞いた。電話から響いてくるのは相も変わらず明るく、元気を届けてくれる声だった。

私の以前の職場は、都心にある司法書士事務所であった。白黒はつきりしていることが好きなせいか、幼い頃から法律に妙に惹かれていた。学生時代には、実際の仕事の内容もわからずに司法書士を目指していた。そのあこがれへ、新卒一年目での転職だった。

この事務所の司法書士先生が私の上司である。法律家という堅いイメージ

ジを持つが（実際そういう人が多いのだが）、この先生は実にユニークなキャラクターの持ち主なのだ。自分のことを「チビ、デブ、ハゲの三重苦だ」と笑い飛ばす。「飲み過ぎたから仕事よろしくね」と電話をかけてきて休む。自治会の運動会で、はりきりすぎて筋肉痛を起こし次の日に休む。でもそれが決して嫌味ではないのである。「また、先生ったら」と思いながらも許せてしまう。

ある時、やはり飲み過ぎた翌日のことである。例のごとく朝、電話をかけ

てきて「今日は休むよ。立会い（不動産の売買等取引。売主、買主、銀行、不動産屋が集まり、主に銀行で行われる）があるんだけど、さゆりちゃん行って来て」と言う。

自分の立会いのある日はスーツを着てくるのだが、その日は全然予定していないものだから、私の服装はセーラーブラウスにふりふりのミニスカートという高校生のような格好であった。仕方なくその格好で銀行へ行き、不動産売買の取引に立会ってきた。場違いで、「この子は誰だ？」と不審な目で見られ、ばつの悪い思いをしたことを今でも鮮明に覚えている。

またある時、所有権移転の登記が終わった後、売主さんが心配そうに電話をしてきたことがあった。手元に戻ってきた権利証（買主さんのために新しい権利証が出来ているので、この権利証はもう何の効力もない）をどうした

「もう必要ないものですから好きなようにして良いですよ。うんこでも拭いちやってください」と明るく言った。聞いていた私は、「えっ！ お客さん



に対して何ということをして！」と絶句してしまった。

でもよく考えてみると多少（かなり？）汚い表現だが、とつてもわかりやすい説明の仕方なのだ。「トイレッ

トペーパーがわりにしてしまっているほどいらぬもの」と誰でも納得できるといふものではないか。

一生に一回あるかどうか、という家の売買で、不安になっている依頼者を安心させることも仕事の一つだ。私はこの時そう学んだ。安心してもらうことで信頼を得られるのだ。

大金が動く堅い仕事だからこそ、ユーモアが時として大切になってくる。しかし、実際にこれを取り入れるのは難しい。自分自身も取引で緊張しているから、どうしてもそんな余裕はなくなる。何よりユーモアは質もタイミングも難しい。上手に冗談をはさんで取引を円滑に進めていく先生の姿は私のおこがれである。

私は事務所での唯一の女性だった。しかも事務所始まって以来の女性であった。先生が、何でもまた私を採る気になってくれたのかはよくわからないが、私にとっては本当に幸運であった。

入所した時点では、司法書士の勉強をほんの少ししていただけなので、知

識も恥ずかしいほどわずかなもので、実務にいたっては本当に何も知らなかった。それを先生は、気長に単純な事件から書類作りを教えてくれた。それと平行して顧客にもどんな会わせにくれた。先生に同行して何度も立会いにも行った。毎日が新しいことばかりで楽しい日々であった。

ところが、手放して楽しいとばかり言っていたらなくなってきた。

入所して五カ月がたったある日、同行した立会いが当日書類が不備で流れてしまい、次の日に再び行われることになった。すると先生は、「明日はさゆりちゃん一人で立会ってみな」と簡単に言った。もう私はびっくりしてしまった。当時はバブルの絶頂期で、しかも物件は田園調布。何億というお金が動くのである。

「大丈夫だって。何にも問題ないよ」と笑う先生に対し、私の頭の中は「もしも失敗したら」の心配ばかりであった。恐くて、逃げ出したいくて仕方がなくなっていた。

今になって思えば先生も同じように、いや、私以上に恐ろしかったことと思う。自分の名前で開業してみると、責任の重さを嫌というほど思い知らされる。

一つの取引を他人にまかせることがどんなに恐ろしいことか。何千万、何億という取引でミスをしてしまったら賠償は全部自分に降りかかってくるのである。私の狭い懐では他人に取引を任せることはきつと出来ない。心配で心配で仕方がない。

しかし、それでは人は育たない。いつまでも成長することがないのである。あの時、先生が私を信用して任せてくれたこと、そしてその後も大きな仕事で責任を持たせてくれたことで私は成長してきた。経験、知識、度胸（実は今でも立会いの時は緊張し、逃げ出したいくて仕方がないのだが）という貴重なものが私の財産になった。こればかりは机上で勉強していても、事務所で単純な補助をしていても、獲得できるものではない。しかもこの経験は

仕事をする上でもっとも重要となる。

私がこの経験をしたいなければ、新しい家の話を楽しそうにする買主さんにも、事前連絡では聞いていなかったややこしい登記を当日平気で依頼してくる不動産屋にも会うことなく、立会いの楽しさも、血の気がひくほどの恐怖やあせりも知らずにいたことであろう。

時々、自分の甘えから「何でこんな恐い取引を私にさせるのよ。こんな恐さ、知りたくなかったのに」と、先生をうらめしく思うことさえあった。

先生に言ったことがある。「失敗したらと思うと恐くて恐くて」と。

すると先生は、

「そんなの俺だって未だにそうだよ。

いつまで経っても立会いは緊張するよ」

いつか知識も経験もたくさん積んだら、余裕で立会いに行ける日が来るかと、淡い期待を持っていた私には驚きであった。一生恐いものなのか。安心したような、一生か、と絶望したような複雑な気分だった。

良い上司とは、懐の広い、心の大きな人。部下に責任のある仕事を与えてくれる人。責任のある仕事はとて息苦しいもので、時として押しつぶされそうになるが、やり遂げたあとの満足感は「よし、またがんばろう」と思わずにはいられないものだ。そうして仕事にはまっっていく。

入所から五年目。私は本格的に資格取得勉強のため退所することになった。最後の日、

「それじゃあ、お疲れさま」

と、あっさりいつものように先生は言った。ちよっと拍子抜けしながらも「お世話になりました」

とだけ言って、私はダンボールを抱えて事務所を去った。

退所してからは、時々近況報告の電話をしたり、先生の方から電話をくれたりした。一年後には、事務所に戻って来ないかというお誘いを受けた。しかし、この時はちよっと初めての妊娠、流産、そして二度目の妊娠ということがあったため復帰は実現しなかった。

資格取得、出産と同時に開業。開業したものの新人なので、実務面財務面等でわからないことばかりだった。そういう時は迷惑顧みず、すぐに先生に電話をした。先生は新人を指導するのは先に業務をやっている者の務めだ、と力を貸してくれた。

だが、開業の時期が悪かったのだろう。半年後、休業するかどうかの選択を迫られることになる。仕事と育児の板挟み、そして病气。その時も最後は先生に長い長い相談の電話をした。そして堂々めぐりの話につきあってもらった。

結局、休業。仕事を離れ、育児と病气療養という相反する二つを行う生活となった。

その間も病气が悪くなり、完治しないまま休業期間の二年が近づき、あせり、相談に行ったりもした。後から考えると、ほとんど愚痴をこぼしに行っただけだったのだが。

冒頭の電話の件だが、また事務所に戻って来ないか、というお誘いの電話

だった。

私は信じられなかった。小さい子供を持ち、しかも椎間板ヘルニア(今だに腰痛、座骨神経痛があり、ひどい時は立ってられない)という病气持ちの私を誘ってくれるなんて。

この誘いは、育児と仕事、そしていつまでもくすぶっている病の中で、悶々とし、自分の価値をどん底までおとしめていた私には、大きな喜びであった。そしてこの状態のなかで、なんとかやっついていけるかもしれないと思える勇気をくれた。

先生と私は相性が良かったのかもしれない。先生は私を過大評価していると思えるのだが、私にとっては先生の仕事に対する姿勢は、尊敬に値するものだったことは確かである。

腰や足は寒さで痛み、子どもの保育園はまだ決まらないが、またこの先生の下で仕事が出来ることを考えると、私の春は案外明るいものなのかもしれない。

私が出逢った上司達

熊本県八代郡 林田良子（41歳）

私は短大を出ると、建設会社の経理担当になった。同期は男女合わせて十五名程いたが経理課は二人。先輩を含め、ほとんどが上司と呼べる立場の人ばかりだった。建設会社なので、現場で働く人以外は、オフィスにいる。設計や見積りがOKだと工事にかかり、経理課は忙しくなる。

上司のなかで私が許せないのが、「ちよっとお茶入れてくれないか」「タバコがきたので買ってきてくれ」「明日、ゴルフがあるのだがつきあってくれ」

という連中がいることだ。

なんで休日や、休み時間を上司のために犠牲にしなければならないのだろ

う。

「でもね、誘いを断わると後が怖いよ」と先輩は言う。親切にしてもらいたかったら、なんでもハイハイと言っている方が得らしい。

「女は素直が一番、仕事ができるよ、男の意見に従うこと」

男性が多い職場ということもあって、私はただの飾りみたいな気がしてきた。先輩達は上司を人參か大根ぐらいに思っているのか、適当にあしらって、得する分だけ得している。

玉の輿で、エリート商社マンと結婚した先輩達の見合いの話は、上司がもってきたのだ。

天下りでやってきた上司は、役所や

商社に顔がきく。先輩達は上司の機嫌をとって、ちゃっかりと得する人生のルールに乗っていた。

私は、頭が悪いのか、性格が固いのか、先輩たちにはふるまえない。冗談でお尻をさわる上司がいても、本気でおこっってしまったし、悔しくて夜も眠れない日もあった。

せつかく入社した会社だから、頑張っていた。給料は多い方だったし、経理の勉強もできる。朝、昼、三時のお茶の時間は嫌だったが、個人専用の湯のみも全員覚えていった。

体にタッチしてくる上司も、根は悪い人ではないので、自然と上手にかかわせるようになった。

女だから、こんな目で見られるんだっていう思いはずっとあったが、女だということにこだわらなければ、男性の多い職場でも、なんとかやってゆけることに気がついた。

一年が過ぎ、私も先輩になり、新人が入社してきた。あの頃の私のように、真つすぐに正義感の強い女の子が

いた。

歓迎の花見の席で、酔った上司が、女の子にからんでいた。先輩達は、見えて見ぬふりをしていたが、私にはできなかった。

「君は、バージンかね」
そんな質問を新人にしていた上司



を、私は思わず拳でなくってしまった。

驚いたのは、私自身だった。心臓が激しく脈うっている。

困っている新人の顔。回りの人達の顔。女になぐられて目を丸くしている上司の顔。

みんな置き去りにして私は帰った。

涙があふれてきた。自分も同じ思いをして耐えてきたのに。なぜ、見て見ぬふりができなかったのだろう。私がしたこと、あの新人の立場はどうなるのだろう。馬鹿だよ、私って本当の馬鹿だよ。でもどうしてもあやまる気持ちにはなれない。

酒の席のことだから許してくれるよと先輩は言う。

女のしたことぐらいで男は腹をたてたりしないものさと男性達は言う。

こんなことで仕事を失うなんて馬鹿だよ。考えなおせよ。本当に馬鹿かもしれない。でも辞表を出したとたん、肩の力がぬけた。

玉の輿も、もらえるはずのボーナスも目の前にして私は全部、拒絶した。人にあたえられた縁談で人生を決めなくても、私にあった生き方があるさと開きなおることにした。

再就職はむずかしかった。同じ経理をめざしても経験が浅いことと、「どうしてやめたのですか？」という問に、適当な理由を言えない私は、印象

を悪くしてしまう。

生活費に困る頃、友人が仕事の話をもってきた。

小さなテナントの店。仕入れから販売まで一人でする仕事だった。事務しかしたことのない私は、サービスマンができるのか、自信がなかった。しかし、他に仕事もなく、とりあえずの精神でトライした。

実際の商売はむずかしい反面、おもしろいことに気がついた。これまで扱ってきた紙面上の金銭のやりとりが、肌で体験できることを知った。

値率とか、利益とか、やればやるほど実感できた。

取り引き先の人達に、「女にしとくにはもったいないね」と言われると本当にうれしかった。仕事上で頑張れば、男も女もないのかもしれない。仕事に男女の差別感があるのがおかしいのだろう。

企画、イベント、プラスになることは積極的にやる。損をして得をする商売のコツも学んだ。そして、私にも部

下ができた。でも上司だからと肩を張るつもりはない。

同じ職場で戦う戦友なのだから。自分でできることは人に頼らないで、今までどおりの私でいたい。

職場は、人で決まる。良くも悪くも人しだいである。上司は部下の手下であるべきで、仕事に甘えは許されない。

女には、体力的限界があるかもしれないが、仕事をする熱意に変わりはない。

男だから女だからという前に、同じ人間としての目を育て、等しく見守る心をもってほしいと思う。

私の経験では、本当に良い上司は、常に冷静できびしい態度をしている。昔はそれに気がつかなかった。とかくそんな上司は、けむたがられているものだ。

でも部下にいい顔をしないとしても、いざという時、部下を全力で助けてくれる。自分の立場よりも、部下の立場を優先する。

また、出世コースからはずれている人に、良い上司を発見することがある。

そんな人は、実に気持ち良く仕事をしている。目先の営利、欲にとらわれず、マイペースで仕事をしている。けして無理がない。無理がないから、人に命令をしない。人に甘えることがない。

タバコ一つぐらい自分で買えない上司を誰が認めるだろうか。女をただのお茶くみ娘と思っている上司のためになぜ、貴重な休日を犠牲にしなければならぬのだろうか。

若い頃、私は馬鹿じゃないのかと、職を失ったあの事件を思い出すたび、心の中に、悔しさが渦巻いていた。だが、年を重ねて、自分が責任のある立場になった時、自分の事は自分でする、その当り前の事が基本ではないかと思う。

職場は人で決まる。良い人間関係を築きたいと願っている。

二人の課長

横浜市緑区 二田サキ（62歳）

私は昭和四十二年に埼玉県川口市にある機械製造会社に入社した。その時点での上司は賀来課長だった。が間もなく、もう一人神川という男性が他社から入社し、課長として着任した。

神川課長の横顔

私達部下は二人の課長に仕える身となった。新任の神川課長は、入社早々短気で気性の激しい所を見せていた。もともと機械の技術者だけに、新しい仕事にはすぐなれた。そして実力を発揮して大いなる活動を始めた。この課の十数人の部下は皆、新課長の鼻息の荒さにおたおたしてしまった。

自信満々で振るまう熱心な仕事ぶりは天下一品である。仕事に厳しい、部下にも厳しい、そして怒りっぽい。ささいな事でも自分が気に入らないとすぐ怒る。こうして仕事をやりこなして自分の地位をしつかり固めた或る日のこと、事務所働いている常務の奥さんと衝突して大喧嘩になり、「あなたは今もう会社をやめてもいっこうにかまわない」とさらりと云って皆をあっと思わされた。

社長の義妹の事をこんな風に言われても、会社としては仕事の出来る人やめられては困るので、何も言えないでいた。こうしているうち仕事はどんどん増え、人手不足で大変だった。

パートのおばさん連中も大いに採用して働かした。

ところがこの課長、若い女の子をとてもやさしく扱って、年増の私達に対してはこつぴどくどなりつけるのである。パートのおばさん達はそうした上司には仕えきれず、一人やめ二人やめしてとうとう五、六人がやめていった。だから職場は大変だった。仕事は増える、人手は不足でにっちもさっちもいなくなっていた。そこで何人かの正社員だけで残業を重ね、製品の納期に間に合わせるために必死だった（プレス機械を製造しているのが第一製造課で、そこで出来た機械を使って、ある貴金属会社の下請けとして電気製品の部品を作っているのが、私達が働いている第二製造課であった）。

そんな或る日私が残業で働いていた時、小さな部品の組立て方がのみこめなくて、四苦八苦していた。それを課長が見て「何まこまこやってんだ、こつちに貸してみろ、これはこうやるのだ」と云って私に手渡した。私はす

ぐその指示通りにしようと思つてやつてみた。が、どうしてもうまくゆかずはらはらしている。「お前こんな物も出来ないのか。駄目だお前は、ニワトリ以下だ」と言つてどなりつけられてしまった。

私はそこまで言われてカーッとなつて、何もかも捨てて逃げだそうかと思つたが、そこでふーっと一呼吸して、待て待てこんな事くらいで今会社をやめたら、明日の米代に困る。アパート代が払えない。第一弟に御飯を食べさせられなくなると思い（私は故郷を離れて弟と二人で暮らしていた）、悲しい思いを胸にしまい、とにかくこの会社で働かなければと何とかその場をもち直した。

まるで針のむしろに置かれているみたいで辛い毎日だった。こんな生活を続けて何年か過ぎた頃、その課長は妻子ある身で部下の若い女の子と恋におちてしまった。毎日の行き帰りを、その女性と共に行動するようになった。朝は同じバスに乗り、途中喫茶店に寄

りコーヒーを飲んでから会社に来るのである。

だから毎日が二人揃つての遅刻出勤である。そして会社がどんなに忙しくても、残業してくれと強くなったのまれても、絶対に残業はしなくなった。二人揃つて定時でさつきと帰るのである。朝のタイムカードには、バスの延着で遅刻したようにみせるため、毎日バス、バスと赤ペンで自分で書きこんでいる。こんな二人の行動に、会社も腹を立てざるを得なかった。

そこで社員の昇給の時期が来ても、他の社員は昇給させたのにその課長と彼女だけは、昇給をストップしたのである。さすがに図太い課長も参つたのか、辞表を出して追われるようにやめていった。

そんな事があつて何日か経つた頃、私の仕事をしているそばに会長が見えて「神川さんやめたんだつてね、よかつたね」と一言言つてくださった。私はこの課長にはずい分いじめられていたので、会長はそれをちゃんと見て

分かつていくでござつたのだと思ひ、思わず涙ぐんでしまった。

賀来課長の人柄

ところで賀来課長は営業が専門だが、第二製造課の手助けとして働いている人である。会社側にも信頼が厚く、十年も前からこの会社で働いている人だった。温厚な人柄で、私はこの会社に入社して七年半仕えてきたが、その間一度でも怒つた顔を見た事がなかった。部下には優しく、思いやりを持ち、面倒見が良く大変好かれていた。或る日賀来課長と組んで作業をしていた最中、板切を使って箱を作つていた課長のそばに行つた時、私はすつと足をすべらせ、課長の使っている板の上によろけて、ふんづけてしまった（何しろ六十二キロの体重でふんづけたので、板もたまつたものではない）。その瞬間板はばりばりつと音を立て、丁寧にも三つに割れてしまった。あつ、どうしようと思つたが、も

う間に合わなかった。課長は「ありやつ」と言ったきり笑い出した。私も見事に碎けた板切を見て、謝まるのも忘れて大声で笑ってしまった。二人とも声を合わせて大笑いとなった。そ

のあとで「すみませんでした」と謝った。課長は怒りもしないで唯にここにしていた。ほんとうに心の広い人だなあとつくづく思った。

賀来課長の住居は会社の留守番を兼ねて、会社の敷地内にあった。作業する者にとっては中々都合であった。或る日曜日、私は急ぎの仕事を頼まれ、一人で休日出勤していた。その



時、明朝納品しなくてはならない品物なのに、作業の面でどうしても分らない事がおこり困ってしまい、課長の奥さんに相談してみた（この日課長は久しぶりの休日で映画を見に行つて留守だったのである）。奥さんは機転をきかせ、その映画館の電話番号を調べて、映画を見ていた課長を電話口に呼び出してくれた。私は早速用事をすませ、どうにか明朝の納期に間に合わせる事が出来た。

また或る日、私は早出勤を頼まれ、朝五時に出社して働いていた。一生懸命に製品を造り、何とか完成する事が出来、ほっと一息ついていた。すると課長の奥さんが、おいしい朝食を作つて持つてきてくれたのだ。まるで私が朝食を食べてこなかったのを、見抜いていたかのように、すてきなタイミングであった。

働いたあとのその朝食は、ひときわおいしかった。思いやりのあるこの課長御夫妻の温かさが、まるで母親のように私の心にぬくもりを与えてくれ

た。奥さんは、もとはこの会社の女性グループの、リーダーシップをとつていた人だった。二年前課長と職場結婚をして、幸せに暮らしていた。この奥さんは会社でもベテラン中のベテランで、後輩への面倒見が良く夫婦揃つて人に好かれるタイプであった。

対象的な二人の課長を描いてきたが、見方によつては神川課長のように仕事は抜群で、男らしいのを美点と見る人もいるかも知れないが、どうしても部下にはけむたがられ、嫌われるタイプである事は間違いではなからうと思ふ。

それに引き替え賀来課長は、技術の面では一寸神川課長には負けても、人間的な面では誰にも負けない所が多くある。

私達が気持ち良く働けるふんいきを作ってくれるのもこの課長であり、多くの部下に好かれる人柄であると思ふ。

（え・小沢恵子）

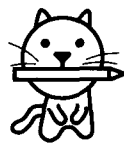
算数・数学を教えてみませんか

子どもたちが、算数・数学を楽しく学ぶことができれば……と考えたことはありませんか。

これまでの数学教育は、子どもたちの知的好奇心を十分満足させてきたとは思えません。

「量」と「水道方式」による、当会の教材を使つて子どもたちに算数・数学を教えてみたいという人を求めています。教材の内容・指導法その他について講習会を開いています。開設後のフォローも万全です。国語・英語教室も開けます。資料送ります。

方式による、
水道方式の系統的な教材
丁寧で知る喜びを
学ぶ楽しさを
大切に



おかげさまで30年

〒160-0022 新宿区新宿四―一―三三―七F

数学教育研究会
〇二二〇―四二二〇―五三二

数学顧問：前明治大学教授 銀林 浩
国語顧問：大東文化大学教授 鈴木康之

どういう子に育てたいですか

円 より子 著



円 より子著
主婦と生活社
本体1200円+税

「何の被害者意識も恨みも持たず逆に私を支え続け、私に幸福だけをもたらしてここまで大きくなってくださいました」と振り返る。

子どもと出来るだけ一緒にいたい気持ちから、娘を講演旅行に同行させる。

移動中の新幹線で、「ママおやすみしないで」という娘に、「寝てないよ、あなたが出してくれたなぞなぞは難しいから、目をつぶって考えなくちゃ」とさりとかわす。

少ない睡眠時間を補おうと、数秒の間、目を閉じて疲れを癒す母の心は、娘への愛情で溢れている。

子どもとの距離が近すぎて、我が子を自分の所有物のように錯覚しがちなお母さんが多い中、著者のような多忙な母は少数派なのかもしれな

い。

けれども、子どもを尊重し、向きあう姿勢は、どんな母親にも通じる大切なものではないだろうか。

仕事を持っていても、離婚していても、お母さんが明るくいキイキと前向きであれば、子どもは自分の力でその寂しさを乗り越えてくれる。

どんなに忙しい時でも相手を気づかい、思いやることを忘れなければ、よい親子関係は築いていける。

大変だ大変だと言われる子育ても、ちょっと考え方を変えてみると、驚きと発見の連続であり、育児って面白い。などなど様々なメッセージをこの本は送っている。

著者のバイタリティと発想の新鮮さに「へえー、こんな育て方もあるんだ」と驚かされることだろう。

東京都日野市 神名 舞

超多忙な中、体を張り、頭をフル回転させながら、子どもとの時間を独自のやり方で作り出す、円流育児法。

乳幼児期を中心に、仕事と子育ての狭間で揺れ動く胸の内を、軽快なタッチで描いている。

「私の人生はね、ずっと待つ人生だったわ」。九歳の娘にこう宣言されてしまった著者。

秋風に揺れて

東京都足立区 須賀まり子

先日、秋雨のそほ降る中、神奈川県の本厚木という所にK先生を訪ねることになった。地下鉄からJR、さらに小田急線の急行へと乗り継ぎ、片道二時間余り。杖を必要とする私の足には少々長い距離だが、十年振りの再会は喜びもひとしおで、足取りは軽かった。

K先生は循環器の開業医で、十年前までは都内の大規模病院に勤務していた。十四年前、私が膠原病の全身性エリテマトーデス（SLE）と診断され入院した時、一番最初に診療に当たってくれたのが先生だった。一生治らないと言われるこの病気との向き合い方を、ただ途方に暮れる私に、厳しさと温かさを持って懇切丁寧に教え導いて下さった方だ。

長引く入院に、夫の心が私から離れ、他の女性に走った時も、「折角ここまで頑張ってきたんだから……、もう少しだから」と、私の精神的ダメージを気遣い、夫を諭してくれたのも先生だ。医学的なことだけではなく、精神的なケアも含めて患者に接する先生の姿勢に、私は信頼を深め、頼り、尊敬の眼差しを熱くしていた。

退院してからも、外来で担当の先生に聞けなかったことを電話で伺ったり、病状に不安を感じるとつい頼りにしてしまっていた。

開業医となられてからは、ばったりお会いする機会もなくなってしまうが、やはり、大きな病変が現れ

ると、どうしてもK先生の顔が浮かんでしまう。四年前、「大腿骨頭壊死」といって、治療薬の副作用で歩行障害が現れた時もそうだった。すがる思いで電話をすると、整形の先生にこれこれこういう薬を出してもらいなさい、とアドバイスをして下さった。それまで、ただ、湿布薬の処方のみだったのが、その薬のお陰で随分と痛みが楽になり、快方に向かった。もし、その一言がなければ、今頃、私の足は人工骨頭に替わっていたかもしれない。

「苦しいときのK先生頼み」

今回訪ねることになったのも、七月頃からずっと体調が勝れず、不安を抱いていたことだ。四肢の筋肉に痛

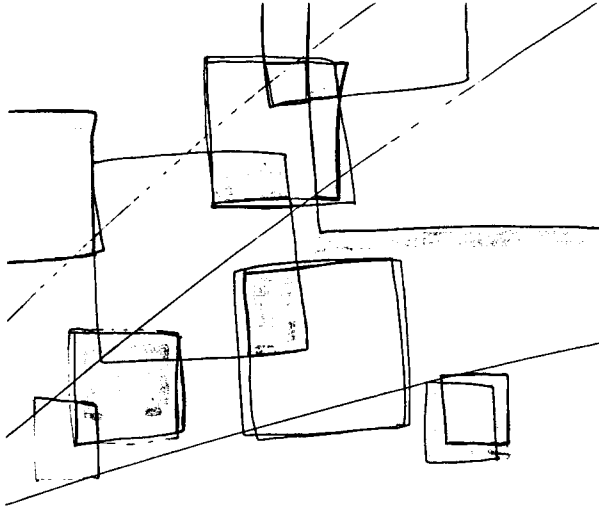
みが起こり、体が強張ってくるという、SLEの症状が治まらない。担当医は、悪ければ治療薬のステロイド剤を増やすと簡単に言う。私としてはなるべくなら、数知れない副作用のあるステロイド剤で、これ以上体を痛めつけることはしたくない。その辺の見解の違いも、大病院の三分間診療ではゆっくり話すことも出来ず、先生方も検査結果を見て処方箋を出す、という一連の診療をするのが精一杯といった様子だ。患者としては膝を突き合わせて、先々のことも含めていろいろ話をしたいが、現実的には叶わぬ話で、ついまたK先生を頼ってしまった。

本厚木に着くと、雨はすっかり上がり、薄日まで射



す爽やかな秋空が広がっていた。今日は週の真ん中、ウイークデーだが、K先生のクリニックは休診日だという。ゆつくり話ができるようにと、わざわざ大事な休日のひとときを割いて下さった。

十年もお会いしていないと、先生も歳を取り、私も歳を取り、お互い見分けがつかないのではないかと心



配したが、改札口でキョロキョロと辺りを見回しながら待っていると、人の流れの中に先生の姿をすぐに見つけることができた。髪はかなり後退したものの、痩せ型の体型は昔のままで、シャープだった頬の線はややふっくらされた感じもする。

「やあ」とにこやかに歩み寄る先生に、「お久し振りでず」と私は頭を下げた。

「看護婦さんが『かつらを被っていかないと分からないんじゃないですか』って言うんだよ。ひどいよね」ぼやく先生に、つい私は声を上げて笑ってしまった。

「須賀君は変わらないね」。シワの増えた自分の顔を思い、気恥ずかしさを覚えながらも、悪い気はしないから私も単純だ。しげしげと見つめる先生の目元は、相変わらず温かく濁りが無い（あの頃と同じ目だ……）。十年の時の流れが嘘のように思えた。

時刻が昼時とあって、まず、どこかで食事を、ということになった。「何が食べたい？」と訊かれたのだが、緊張感のせいか、私としては食欲が今ひとつ湧いて来ない。そこで、さっぱりとしたお蕎麦でも、とりクエストを試してみた。

「お蕎麦？」先生はすこし考えると、

「じゃあ、小田原に美味しいお蕎麦屋さんがあるから、そこへ行こうか」

「えーっ、小田原ですかー？」私が驚きの声を上げる

と、

「ここから小田原は近いんだよ。車でだいたい三十分位だからね」

そういえば、友だちに本厚木への行き方を電話で訊いた時、少し先はもう小田原よ、と確か言っていた。すごく遠くへ来たような、また近いような、不思議な感覚に襲われる。

駅近くに止めてあった車に乗り込むと、小田原、箱根は生活圈という先生のハンドルに身を任せ、私はどこかドライブ気分になっていく。東京の雨が嘘のように青空が広がり、窓ガラス越しに射し込む日差しは、紫外線に弱い私には痛いくらいだ。交通量も驚くほど少なく、まさにノンストップ状態。遠出などすることのない私は、久々に行楽気分を味わうように、周りの景色に眺め入っていた。

「で、どうなの病気の方は？」

（あつ、そうそう、その話をしに来たんだ）現実引き戻されるように、この夏からの不安定な状態や、いくつかの合併症が現れてきたことを話し始めた。しかも、その合併症が治療薬のステロイド剤が引き起こしている可能性もあるので、そのことも心配で仕方ない。

とにかく、この病気は長く付き合わなければならぬので、体を痛めつけるやり方ではなく、余計な副作用

用を引き起こさない方法を見つければいいと思う。K先生は西洋医学だけでなく、時と場合によっては東洋医学も、と考える人なので、その方向からいろいろな教えてもらいたいと思っていて。

「血液検査のデータは、向こうに着いたら見て上げるからね」用意してきた検査データをゆっくり分析してくれると言う。

いろいろ話をするうちに、聞いてもらえたというだけで気が済んだのか、私の中の不安がだんだんと遠のいていくかのようにだった。

ひと通りの話が済むと、もう車は小田原へと差し掛かっていた。FMラジオから流れる音楽が、話の途切れた空間を埋めてくれるかのように車内に静かに流れ、私は窓の外の景色を追いかけながら耳を傾けていた。その暫しの沈黙を破るように、先生はほそりと話した。

「離婚してね……」

（えっ？）私は一瞬、息を飲み込んだ。

「まーた、先生、何か悪いことしたんじゃないですか」ハンドルを握る先生の横顔を盗み見ながら、わざとちゃちゃを入れた。

「ハハハハ……」先生の苦笑気味の笑い声は空虚な響きを放っていた。

八年前、私も離婚している。SLEを発病して六年

目のことだった。夫婦が離婚に至るまでの苦悩や葛藤は、嫌というほど味わってきたつもりだ。それ故に、先生の落ち込みそうになる気持ちを紛らわそうと、反射的にふざけた言葉が口を突いて出た。

「大学病院にいた頃、白血病の患者さんを一度に五人も抱えている時があつて……」

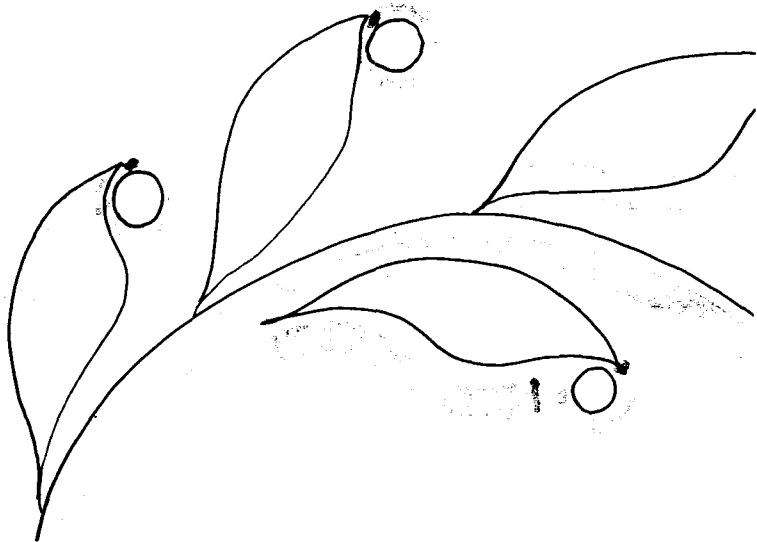
多分、私が入院していた頃の話だと、ピンときた。

「あの頃は、何日も家へ帰れなくてね……。どの患者さんも、いつ、何が起きてもおかしくなかったからね」

思い起こせば、確かあの頃、回診に来るK先生の顔は青白く、頬はげっそりとこけて、痛々しいほどだった。「先生の方が私より病人みたいですよ」とからかうと、「そうかもしれない」と力なく笑っていた。「何しろ、今、重症の患者さんを何人も抱えているから……」と疲れた表情を取り繕うこともできない様子だった。

大学病院というところは、医師三人位が一グループとなつて十名前後の入院患者を診るシステムになっているらしい。その三名の構成も、フレッシュマンといつて医師の免許をもらったばかりの若い先生と、当時のK先生のような中堅どころ、さらにその上の先生、とバランスを考えてある。

が、事実上、多くの責任が被さってくるのは、中堅



の先生のような。はつきりいって、若い先生はまだ臨床経験が浅すぎて何も分からない。片や、トップの先生は外部の病院へ出ることが多いのか、とにかく忙しくて病棟にはあまり顔を見せてくれない。私の担当のトップだった先生は、入院二カ月目にしてやっと診察に来たくらいだ。そんな先生もいるほどだから、結局、K先生のような立場の人の肩に掛かる責務は大きい。

それに加えて、先生の医療への熱意は人一倍で、「どうしてこんなに一生懸命なんだろう……」と思うくらいだった。

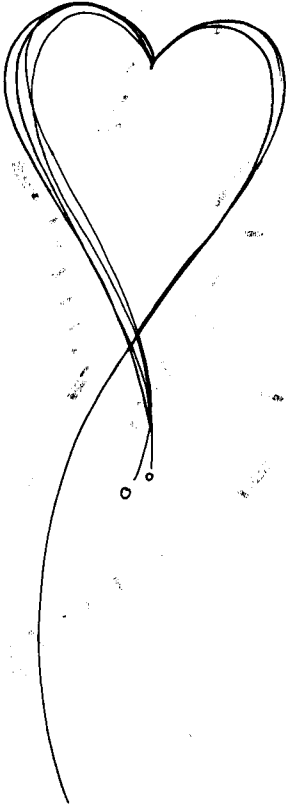
普通、回診というと、多くの先生方は軽く聴診器を当て、脈と血圧を計り、簡単な話をして病室を出て行く。だが、K先生は、病気の説明から食事のこと、薬

の副作用のこと、あらゆる話を事細かにしてくれ、また、質問をすれば時間など気にせずとことん答えてくれた。患者本人が自分の病気を把握し、きちんと向き合うことが出来るように、との考えがあつてのことだ。「病気を治すために僕等が出来ることは五〇パーセント。後の五〇パーセントは患者さんの生命力と病気に対する姿勢だ」と力説していた。

医学的な面だけではなく、精神的ケアにおいてもおろそかにすることはなかった。

ある日、同じ病室の五十歳になる女性が興奮状態に陥った。独り暮らしの彼女は、早く退院しないと会社を首になってしまう、という焦りからヒステリックになっていたので。

「早くどうにかして！」と口角に泡を飛ばし、ぎゃあ



ぎやあまくし立てる彼女の話を、先生は腕組みをしなからじつと聞いていた。大概の先生なら、適当なところで話を切り、病室を出ていくはずだ。なのに、K先生は彼女の気持ちが落ち着きを取り戻すまで傍を動かうとしなかった。そして最後に、今、これこれこういう治療をしているので、もう少し時間をください、と言つて頭を下げるのだった。あの頃、先生は三代半ば。五十歳の分別盛りの彼女をなだめすかす様子は、見ている者さえ辛くなるほどだ。

私が退院してしばらくした頃、私たち夫婦と先生御夫妻とで食事をする機会があった。思い起こすと、その席で奥様がこう言っていた。「うちは母子家庭と同じなのよ」。私たちの前でそんなことを言っているのだろうか、とひやひやするくらい、皮肉のたつぷり込められた物言いだつた。当の先生は言葉返すこともなく、軽くテーブルに視線を落としたまま、そつとビールグラスを傾けていた。

病院での先生の姿を見てきた私は、奥様に責められる彼の辛さは察するに余りがあつた。反面、彼女の言いつても当然といえば当然な話で、夫として、父親として、家庭の中で必要としている時は多々あるはずだ。傍において欲しい時にいてくれない寂しさは、一番こたえるであろう。

それにしても、私たち夫婦の危機に心を砕いて下

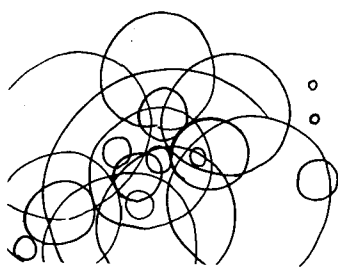
さつた先生が、御自身、あの頃から胸の奥底に深刻な悩みを抱えていたのかと思うと、言いしれない思いにかられるのだった。

本厚木のクリニックに、以前、出張で行つていた山梨の病院から当時の患者さんが通院して来ているという。私同様、確かな腕と医療へのひたむきさに打たれ、信頼を寄せている患者さんは少なくない。貫いてきた医師としての確固たる信念と頑張り、充分な実を結んでいる。だが、その一生懸命さは、家庭を犠牲にし、家族を遠ざける結果となつてしまつたのかもしれない。先生の離婚は、私の胸の中にズシリと重いものを残していた。

小田原城址公園を左手に眺めながら、車をゆっくり走らせていると、反対の右手に先生お勤めのお蕎麦屋さんが見えてきた。低い生け垣に囲まれた、一見、普通の民家と見まがうような構えで、「商い中」の小さな札がガラス格子戸に控え目に掛けてある。

私たちと入れ違いに一かたまりのお客が店を出て行き、ピーク時を過ぎた店内は一組の客を残すだけだつた。いぶされたような黒ずんだ木肌のテーブルと椅子が、古めかしくも落ち着いた雰囲気を醸し出している。

窓際のテーブルに席を取り、注文を済ますと、「検査データを見せてごらん」と先生に促され、私は検査



表を差し出した。

「腎臓の方が随分いいねー。良かったね」

データを一寸見るや、先生は驚きの声を上げた。

入院当時、この腎臓の治療が難航し、ステロイド剤だけでは思うような効果が得られず、抗癌剤を併用してやっと快方へと向かったのだ。そこまで徹底した治療をした裏側には、子どものいない私に、せめて一人だけでも産めるようにしてあげたい、という先生の親

心があつてのことだった。結果的には産むチャンスは巡って来なかったが、それでも透析に至らずにここまですで来られたことは、不幸中の幸いと今では思っている。

「全体的にデータは悪くないから、そう心配いらなと思うよ。後はステロイド剤を減らしていけばいいんだけどね」

悩みの種の筋肉の痛みなどは、漢方的に日常の食材の中で抑えることもできるという。例えば、シヨウガ湯の中にクズ粉を入れて飲むとか、ハトムギなども痛みを鎮める作用があるらしい。筋肉を弱らせるステロイド剤はとにかく減らすに越したことはない。

食事を済ませると、外はポカポカと上着もいらなくらいの暖かさだった。

「この先に、ススキで有名な仙石原という所があるんだけど。そこを回って帰ろう」

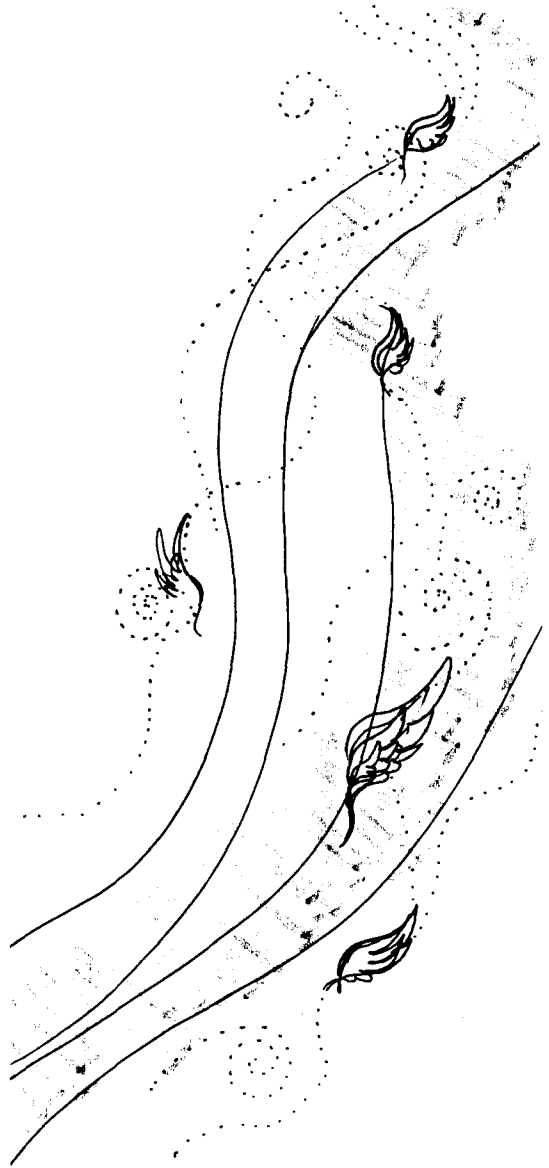
「はい」

先生に「大丈夫？」と言われても、私の返事は弾んでいた。

春には千本のソメイヨシノが咲き誇るといふ城址公園を後に、車は小田原から箱根路へと入り、一路仙石原へと走り出した。

「僕が循環器を選んだのは……」

カーブの多い山道を、巧みにハンドルをさばきなが



ら、先生は医師を志した頃の話語り始めた。

循環器というのは、いつ、どこでも、どんなに設備の乏しい所でも、聴診器一本で診療できるのが特徴であり、魅力だという。そのためには、自分の耳で内臓の音の善し悪しを聴き分ける腕が当然必要なわけで、その腕を磨くために必死になっていた大学病院時代、少しでも多くの症例を経験するために、当番でもないのに居残り、当直の先生と一緒に深夜の急患を診ていたこともよくあったそうだ。

自分の聴診器での診断と、検査で出た結果とが、どれだけ合致しているか、それを同僚同士で競い合うような、そんな研究心に溢れた雰囲気医局の中に流れていたという。

例えば胸が苦しいといっても、その原因は心臓とも肺とも考えられるわけで、同じような症状であっても、それがどちらから来るものなのか、まず最初に分けるのが聴診器の力なのだ。その一時の診断を間違えたと、手遅れとなることだってある。近頃では、聴診

器を減多に当てない医師が多くなつたと、長い年月通院している患者としての目から見て、その傾向にあることを実感している。聴診器や触診どころか、某有名大学の超多忙な教授は、患者の顔さえ見ないというから、もう言葉もない。K先生のように医師としての基本姿勢をプライドとする人は、少なくなつてしまったのかもしれない。

先生は以前、無医村のような所に行きたいと語っていたことがあつた。今の本厚木のクリニックもこじんまりとした、町の診療所といった雰囲気のだ。いつもそこで患者さんの話にじっくりと耳を傾けながら、診療を続けている。「僕の話もたまには聞いてよ、と思う時もあるけどね」と先生は笑つた。

独り暮らしのお年寄りが多くなつた昨今、「診療所が休みだと、不安で不安で」とおじいさんおばあさんと言われるという。すっかり頼りにされている様子が窺える。大変そうではあるが、そんな話をする先生の口振りはどこか嬉しそうだ。

車は、宮の下の有名且つ豪華な富士屋ホテルを通り過ぎ、宮城野温泉を抜けて仙石原へと近づいていた。辺りの山々はまだ紅葉にはわずかに早く、緑をたたえたままだった。

先生の話に聞き入っていると、やがて、目の前に一面のススキの原が姿を現した。群生する花ススキが秋

風に身を任せ、ゆるやかな曲線を描いて波打つように揺れている。

車を止め、引き寄せられるように眺め入っていると、飾り気のない彩りの中にも、光沢のある花穂の美しさに胸がきゅんと締めつけられる思いがしてくるのだった。

「人生は五十からだからね」

先生は突然そんなふうに呟いた。それはまるで自分への励ましのものであつた。

十一月でちょうど五十歳の誕生日を迎えるという。ひたすら走り続けてきた医師としての人生に、何かひとつつけじめをつけようとしているような、そんな特別な意図が含まれているかのように聞こえる。

今まで何人もの先生に御世話になつたが、K先生のような医師には、まだ二人とお目に掛かつていない。もし、私の病状が最悪の事態になつた時には（輸血から肝炎に感染して、それがいざれ肝癌に移行する可能性が大）、大病院を離れ、最期はK先生の元で治療を受けたいと思つている。最新の医療機器よりも、医は仁術」を選びたい。（だから、先生。辞めたりしないで下さい）遠くを見つめる先生の横顔に私は思わずそう叫びたくなつた。「行こうか」花ススキがまた秋風に揺れた。

(え・Jeanine)

家族の スケッチ

区議会議員の娘

東京都目黒区 くわしいともみ

私が小学校の時の春、父が初めて選挙に出た。地元近くの知り合いのお寿司屋さん所有の空き室を選挙事務所として借りた。

私は選挙というものをその時あまり知らずにいたが、同じ年の二月頃から、私の父の顔写真入りのポスターを町中でみかけるようになったし、家にも束にして丸めたポスターの在庫があった。

そして事務所開きの日は背広を着た人がいっぱい集まり、私と妹は少しよそ行きの服を着せられた。母も少しおしゃれをしていた。そして時間がくると、父は台の上に乗る、母、私、妹は父がみんなの前で挨拶をしている横に並ばされた。

父と母は、選挙期間中、朝早く事務所へ出かけていってしまうので、すぐ隣に住む親戚が朝などに様子を見に来

てくれていた。

私の父は、自動車関係の会社に勤めるサラリーマン。組合の後押しもあり、初めての選挙で二位当選だった。

区内で、当選は確か五十五人いて、二位だったので子供ながらにとっても凄いことだなあと思った。

当選して事務所内は花、お酒でごった返していた。お手伝いの人のタバコがなくなると、誰か買いに行こうかという時に「私が行ってあげる」と率先して行った。近くのタバコ屋に行き注文する時いつもより胸を張った。胸元に着いている小学校の名札をわざと見せるためだ。案の定お店の人は「あら、〇〇さんの娘さん？ 当選おめでとう」と言ってくれた。

それから後、父は二回当選した。三期十二年、区議会議員をつとめた。

地元では、小学校のPTA会長や役員を引き受けたり、いろいろな地域活動でメンバーに選ばれる。父と私は、家ではあまり話したことがなかった。でも父は外では、とても社交的であ

り、演説も含め、話がとてもうまかった。ついでに歌もうまいのだが。

父が選挙に当選しておのずと私も「あの子、○○さんの子だね」というように顔が知られてくる。母からは、「絶対変なことしないでよ」とよく言われたものだ。

私と同じ学年に、父のライバルの息子もいた。その彼と同じクラスにはなつたことがないが、選挙が近くなつてくると、学校の廊下で出会つたりするのもなんだか嫌なものだった。

その地元地域では、私の父、その同じ学年の子のお父さん以外にも四人候補者が居るといふ、区内では稀にみる激戦区だった。

四回目の選挙は私も成人して社会人になつていた。そのため私の友人はもとより、小中高の名簿で住所をひろい、選挙用のハガキを何百枚も書いた。会社も数日休んで事務所内の手伝いもやった。

「やってみる？」とアルバイトのウグイス嬢に言われて、少しだけだがウグ

イス嬢をやらせてもらった。白い手袋、スタッフお揃いの青いTシャツとサンバイザー。選挙カーの中からちよつとでも人が見えたら、顔を引き締め皇室スマイルと手振り。

区内の地元近くになると私のことを知っている人も多いということ、アウンズが私に代わつた。

「地元○○（場所名）、地元○○の皆様。お騒がせして申し訳ございません。私の父、○○○○には是非一票をよろしくお願いいたします」とはじめのうちは言っていたが、絶叫スタイルを同情されるのではと考え、少し感情を入れすぎというぐらいにアウンズもしてみた。父の名前を連呼しなくてはいけないのに、同じ苗字のせい、自分の名前を間違えて言ってしまったことも一回だけあった。

しかし結果は落選。
あと三百票弱の差で、あと二人追い越せば当選であつたのに、だ。とても残念だった。私の友人知人たちの多くが選挙に行つてくれたと信じてい

るが、忘れて行かなかつた人もいるだろう。もしその人たちが選挙に行つてくれていたら私の父は当選していただろうか。

選挙の開票の日、会社から家に電話すると母が出て、「まだ結果がわからないみたいだから」と言った。会社から帰る間際にもう一度電話するのも面倒なので直接事務所に寄つて帰ろうと思つた。近くまで行つてみてもなんとなくひっそりとしていて、ああこれはダメだったんだなあと思うわかつた。事務所はシャッターが閉まつていて、中にはもう人が居ないようだ。大きな張り紙に「大変お世話になりました。ありがとうございます」とだけ書かれていた。

心にポツカリ穴が開くと言う慣用語があるが、あの時はまさにそんな気分だった。落選して父はこれからどうするのかなああと、ぼんやり考えながら帰り道を歩いた。

父は結局、その後はもとの会社に戻り、昨年の五月に定年を迎えた。現在

は、やはり地元のお祭りの実行委員長や、地域の活動に参加しながらのんびりと過ごしている。

夫の趣味

和歌山県和歌山市 金田典子(40歳)

夫の趣味は受験勉強である。決して何かの資格に挑戦しているわけではない。勉強している科目が、数学や物理、化学なのだから。大学時代はゴルフ部に所属していたと言う。スキーも二級の腕前だと聞く。しかし夫は、日がな一日数学の問題に取り組んでいる。

夫は外科医である。外科系は明るい！と思つて結婚したが、案外クライ夫である。なぜ彼は数学の勉強に目覚めたのか。

それは十年ほど前にさかのぼる。私の実家に入入りする毎に私の勉強部屋で本を物色していた夫が、手にしたの

は私の高校時代の数学の参考書だった。案外解けたり、思い出したりで、まだまだいけると実感したんだそう。例えば大学時代、級友に提供できなかったのは、教養時代の数学のコピーのみだったという。いつの頃からか、買い物等で一緒に外出しても、夫は必ず数学の問題集を持って付いて来るようになった。喫茶店に入つて待つでもなく、夫は車の中やベンチで、何時間でも問題を解いて待つ。問題集さえあればちつとも苦痛ではないそう。仕事で深夜に帰宅しても、必ず夫は勉強してから寝る。就寝の時になかった夫が、朝になると問題集枕に眠りかけている。大学受験の時、もつと勉強しておけば良かったのにと悔やむ夫である。

五年ほど前からは、毎年の大学入試センター試験を欠かさず解くようになった。だから一月の日曜日、彼はとも忙しい。いつの間にか英語、物理、化学等にも手を広げて、夫の本箱には数々の参考書が並ぶようになった。

た。圧巻である。

最近では、なりたい職業を塾の講師とのたま、息子には理科系の研究者になつて欲しいと切望する夫である。

なぜ勉強するのかと聞くと、何よりも面白いからと明言する。だから私は時々憎たらしく思う。以前何かで口論になり、夫の問題集をゴミ出し場に出してやったら、必死の形相をして拾いに行った。夫は両手一杯の参考書を抱え、これは絶対捨てたら駄目！と言いつつ放った。そんなに大事なもんかねえと白けてしまう妻がいる事に、全く気がつかぬ夫である。

夫の趣味のメリットとは、まず第一に安価である。問題集代はたかがしれている。数学は理解しないと解けないので、走り読みは出来ないから、次々とはい買えない。将来子供に家庭教師が必要となつたとき、自分が必ずや登場すると言う。僕の子育ては十年後まで待つてくれと言う。その頃の親子関係がどうなっていることやらと妻は思う。夫は開業医なので、外に出ていか

ないのはよい。いつでも中断できるから、患者さんのためにも支障のない趣味と言えようか。また、静かであるのもありがたい。

では、妻の思うデメリットとは、非常に個人的な趣味であるため、周りの家族はちっとも面白くないということである。時々化学式や数式など披露したりして、嫌みである。家族を少しは楽しませるような趣味であってほしい



と思う。

メリットとデメリットはあるが、夫はこの先ずっと勉強するんだろうと私は確信している。どんな年寄りになるのだろうか。そして私は、受験勉強が趣味の老人の世話をするのかと想像する。とても、とても先行き暗そうである。そうなのだ！ 夫の趣味をリークしている暇はない。妻も何かを始めなければ。さあ、原稿はそろそろしまつて、プールにでも泳ぎに行こう。ピアノのレッスンもある。私の時間もパワー全開である。

はざまの涙

川崎市中原区 和田美代子

とても不思議な気持ちを味わった。膠原病でさんざん苦しみましたお姑さんを、二月に見送り、葬儀その他一連の行事をすませた九歳年下の妹と、久しぶりに話した時のことである。両親

自費出版は

「わいふ」へどうぞ！

「わいふ」編集部では自費出版の制作をしています。本をお出しになりたい方はぜひご利用ください。

自分史、回想録、旅行記、童話、詩集、歌集、句集、同人雑誌、絵本、コミックまで、何でも作れます。イラストも用意できますし、お書きになれる方のために、聞き書きのまとめもいたします。

費用はモノによりいろいろ違ってきますが、市価よりは確実にお安いです。事情を伺いご相談に応じますので、ぜひお問い合わせください。

ちなみに昨年は、読者からのご依頼により、「続・遙かなる道」、「動物と共にいきいきボランティア」などを制作いたしました。

皆さまも人生の記念に計画されてはいかがでしょう。

が早く亡くなった私たちは、何かにつ
け二人でいろいろ話し合う仲のよい姉
妹である。

そのお姑さんは、享年八十三だった
が、血液の流れが悪く、片方の足の指
はすでに腐食し、歩行が不自由だっ
た。そこへもってきて反対側の足も痛
み出し入院された。医者のおすすめで手
術を受けられたものの、高齢のため回
復力がなく、とうとう亡くなったのだ。

親孝行のお手本のようなご主人や、
義理の姉、妹、弟さんたちがいろいろ
関係するお姑さんとの同居で、妹は相
当大変な思いをしていた。私は姉とし
て彼女のぐちの聞き役をつとめてきた
が、今回は私の顔をみるなり、すべて
から解放されてほっとしたような上気
した面持ちで今迄の経過を語り出し
た。

「ああ忙しかった。これでやっと自分
の時間が持てるわ」

もっとしみり話せばいいのに、亡
くなった悲しさより、喜びに満ちてい
る！」と感じてしまうほど、彼女の声

は弾んでいて、私の方がはらはらして
しまった。

「永いこと大変だったね、これからは
少しのんびりするといいよ」

実の姉として、たしかに最初は心か
ら妹の労をねぎらう気持ちで言ってい
た。私のやさしい言葉に気をよくした
彼女、せきを切ったように生前のお姑
さんとの生活ぶりをしゃべり出した。
今迄何度も聞かされた話がほとんど
だったが。

「うん、うん、そうだったの、そうな
のよね」

私も痴呆症状のあるお姑さんと永く
一緒だったので、彼女の話はよく理
解できた。

彼女は一病息災の原理から言って、
こんな早く亡くなるとは思ってもしな
かったらしい。ただただこんな状態が
永遠に続くように思え、当時は神経が
ほとほと参っていたようだ。ノイロー
ゼ気味だった頃を思い出し、同情のも
らい泣きをしました。この時の涙
は、真正銘彼女サイドで受けとって

の涙であった。

なのに、どうしたことか私は、いつ
の間にか悪く言われているお姑さんの
身になって聞いている自分に気がつい
た。このお姑さんはお元氣な頃、私が
妹の家に行くとなぜか殊の外喜んで迎
えてくださった姿が頭をよぎる。

「もう亡くなったのだから、今迄のこ
とはこれ以上口にしないで、いい人
だった」と思うようにしたら？」

「亡くなくても、いやだったことはい
や、どうしても好きになれない！」

六人もの子供さんをご主人の亡きあ
と、苦勞して育ててくれた母親と一緒
に生活できることを、何よりの喜びに
していた夫には、彼女の苦しみなど知
るよしもない。おふくろは可哀相だっ
た……としか思っていないとのこと。嫁
と姑が同じ屋根の下に住む不自然さを
今更のように再確認する。

「べつに、好きにならなくてもいいけ
ど……」

そのうち、私の目から原因不明の涙
が頬を伝った。「何だろう、この涙」

やがて彼女と話をするのが少々嫌気がさしてきた。ここで、ちょっと自己分析してみる。

私は長男が結婚して早や十年になる。つまり姑の身だ。今、私の前でききとしゃべっている妹と嫁がだぶって感じ、私が嫁にきらわれて苦しんでいる。そして私の死を嫁が喜んでいて、錯覚に襲われたのだ。私は、姑と姉の丁度はざまに立っているのだ！

この微妙な心の動きからの涙ともつゆ知らず、自分本位の彼女、私の涙に気がついて、

「やっぱりお姉さんね、私に同情してくれて、つくづく同じ血のつながりを感じるわ」

と、のたまう。有り難がられた私め、ふつと我にかえる。「そうだ、私は彼女にとって本音が話せる唯一の存在だ。聞いてやろう。聞いてやろう」いっしょか、いい姉にもどっている。そしてぽつんと、

「私も姑の身だから、嫁さんと心してつき合わなければねえ」

と言った時、彼女は一瞬はつとしたよすをみせ、あわてていわく、「お姉さんはいい人だし、思いやりもあるから大丈夫よ。少しやさし過ぎるところがあるから相手にしてやられるかもよ、心配だな」

余りにもいい人って、相手をいらいらさせるとか……。

言いたい放題言って、これからは我が世界とご満悦の彼女をみていて、これって年代の相違かなあ、とすると嫁さんはもつと若い世代だ、桑原、桑原、と思ってしまう。

不思議な涙もいっしょか乾き、二人は複雑な笑みをかわしつづつ別れた。

平行線

東京都八王子市 浅川涼子

夕食後、夫が会社の同僚の話をしていて、ふと思いついたように言った。「会社でも珍しいらしいな。結婚と同

時に親と同居してうまくいく例は。みんな途中でトラブルが続出するようだな」

「あら、我が家が成功例だとも？」

「よく言われたよ。秘訣を教えてくださいないかとね」

「それで、その方法論とやらを得々と話したの？」

私が最大の皮肉をこめて言っても、夫には伝わらないようだ。私は溜め息をついて、つぶやいた。

「馬鹿な私がひたすら我慢をしていたからでしょ。逃げ出しもせずに」

「いや、ぼくが間に入って努力したからだよ。大変だったんだぞ」

私はぼかんとして、まじまじと夫の顔を見つめてしまった。努力した？

大変だった？ 何をこの人は言っているのだろうか。絶句。返答する気も皆無。

私は食堂の椅子から立ち上がって、台所へいった。夫に背を向けて、水道の蛇口をひねった。水音がやけに高く感じられる。食器を扱う手が乱暴にな

る。皿がぶつかりガチャガチャと派手な音をたてた。

私が絶句したのは、夫が自分の両親との同居生活のなかで、私のために両親と戦ってくれたことがあるの、という疑問のためだ。恥ずかしくないのか、ただの一回も私を守ることをしなかつたに……。

十年前に義父、三年前に義母が亡くなって、同居生活は終了したのだけれど、気持ちの整理までが終っているわけではない。

ずっと頭から離れなかった夫の言葉が、ああ、そうなのか、と理解できたのは翌日の午後だった。やっと合点がいった。

夫は嘘をいつているわけではなかったのだ。夫は自分の両親の愚痴、嫁の悪口をせっせと聞いてやり、そうさ、そうだ、と相槌を打って、私がすべて悪いと歩調を合わせていたんだ。なるほど、夫は両親と私の間にたつて大変だったんだ。ふーんと私は妙に納得してしまった。夫は本当のこ

とを言っていたんだ。矛盾など微塵もなし。

私は一人で笑い出してしまった。ケラケラと声を出して笑っているうちに、知らずに涙が頬を伝わった。

私たちは、結婚生活の早い時期から平行路線ですつとやってきた。親を乗り越えていない夫に、夫婦とはかくあるべし、と説いても聞く耳など持たなかった。三者連合は、私の非を暴くことで忙しかった。がっちりスクラムを組まれていたのだから、闖入者である私など、どうにも太刀うちできなかつた。必死の防衛の結果、心を隠すことにたけた。

「Yさんがね。やっぱり別居したよ。」

三年しかもたなかつた。自分の両親と喧嘩して出たらしい」

「えらいわねえ。Yさん。そうでなくっちゃ」

私が褒めちぎっても、夫は気がつきもしない。Yさんにかこつけて皮肉を込めて言っているのに分かりもしない。妻の言い分を聞いて、妻子を守つ

て家を出たYさんの勇氣に拍手を送っているのに。両親と喧嘩もできない夫に、私がまた失望点を加算していることを知ろうともしない。

平行線のまま夫婦でありつづける私の演技力は、ますます冴えてくる。にこやかに本音を言う力がついた。夫は私が冗談を言っていると勘違いしているが、大きな間違いだ。

二世帯住宅を造る

—つらい立場—

横浜市瀬谷区 隅田美幸(39歳)

毎日、暑い日が続いております。四月に貴社のモデルハウスを訪ねて以来、両親の家や我が家に何度も足を運んで頂き、大変お世話になりました。……にもかかわらず良いお返事ができず誠に申しわけございません……。

Hハウスメーカー営業主任殿

七月五日

お詫びの気持ちのビール券を同封しながら、「やっと依頼するハウスメーカーが決まった」と独り呟き、私は肩の力がスーッとぬけるのを感じていた。去年、胃の検診でみつかったポリープがグンと大きくなったような気がする。

私の両親と二世帯で住みたいと言ったのは、夫だった。一戸建てには手が出ない、今住んでいるマンションは五人家族に少々、狭い。そこで彼が思いついたのは、隣りの区に住む私の両親の家を二世帯に建て替えて一緒に暮らすという案であった。

夫は三男坊で父は既に亡く、母は長男夫婦と同居している。妹も私も、家を出てしまったが、いつまでも好き勝手しているわけにもいかないので、ここは彼の気持ちに感謝して、両親と同居する良いチャンスかもしれない。そう思い、二、三年ほど前から父母に相談していた。OKの返事はもらったものの、いざとなるとなかなか重い腰が

上がらなかつたが、「今年は建て替えるに良い年」という親戚の言葉もあって、三月頃から本格的に住宅展示場巡りを開始した。

しかし住宅展示場というのは、やっかいな所である。モデルハウスの中を



見学してアンケートでも書くようなものから、お土産にラップや折紙をくれるのはいいが、その日の晩に営業マンがやってくるわ、電話がうるさく鳴るわ、ダイレクトメールが次から次へと

届くわで、いささか閉口する。

ちょっと気に入って建築現場や入居宅を見れば、無料で設計するというので休日返上して打ち合わせ。二つのハウスメーカーとの交渉を同時進行すれば、土日両方の休日がつぶれ、精神衛生上よろしくない。

そうしていくつか検討するうちに二つのハウスメーカーが残った。

夫は、ルーバルコニー付きのHハウスメーカーのパンフを手にも、「これこれ、これだよ。このルーバルコニーから花見ができる」とうれしそうだ。両親の家の前に小さい公園がある。桜の木が植わっていて春に見事な花をつける。高い所から眺めれば又、一段と美しいであろう。

一方父は、Sハウスメーカーの外壁材を気に入っていた。Sハウスメーカーの外壁材でルーバルコニーが付けば問題は簡単に解決するのだが、高価になりすぎて、手が届かなくなる。

間取りや見積り等、連日の打ち合わせにくたびれた父が帰り際に、

「もういいから、あんた達の好きなようにしなさい。うちは、どっちでもいいから」

玄関で私だけに言い、出て行ってしまったのには大いに参った。本当に困った。どっちでもいいと言ったって、どちらかに決めれば、誰かが諦めるってことなんだから。

幸い父も夫も穏やかな性格で、お互い遠慮して喧嘩になるようなことはない。いや、だからなかなか決まらないまま、ずるずる二つのメーカーを引きずってしまったのかもしれない。

あれこれ悩んだ末、父の土地に我々が住まわせてもらうという立場、最初の段階で、両親と私が気に入ったソーラーハウスを夫が首を縦にふらなかつたために諦めたことを考慮し、今回は夫に譲ってもらおうと考えた。

「今度は、あなたが我慢する番だよ」という私の言葉に、夫はムツとした顔で、

「家造りが、楽しくなくなってきた」と言ったつきり、口をきかなくなつて

しまった。

えーっ、どうしてそんなに怒っちゃうの？ 彼の唯一の楽しみであるルーバルコニーが付かないのは気の毒であるが、大人気ないといえば大人気ない。

ここまできて、どちらかの営業マンにNOを言わざるをえないだけでも気が重いのに、この上、父と夫の顔色を伺いながら、どちらかを説得しなきゃならないなんて……。

父には、「お父さんの気持ちもわかるけど、一緒に住んでくれるという彼の気持ちにも感謝しなきゃ」と言い、夫には、「一緒に住んでくれるなんて、とても感謝してるんだけど……」と言いなながら、嫁と母親にはさまれて悩む男の気持ちって、きつとこんなんだろうナ、とふと思う。

私にしてみれば、SでもHでも大差はない。気に入っていたソーラーハウスは、どうせ建たないのだから。なのに、気がつくとき常に、父、夫、Sハウスメーカー、Hハウスメーカーの営業

マン、四人のうち誰かしらの機嫌の悪そうな顔が浮かんできて、私の胃をいためつける。いい加減疲れてしまった私は、半分ヤケになつてきた。

「誰かが嫌な思いをするくらいなら、しばらく家を建てるのはやめようヨ。時期がくれば、私達にあった良い家が見つかるとは思わない」

演技したわけではないが、夫の前で何故か声が上がらず、涙までこぼれてきたのには、自分でも驚いた。涙にあわてた夫は、そんなにまで思いつめていたのを初めて知ったかのように、「ごめん、ごめん」

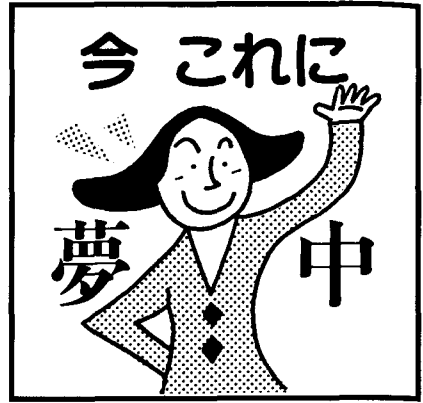
と急に顔が柔らかくなった。

七月四日、

「お父さんが気に入っていらつしやるので、よろしくお願いします」

夫の一言で、Sハウスメーカーの営業マンがニコリ笑い、ハウスメーカー選びに、やつと終止符を打った。父の表情も明るかった。

(え・梅村 葵)



読書会を続けて十八年

東京都新宿区 辻浦知津代(67歳)

今、私の机の上には堀田善衛著『定家明月記私抄』が置かれている。つい四、五日前に読み終えたばかり、頭の中は未だに船酔いに似た興奮状態にある。

この作品は、私の入っている読書会

で次回までに読むよう課せられたもので、ハードカバーの前後二巻もある大長編だ。題名の通り藤原定家の日記である『明月記』を踏み台にして作者の壮大な歴史観が述べられている。

こんな難しい内容のものを果たして最後まで読み通せるかどうか、私には全く自信がなかった。一人で読書を楽しんでいたときだったら恐らく敬遠しただろう。それが小さいながらも読書会という集まりを持ち、仲間同士の励ましや指導助言をしてくださる先生のおかげで、何とか読みこなすことが出来たのだ。

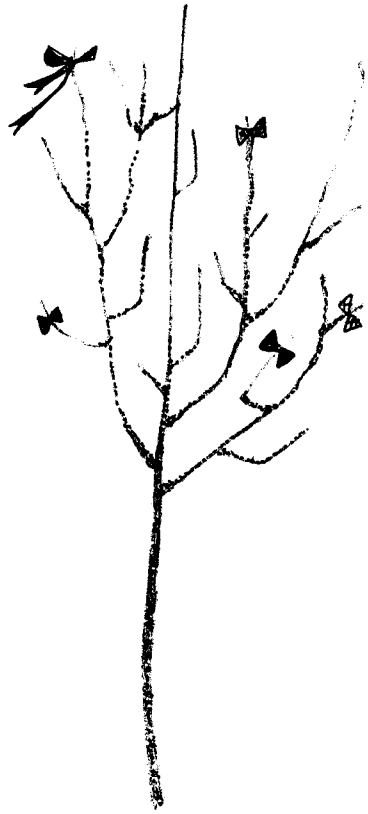
そもそもこの下落合読書会が生まれたのは、一九八〇年の春だからもう十八年も前のことになる。七〇年代日本中に巻き起こった学園紛争が、都立高校にも飛び火して教室が荒れた時期、教師と親たちも立ち上がって各所に教育懇談会なるものが出来た。その流れの一つの戸山教懇がこの読書会の前身である。当初のメンバーは約三十名、講師には以前戸山高校の国語教師をさ

れたことのある米田清一先生にお願いして、その先生の主宰する教育研究所の一室をお借りして発足した。

母親たちの勉強会という出発だったので、初めの頃は「近代日本文学の中に見える女性の生き方を探る」というテーマを立て、第一回は樋口一葉の『十三夜』を取り上げた。そのうちにだんだん範囲も広がり、男女とか国別を問わずみんなの話合いの中から次に読む作品を決めるようになった。

毎月二回ほど休む事なく続いているが、時には活躍中の作家を招いて話を聞いたり、作品にゆかりのある地を訪ねての小旅行も楽しんだ。この十八年間に読んだ作品は記録の漏れや重複もあるがざっと数えて四百冊近くにもなる。これは普通の主婦の読書としては質量ともにすごい記録だと思う。

日本の近代を代表する作家といえば、やはり夏目漱石と森鷗外を挙げるべきだろう。この二人については作品の殆どを見逃すことなく時間をかけて読んだ。あと芥川龍之介と井伏鱒二に



についても、私たちはその主要な作品を
読了したことも特筆しておきたい。

有名作家といっても世に広く読ま
れている作品はごく限られたものだ。埋
もれた作品を掘り起こすのもまた楽し
みの一つ、とはいうものの鷗外の『淡
江抽斎』に取り組んだときは、重箱の
隅をつつくような晦渋な文体に何度投
げ出しかけたことか、政府高官の要職
にあり、また小説家としても華やかな
存在だった鷗外の、意外な孤独の一面
を見た思いがした。

しかしいつもこのような難解な純文
学ばかり読んでいるわけではない。吉

本ばなの『キッチン』や妹尾河童の
『少年日』、さらに山田詠美や内田春菊
の作品にも手を伸ばしている。『マ
デイソン郡の橋』『時雨の記』の読後
には女心のゆらめきにひとときわ意見が
盛り上がったものだ。なにしろおぼさ
ん連中の集まりだからいつも議論百出
で脱線ばかり、まとめ役の先生のご苦
労は大変だが、さすが専門家だけあつ
て作品の生まれる社会状況や時代背景

への洞察が鋭い。同じ作品でもこうい
う読み方が出来るのかと教えられるこ
とも多く、先生ならばこの作品をどう
論評されるか……と期待しながら読む
ようになった。

十八年という永い歳月を重ねると、
互いの境遇も変化するのは当然であ
る。病没や転居などいろいろな事情で
去って行った仲間も多く、現在は八名
の会員で支えている。社会の動きも、
殊にこの数年はバブルの頂上から不景
気のどん底へと急降下。人間の営みの
愚かさ儂さを見るにつけて、私たちの
本を読む姿勢や話題の内容も次第に
違ってくるようになった。

そんな中で昨年、先生の勧めで大仏
次郎の『パリ燃ゆ』を読んだ。カタカ
ナの地名人名など半分飛ばし読みだつ
たが、虐げられながらも自由を求めて
戦う民衆のしたたかさに深く感動し
た。歴史の中から学ぶことは多い。続
いて島崎藤村の『夜明け前』を再読
し、その後で今回の『定家明月記私
抄』に挑戦したのである。

師弟ともに年齢も体力もすでに老境に達しようとしている。いつまでこの会を続けられるだろうか、という微かな惧れと覚悟を抱きながら、それだけになお一層これからの一回一回の出会いを大事にして作品を選び、こころゆくまで語り合いたいと希うこの頃である。

短詩文芸顛末記

愛知県半田市 杉浦いち子

好奇心旺盛な性格が災いして、いろいろな事に手を出した。しかし熱しやすく冷めやすい上、最後まで極めようというほど好きになれる趣味が見つからなかった。

友人に、やはりもろもろの趣味を持った経験者がある。彼女曰く、主婦の趣味は、せいぜい三年。三年経つと

興味が薄れたり飽きたりしてやめていくと。ズバリ、当たっている。そのせいか私が今まで目にした講座もかなり消えた。特に手芸講座の流行は激しい。厳しい時代になり、趣味で資格を取得して経済的自立をする人が、はたして何人いるだろうか？ 余程、運と才能に恵まれた人でない限り不可能である。あくまでも自分の楽しみの域である。

大して才能もない私が、はまった趣味。それが、十七文字の世界である。

あれは、三十八歳の時だった。最初、俳句の集いに行った。とても書けないと思った。その時、偶然出会ったのが川柳である。軽妙なタッチにどこか惹かれた。その後、紆余曲折があったが、四十七歳の今日まで、少しは、川柳らしきものが書けるようになった。私の場合、サラリーマン川柳というより詩性川柳(ポエム)に近い。

地方の川柳誌も中央の柳誌も各流派の柳誌を読んだ。そして、私の悲劇が生まれた。川柳とは、今までもこれか

らもマイナーな文芸であるという事実。俳句をいつも意識しながら、俳句とは天と地ぐらいの差がある。レベルではなく心の意識である。そして、巷間における差もある。

例えば、教科書に載らないこと。リアクションの違いが、一番おもしろくない。「川柳をやっています」「まあ、フッフッフツツへえー」一笑される。「俳句をやっています」「まあ、高尚なことを」尊敬の目つきになる。これを幾度、経験したことが。偉大な指導者を出さなかったのが、川柳の流浪の始まりである。

だんだんと川柳に魅力を感じなくなっていく。それでも、十七文字の文芸を捨てきれない気持ちはあった。そして、今年から再び俳句に興味を持ち始めて、本や吟社に入会して、目から鱗が落ちた。そこは、陽の当たる場所だった。川柳人が、恋していた俳句の世界では、川柳に対して全く無関心である。完全なる片思い。

俳句の世界は広い。入門書を手にす

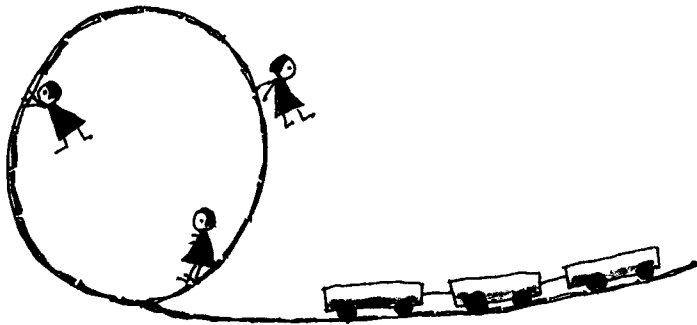
るのも簡単である。月刊誌も豊富。どこのカルチャーセンターにも俳句講座は、よく見かける。NHKでも毎週放映されている。すべて川柳とは正反對。さすが、十七文字のメジャーである。川柳には、とうてい持てない満足感。

「俳句帽子」は、とても心地良い。少々の風が吹いても飛んで行くことはない。伝統というブランドで作られた確かなものなのだ。

月曜日は二日分

神奈川県南足柄市 湯山美代子(52歳)

今年の五月から、仕事がらみの自己研修として心理臨床のセミナーに通い始めた。きっかけは、経験だけに頼った教育相談に限界を感じるようになったからである。



土日の連休が終り、それまでは「あーあ、また一週間が始まるのか」という気持ちで月曜の朝を迎えることが多かった。しかし、今は「さあー今日は月曜日、今週も行くぞ!」と、まあ大げさにいえばこのような気合いと共に一週間を迎えるようになった。変われば変わるものである。

仕事を三時半に切り上げ、最寄りのバス停から駅までのバスに乗ると、心はもう仕事や家庭のことにはない。ロマンスクーで新宿へ、そしてJRを乗り継いで会場の近くの駅まで行く。

月曜日の午後、箱根湯本始発の電車の中は行楽帰りの人たちでいっぱいだ。にぎやかなおしゃべり、中にはビールとおつまみで盛り上がっているグループもある。ほとんどは、家に帰る途中であろう。私はこれから出掛けるところだ。

座席に着くと早速読みかけの本を開く、新宿に着くころには、日付けが変わったような気分になっているから不思議だ。最寄り駅近くのファースト

フード店で夕食をとり、学生気分では会場へと向かう。

講義は六時半から始まる。受講生は大学院を目指す学生から、上はたぶん五十代半ばくらいまで、八十人近くいる。中年は少数派で、二十代が半分くらいを占めているようである。セミナーに参加している学生たちはまじめで、自主的に勉強している姿が印象的であった。若い人たちはばかりではなく参加している人それぞれが、何か目的を持って積極的に学んでいる。興味深い内容の講義を熱気と緊張の中で聞く二時間は、瞬く間に過ぎていく。

大学生の頃と教員時代と今を較べてみて、何時の自分が一番真剣になおかつ楽しんで学んでいるかと聞かれれば、間髪を入れず「いま」と答えられる。自由になる時間を何とかやりくりし、一週間の熱い思いをここの二時間に凝縮し、本当に学びたいことを自分自身の給料で支払ってする勉強は、学生時代の有り余る時間と親の出すお金で学んだものや、教員のとときに時間

を保障され税金を使ってさせていたのだ。いた研修と、まったく違う魅力がある。そして、自分の中に眠っていた心理学そのものへの興味関心が、回を追うごとに、セミナーへの参加の意欲をかき立ててみいる。

経済的な自立の道を求めることを目的にして大学を選んだ頃、世間知らずの私の目に映る女性の仕事の選択肢は、それ程多くはなかった。そんな中で教員を目指し、心理学に触れる機会があったが、あくまでそれは、教職の単位をとるための勉強であり、興味を覚えながらも、そこに深入りすることは許されなかった。いまは、自分でやる気になりさえすれば、趣味や道楽のような感覚ではあるが、学びへの道は開かれている。

ここまでの二十数回、一度も居眠りをせず受講できたことも、私にとつては快挙である。

講義が終るのは早くても八時半である。終了後は会場からJRで東京駅まで行き、九時三十二分のこだまに乗

る。降りた後はタクシーで職場近くの駐車場へ、そこからマイカーで我が家へ向かう。毎日の往復では渋滞しがちな通勤道路も、夜はがらがらに空いていて、進行方向の信号はすでに黄色の点滅だけである。ほとんど車の通らない暗い道路を走っていると、家に着く頃には非日常に切り替わっていた意識が、明日は火曜日で仕事に行かなければならない、というようになる。職場の同僚や夫の協力で、家庭生活でもなければ仕事でもない「私だけの二日目の月曜日」が持てることに感謝しながら、一風呂浴びて床に着く。

土日の休日のうち半日を、ノートでの整理や復習などの時間に当てている。疑問に思ったことや興味を覚えたことを調べたり、関連した内容の本を読んだりして過ごす時間には、脳細胞がフル回転しているような充実感がある。今日は日曜日、セミナー受講を核にした、メリハリのある一週間がまた明日から始まる。

(え・田沼千恵)

泥棒事件

山梨県南都留郡

法村香音子

◇法村香音子略歴

一九三五年、旧満州新京市で生まれる。旧安東市兜在満国民学校四年のときに終戦。敗戦後も父の仕事の関係で一家は中国に留め置かれ、国内戦争開始と同時に八路軍とともに各地を転戦。朝鮮戦争を目のあたりにして思春期を送り、中国人民大学を終えて一九五八年七月に帰国。一九六四年十一月より一九六六年三月まで、東京大学原子核研究所に勤務。定年退官直後の五月より、中国遼寧省の「日本語中専」に赴任。同年十二月末に帰国。中国での体験が「八路軍とともに」という題で一九八六年二月より「わいふ」に連載された。これをまとめて「小さな長征（副題 子供が見た中国の内戦）」として八九年九月に社会思想社から出版されている。

「今の中国は、あの頃と違うよ」

妹たちの言葉を背に、中国生まれ中国育ちの中国大好き人間の私が、再びの中国生活に旅立ったのは二年前のことであった。幾度かの中国訪問の経験から、(かなり愉快で充実した人生の後半が送れるに違いない。最低五年は暮らしたい)と心に決めて……。

これまでの私は、「キライな環境やイヤな状態を、自らの力と意志で好転させていける。運命は自由に変えられるものだ」という確信をもって生きてきた。

しかしそれは、大きな間違い勘違い。それが可能なのは、あくまでも日本という条件のもとでのことだったのだ。今回の滞在で、それをイヤというほど思い知らされ挫折することになるとは、思いもよらないことであった。山や河は、あの頃と変わりなく懐かしい姿で迎えてくれる。しかし、そのむかし我われが馴染んだ古い建物が次つぎに取り壊されてゆき、まるきり異なった町に様変わりしていくように、人の心も時代とともに大きく変化してゆく。



赴任した中国遼寧省の「日本語中専」は講堂がなく、青空の下で歓迎式典が行われた。スピーカー（写真中央）が日本人が来たことを村中に知らせた。



板タクシーで丹東の街を行く。優雅で便利。そして安い。一区間三元。

もともと、あちらの国は箸をタテに置き日本はヨコに置く。一方は文字の国であるに対し、こちらは言葉の国、というほどに両国の文化の異なる点を挙げたら切りがない。そのうえ思考が、これまでの「為人民服務」から、「改革・開放」のスローガンのもとに「すべては己のために」に切り替わったのだ。

旧満州の安東在住者で結成している会に私も加入しているが、この会でもひとりの女の子を留学生として世話したことがあった。しかしそれは、釈然としない結末を迎えた。この会の訪中団が、かつて暮らしたことのあるこの町の中学校を訪れた時に、中国の未来のために育てようという話がまとまり、品格成績ともに優秀な生徒を推薦してもらった。そして寄付金を募り、会員が生活の面倒をみて、高校に進み無事大学を卒業した。ところが、研修のために企業に入ったまではよかったが、まもなくさっさとアメリカに行ってしまった。それきり消息が途絶えたのである（中国人の誰もが最終的に目指すところは、やはりアメリカだ）。

日本人からみれば背信ともいえるような行為だが、このことを中国人に話すと、百パーセント、次のような答えが返ってくる。

「いいんじゃないの？ 運が良くて能力があるんだっ
たら、誰だってそうするよ」

もともと、中国人のドライに対し日本人はウエツ

ト。このため、中国に対する日本人の思い入れは、しばしば空回りすることが多い。従つて我々も従来の認識を改め、付き合い方を変えていかねば、がっかりだけがごんごん積み重なつて、自己満足以外に実績として何も残らないという結果になりかねないのである。

中国生まれ中国育ちの私なのに、今回の滞在で中国人が解らなくなつてしまつたということはかなりなショックであつた。いまの私はこれまでのように、中国にいづくばくかでも貢献をしたい、とは思つていない。(まつたくもう……)と思ふことがあまりにも多すぎ、何をやつても自分の力があまりにも無力に過ぎると情けなくなるからだ。

でも私の、(まつたくもう……)のそのココロは、「やつぱり中国大好き」であるに変わりはない。だから、生活した七カ月の間に、中国で見た、聞いた、そして遭つたことを、そのまま書くつもりでいる。

今回は、書き溜めてある記録のうち、「泥棒事件」を読んでいただくことにした。

現代中国の姿をかいま見た、中国つて面白い国だなと思つていただければ幸いである。

泥棒が入つた!

それは、赴任してわずか十日目の出来事であつた。

山東省にある姉妹校出張から戻つてくると、黄香(ホワンシャン)が玄関から飛び出してきて、泣き腫らした目ですがりついてきた。

「そんなに心配しなかつたつていいわよ、大したもの持つてやしないんだから」

と、私は彼女の細い肩を抱いて慰めた。校長の長男の妻である彼女が、私の生活面の面倒をみてくれることになつていたので。

普段は血色の良い彼女の夫の徐(シュイ)教務主任が、丸い顔を暗くして部屋までついてきながら、

「警察が先生を待っています。なにが無くなつてか、すぐ調べてください。こんなことになつてしまつて、なんとも困りました」

私と一緒に帰つてきた宇(ユイ)校長夫人が、「注意すればよかつた。私が予感した通りだ」

などとぶつぶつ言っているのだ、

「あれは関係ないでしょ」と私が言うと、

「どうして関係ないの、大いに関係ある」

と、目を三角にして声を荒らげた。

その前日の朝に起きた、ささいなハブニングを指しているのだ。

私 came ことで興奮している学生のひとりが、三階の手摺りから私をのぞいていて、お粥の入つた器を誤つて取り落としたのだつた。お粥は私のジャケット

の袖とスカートを少々汚しただけなのに、「先生の身に何か良くないことが起きる前触れかも知れない。交通事故には特に注意しなきゃ」と、それを目撃した宇夫人と校長が囁き合っていたというのを、私は耳にしていたのだ。

中国に行ってみて分かったことだが、いまの社会主義中国の人たち特に女性には、古い好きや迷信深い人が多い。どんなに忠告しても黄香は古いを信じ切っているし、私の誕生日に生徒たちが陶器の仏像を恭しく贈ってくれたのには参った。

だから、たまたまこんなことがあると、「ほれ、やつぱり」ということになるのだ。

泥棒の侵入口は、角部屋になっている弁務室の、物干場に面した二重窓であった。

アルミ製の窓枠には、向こう側にくるりと回して掛けるタイプの掛け金がついている。ところがそれにはロックもついていないし、アルミ製だから爪もペンチで簡単に曲がるぐらい柔らかだ。おまけに窓枠と窓枠の重なりに隙間があるため、掛け金を掛けてもガタガタするし、そこにドライバーを差し込めば、なんの苦もなくこじって外せるのである。

その掛け金の爪が曲がっており、窓枠と植木鉢が置いてある出窓の白い台に、指紋を調べた跡が黒く残っていたので、本当に事件が起きたということは分つ

た。だが、部屋を見回したところでは、どこもいって変わった感じは受けない。いったい何を持って行つたというのだろう。

「泥棒が入ったって、どうして分かったの？」

「わたしが先生の布団を干しに来たら、洗面所の様子が違つたよ。昨日掃除したときにあった、首飾りと化粧品がきょうは無かつたよ。わたしは震えながら、先生の戸棚を開けたのよ……」

そしたら、小物を入れた箱の中身がほとんど無くなっており、トランクを収納してあるダイニングルームの戸棚の一番高い扉が半開きになっているのを発見。慌てて徐さんと呼んでふたりで調べたら、窓の金具が壊されているのを見つけたという。

ところが、調べだして驚いた。このくらい分散しておけば、万一盗みに入られてもどれかは助かるだろうと思つていたのに、まずお金が全部やられていた。紙に包んで空にしたトランクの底敷きの下に入れておいたのも、弁務室の机の引き出しのワープロ用紙のあいだの封筒も、本棚の本の後ろに差しておいた茶封筒も、と、洗いざらい無くなつていたので。辛うじて助かつたのは、山東省に持つていって二万円の日本円だけだ。

なにより残念だったのは、母にもらつた細い金のネックレスと、子供たちからの退職祝いの象牙のネッ

クレストと、対のイヤリングを盗まれたことだった。

それから、新品の電子辞書、テープレコーダー、スイス製の万能ナイフと大好きだったマノの小銭入れや新品の化粧品数個、これからお世話になる友人たちへの贈り物の血圧計三台と文房具セットもなくなっていた。

あれもないこれもなくなくなっているということになって、金目の物は細々したもので一切合財消え失せており、結局手付かずだったのは衣類だけだということが判った。

せっかく重い思いをして持って行ったワープロは、真っ先に盗られたものとはかり思い込んでいたので、「あーあ、あれだけでも残してくれたらよかったのになあ……」

「あ、あれは、わたしの家にあります」

「へーえ、どうしてまた!」

驚く私に徐主任がほっと肩を叩いて、得意げににやりとした。

「万一のことを考えて、わたしの家に持って行っておきましたので」

まるで今回の事件を彼が予測していたかのようで少々薄気味悪かったが、いまでは唯一となった財産のしかも大物が残っていたのはことのほか嬉しかった。

「これは、かなりなプロの仕業ね」



私の本の翻訳本も扱っている丹東新華書店のスタッフ（写真左側の三名）と。本屋でも内部の照明は暗い。

そう言った時、黄香の青い顔がいつそうかたい表情になったのを、私は見逃さなかった。彼女が、自分が担任している班の某聴講生もそれと一緒に消えていることには、口をつぐんでいたことがあとから分かった。しかし彼女は、まるで私の注意を引くかのようによ、「先生、ここにあった本、無くなっているよ」

と、囁いたのだ。

山東省に行く前に、ダイニングの食卓に置いておいた日本語教育の参考書が消えていた。

「日本の本なんか持って行って、どうするんだろねえ。印刷がきれいだからかしら」

ドロボーが荷物を引つ掻き回したり、黄香たちが気を利かして整頓してくれたために、どこに何を置いていたか判らなくなったが、日本に関心がある者、という黄香がヒントを与えるような言い方をしたことを念頭において調べた結果、引き出しの中の日本人の住所録と、本棚に飾っておいた桜の花びらのパウチカードが紛失していることが判明した。そうになると、決してそうあつてほしくないことが起きてしまったと、思わざるを得なかった。

ここに戻ってきたとき、まるで学校全体が息を殺して様子を窺っているような感じがしたのは、みんなが生徒の中から犯人が出たことを知っているゆえかもしれない。

しよげ返る学生たち

午後の自習時間になって三年生の教室に向くと、生徒たちがシーンとなって下を向いていた。

「ハイみなさん、お久しぶりです。私が留守のあい

だ、みんな元気でしたか。あらあら、あなたたち、いったいどうしたというの。元気がないわねえ……。顔を上げてちょうだい。『ちょうだい』という言葉は、敬体ではどう言いますか？」

それでも黙ったままだ。できるだけ、ありふれたことをありふれた言葉で言つて聞かせるのは、耳馴らしのためだった。「習うより慣れろ」という言葉を教え、聴力がついてくれば、だんだん会話もできるようになるから、と先週の授業のときに話したばかりであつた。

前列の女の子たちは、目に涙さえ浮かべている。

「……ごめんね、みんなに心配かけて。あなたたち、こんどのことで、私が日本に帰ってしまうんじゃないか、つて思っているのでしょうか」

やつと息がつけたというように教室中がざわざわしだし、悲しげに頷いている。みんな悪がつているのだ。

「だいじょうぶ、よ。私はね、このくらいのことでは中国を嫌いになつたりはしないし、失望もしませんよ。日本にだって悪い人はいっぱいいます。けれど大部分はここにいるみんなのように……」

そう、こんな純朴で素直な学生たちに囲まれて、私は再び中国に戻れた幸せをかみしめているのだ。後悔するとしたら、私の考えの甘さが今回の事件の起因と

なったことだ。

日本人としては、私は貧乏な部類だと思っていた。けれど中国人から見れば、金持ち日本人のひとりなのだ。「そんなに持っている」と知っていたら、金庫に預かったのに」と宇夫人に言われたが、人民元に換算すると一万二千元も持っていたのだ。中国人の平均月収は六百元程度というから、二年分に相当する大金だ。

そのうえ私は、自ら望んだわけではないといえ、彼らからすればご殿のように贅沢な部屋に住んでいる。趣味ではないのでいささか迷惑だが、シャンデリアのガラス玉が輝く高い天井に、ピンクの壁。大きな窓に掛かった真つ赤なカーテン。ふかふかのソファアの横のガラスの書庫にはきれいな背表紙の本が並び、本の前には銀縁の写真立てに山小屋を背にした家族たちがいた。

この部屋が、誰の目にも物珍しく魅力的に映るのは無理からぬことであった。

「あなたたちが、ろくに水も使えない不自由な条件のなかで生活しているのに、わたしだけが便利な物を使って、自由に暮らしている……。その人には、わたしがずいぶん金持ちに見えたことでしょう。その人はたぶん、本来は良い人だったでしょう。わたしがきちんとしていないかったために、将来ある人に悪いことをさせてしまった……。」

女の子たちがおいおい泣き出した。男子生徒は一樣に顔を伏せてしょぼんとしていた。犯人が誰なのか知らないのは私だけかもしれないが、万が一、それがこの子たちの仲間であり、もしも捕まって大変なことになるそうだったら、なんとしてでも助けたいと私は思った。

警察は何度となくやってきて、何は何処にどのような状態で置いてあったかなどと、同じことを繰り返して聞いた。紛失物の品名と購入日、金額を二カ国語で書くように求められ、それを表にしてすぐに出したのに、再度提出するようになると言われた。このときワープロがなかったら、どんなに面倒だったことだろう。

黄香が受け持つ班の二年の二十八歳の聴講生と、校門の前の小料理店の店主が犯人で、現在高飛び中という噂が私の耳にも入ってきた。

分かったのはそれだけで、事件発生以来学校側からは何の言葉も聞かれず、警察からも捜査状況の説明さえ一度もないまま、日が過ぎていった。

泥棒がつかまった

十日後の六月八日の土曜日の夕方、黄香が戸口に顔をのぞかせて、

「きのうの夜、体育の丁（デイン）先生のところに邸

(ジュー) が相談にきたよ。邱はいま公安局にいる」

「えっ、(邱、って言うの!) 捕まったの?!

「うん、そう。ズーソウ(自首)、ズーソウね」

中国はこれまで、殺人、強盗、麻薬、売春の四つが死刑に値する重罪とされていた。これらを犯せば、場合によっては即裁判そして公開処刑だ。最近は、これに贈賄罪が加わった。

また、四萬元以上の窃盗、そして外国人にかかわる犯罪は、死刑か無期懲役相当の重罪に問われるという(四十萬元出せば死刑を免れる、ということも聞いている)。

「——そうならば、心臓の悪い母親がショックで死んでしまうだろうから、自首しないでこのまま逃げる——と邱が言うので、丁先生が一晩かかって『先生に頼んで、助けてもらってやるから』と説得し、朝になるのを待って一緒に公安局に行った」という。

犯行の夜、邱は丁先生と塀を乗り越えて門前の小料理屋に飲みに行き、丁先生が帰ったあとも料理屋の主人と夜中まで飲み続けていたという。

そのとき、「いま、日本の先生は山東省に行っている。またとないチャンスだ」ということになったようだ。

事件発生を知った丁先生は、誰の仕業かすぐに察しがついた。けれど規則を破って学校を抜け出して酒を

飲んだ共犯者であり、私の斜め前の部屋に住んでいる彼が私の部屋についての情報提供者だったようだ。そのため邱たちのことには口をつぐんでいたのだった。

逃亡した邱たちは、足元をみられて不利な条件で日本円を元に替え、山分けにして別れたという。内陸へ行って十日間も遊び回ったあげく、お金を使い果たして丹東へ舞い戻ってきたのだった。

邱の家は丹東で大きな料理屋をやっている資産家で、母親は中学の先生。姉が一人。

——刑が重いようなら、外国に逃げる——という甘ったれた言い分に、私はムカツときた。それに黄香だつて、ちよつとおかしいではないか。いくら私が寛大な態度をみせているからといって、謝りの一言もないばかりか、「邱はクラスでも年長者としてみなに慕われていた。酒を飲まなきゃ良い青年だ。最近離婚したばかりで気分が良くなかったから酒を呑んで、こんなことをしたんだ」などと盛んに私を牽制しているのだ。

品行方正な青年が、しょっちゅう校則を破って酒を食らい、人の物を根こそぎ持つて行ったりするか!

九二年の春には雲南省の昆明で、日本人の女性が二人強盗に殺された。犯人は八九年に上海外国語学院の日本語科を卒業した男であったというが、この事件の少し前にも上海で事件が起きている。日本人のアパー

トに泥棒に入り、逃げようとしてビルから墜落して死んだ犯人も、名門大学出のエリートだったということだ。

中国がいま抱えているすべての問題の根は一つなのだ。「黒猫白猫（豊かになれるものから豊かになろう。黒い猫であろうと白い猫であろうと、ネズミを捕る猫は良い猫だ」と鄧小平が唱えたことによって、改革・開放に一段と拍車がかかった）」のラッパに乗って道徳教育がなおざりになり、「向銭看」の風潮がはびこった結果だということは、否定できない事実であろう。

彼が捕まって二日後、ソニーのテープレコーダーとアミーナイフを携えて、公安二人がやってきた。化粧品や装飾品はそれぞれの女友達にやってしまったが、その他は中国には売ってないものばかりだったので、怖くなって全部鴨緑江に投げ捨てたと自供したという。

この型のテープレコーダーは、国内でも売られている。スイス製のナイフはどうしても欲しかった。だから、この二つだけは捨てなかった、のだそうだ。

いま鴨緑江の現場一帯を川ざらえしている最中なので、また結果を報告しにくると言い残して公安は帰った。

また二日ばかりして、手元に戻ってきたのは、水に浸かって使い物にならなくなった電子辞書だけであった。

一カ月ほど経ったころ、市の公安局の王（ワン）主任がお金を持ってきた。私の外国人居留証を発行し、今度の事件を取り扱っている人で、子供がこの学校で学んでいるという男だ。

何のアポイントもなくテレビ局までが待ち構えていて、私の部屋を使いたいという。

学校側は宣伝効果をねらっているようだし、（どんなところに泥棒に入ったのかと）興味津々の視聴者には受けるかもしれないが、こんなことが彼らに利用されると思うと不愉快だ。それに、また泥棒に狙われかねないと気色が悪い。

でも、すぐ済むからと、相手は強引に押し入ってきた。そして、女性アナウンサーに、「こんなに早くお金が戻って嬉しい、公安の活躍に感謝する」と言うようにと求められた。

それは、翌日の夕方七時のニュースで放映された。むきだしのお金を手渡される場面では、私の日本語にかぶさって、「外国人がからんだ今回の事件は、東港公安関係者の華々しい活躍によって早期解決をみた」と報道された。

「あのお金は邱の家が弁償したもので、事件の解決は

丁のお陰よ。彼らは何の努力もしなかったくせに」
と黄香が盛んに息巻いていたが、まったく「我田引水」とはこのことだった。

邱を救えと嘆願されて

事件から二カ月以上も経ってから、邱の父親と姉夫婦が、「もつと早く挨拶に来なければならなかったが、母親の調子が悪かったので」などと言い訳をしなから、何やら品物を携えてやってきた。

彼が捕まって以来、嘆願書を書いてくれと黄香から何度か言われていたが、邱がどういう人間か私はまったく知らないのに、いったい何をどう書けというのか、と断っていた。

黄香の口からポロリポロリとこぼれてくる話を総合すると、この間に、徐・黄香夫婦ばかりか公安主任の王までが、邱の両親や姉夫婦と何度か会食をしたらしい。

その結果、やはり邱を救えるのは先生しかない、それには邱に会わせるしかないということになり、仲立ちの黄香が、「邱一家が、一度丹東に来て欲しいと言っているが」と私に伝えるにきたようだ。

それに対して、「日本にはそんな常識や習慣はないので」と私に断られたと聞いて、機嫌を損ねたと勘違

いして慌ててやってきたらしい。
彼らは何を思ったか、箱から大きな石の筆立てを取り出すと、

「どうぞこれを手にとってご覧ください。この犬の彫り物は、良くできています。……将来はかならず日本に行つて、日本語を勉強したいと言っていますので、末長く見守つてやってください」

私はこちらに来てから、中国人は発想や考え方が日本人のそれとはかなり異なっていると思うようになっていたが、今度のことでいよいよそれを強く感じたのだった。

夏も近い日の午後三時、黄香が突然、「いまから邱に面会に行くので急いで」と呼びにきた。この国は、なんだって突然だ。

しかしこういう経験ができることは滅多にないので、ほかの用事はさておいて、さっそく宇夫人と黄香と三人で出掛けることにした。

今回の事件ではいろいろな面で疑問を感じ、不愉快感が高じていたのだが、こんな環境で育った彼を不憫にも思っていたので、いずれはそうしなければならぬいかと「情状酌量嘆願書」はすでに作つてあった。この国では突然要求されることが多いので、何事もあらかじめの用意が必要なのだ。

けれど、邱がどんな男で何を考えてこんな事件を起したのか、直接話を聞くまでは渡すわけにはいかなと言つてある。が、ワープロから急いで取り出して印刷し、一部だけを鞆に忍ばせて出掛けた。

黄香は彼のために、屋台で桃を買った。邱の姉夫婦がこれまた桃や西瓜を両手に下げて、公安局の門前で我われを待っていた。

三階まで上がって、階下が見下ろせる渡り廊下を通つていると、下の階段の途中を頑丈な鉄柵が遮断していた。黄香がそちらを顎で指した。留置所はその下にあるようだった。

教室のように、入り口に「主任室」と表示板が下がっている、七畳ほどの部屋に通された。そこには事務机と椅子が二脚。そしてどこか執務室にもあるように、ここにも入り口近くの壁際にベッドがあった。中国は昼寝の習慣があるので、幹部室にはだいたいベッドが備え付けてあるのだ。そして、ベッドにも腰掛けて話ができるように、平行して応接テーブルが置いてあり、それと向かいあうように三人掛けのソファもあつた。

私と黄香はソファに、宇夫人と邱の姉はベッドに腰を降ろし、義兄は王主任の椅子に腰掛けて声がかかのを待っていた。私は、テレビのドラマのように、留置所に会いに行くものだとばかり思っていたのだ。

やがてドアが押し開かれたので、腰を浮かしかけると、王主任に背中を押されてひっそりと、色あせた灰色の上下を着た坊主頭が入ってきた。手錠も足かせもつけていないが、すぐに邱だと判った。

邱はのろのろした動作でベッドの人々の前を通つて奥へ進み、「老師よ」と言う黄香の声に、私のほうへ向き直つて直立した。

肩間に深い縦じわを刻んだ、顎が尖つた青い顔だ。もともと細い体質らしく、瘦せて覇気のない容貌に目だけがやけに大きい。

長い手をももの横に垂らして、ゆっくりと腰を曲げた。

「老師……、对不起（先生……、ごめんなさい）」

すると突然、邱の背後の壁に張つてある中華人民共和国の大地図が、私の目に飛び込んできたのだ。私はなぜか急にカツとなつて、思わず知らず立ち上がる

と、
「对不起?! 你对不起誰?! 你看! 你後面的牆壁! ……那是什麼!（すみません?! あんた誰にすまないて?! うしろの壁を見なさい! あれは何ですか!）」

と、叫んでいた。

邱は部屋に入つて来たときにすでに辺りの様子を見て取つていたらしく、壁を振り返りもせず、

「是、是我們の……(は、はい、私たちの……)」と言つてから「我的(私の)」と言ひ直し、

「我的祖国(私の祖国)」と言つた。

「那麼你說、你應該对不起誰?!(言つてごらんささい、誰に對して謝るべきなの?)」

彼は緩慢な動作で壁に向き直つて氣を付けをする、と、半身を折り曲げて坊主頭を深々と垂れ、

「对不起……、对不起祖国(祖国よ許してください、申し訳ありませんでした)」と呟いた。

シラケていないのは、私と彼だけだったかもしれない。かたが。ええカッコしい、自己満足、と言われても、私はそれでもよかつた。

黙り込んでゐるみんなの氣持ちを引き立てるつもりなのか、王主任がとりなすように、

「好! 先生は、もう許してくれた。果物もこんなに持つてきてくれたのだから、それを食べながらゆっくり話をしなさい。じゃあ、私はほかに用があるから……」

そう言い置いて部屋を出て行きかけて、自分のデスクにとつて返すと、引き出しを開けた。

「これを使えばいいだろう」

なんと、彼が応接テーブルに無造作に置いたのは、

深緑色のごつい鞘に収まった軍隊用の短剣だ。銃の尖端に着装する銃剣である。

私が驚いているうちに、王主任は口々の札に鷹揚に手を振つて出て行つた。

「さあ、邱……、西瓜を切つて先生に勧めなさい」

断る暇もあらばこそ、姉の勧めに應じて邱は立ち上がる、とテーブルからそれを取り上げて、劍を鞘から抜いた。

私は初めてそれを目の当たりにしたが、刃の幅四、五センチ刃渡り三十センチ、柄までいれればゆうに四十五センチはあろうかと思われる、かなりな重量のごつい代物だ。

彼の手で西瓜が四つにたち割られ、熟れ過ぎの赤い汁がビニール袋の上に広がった。

この時ほど、(彼らの氣が知れない。私は中国人をまったく理解していなかつた)と思つたことはなかつた。

邱は器用に西瓜を切り分けると、短剣をテーブルに置いて大きな一片を取上げ、両手で恭しく差し出した。

「ありがとう、でもそれは、あなたがまずおあがり。みんなに心配かけたり迷惑をかけたりにしたけど、一番苦しんだのはあなたですからね。だから、一番最初にあなたがおあがり」

直立不動で西瓜を捧げ持ったまま、邱の頬に二筋の涙がったい落ちた。

「じゃあ、あんたが食べなさい」と口々にとりなされて邱は西瓜をテーブルに戻すと、灰色の袖口で頬を拭い、「まず、タバコを吸いたい」と姉に求めて一服つけた。

邱の人相が変わってしまったと、黄香は私の肩に頭をもたせかけて泣き続けた。

話を手繰り出された彼がぼつりぼつりと語るところによれば、未決囚が収監されている留置所には牢名主が何人かいて、かなりあくどいいじめに遭っているようだった。

それは管理不行き届きではないかと私が憤慨すると、両者は内々で巧くやっているらしく、それ以上のことには彼は言葉を濁し、何でもいいから早く裁判を受けたいと呟いた。

坊主頭に灰色服の薄汚れた囚人が、トラックで何処かへ運ばれて行くのを、丹東でもよく見かける。丹東だけでなく、彼らが道路工事にツルハシを振るい、ビル建設に携わってレンガをほうり上げたりしているのに行き会うこともよくあるのだ。

彼らが穴掘りしている脇を通行人が足早に通り過ぎ、女性が駆け去るのを彼らはスコップやツルハシを振るう手を休めて、ニヤニヤしながら眺めていたりする。

そうした状態に置かれて、人間性を失わない頑強な精神を持ち続けられる人がはたしてあるであろうか。

「私はあなたの言葉を信じて、重い罪に問われないように各方面に働きかけることにしましょう。だから、どんなに苦しくても我慢して、人の影響を受けたりしないで、いま私に誓ってくれたように、日本語に限らず何でもいいから勉強しながら、釈放される日を待っていてください」

眉を蹙めた青っ白い顔を可哀想に思っ彼に慰めを言いつつも、私の心はこの特別扱いを受けられる家族に反感を抱いた。

警察の建物を出たとたんに、邱の姉に、

「さっき、すぐにでも先生に嘆願書を書いてもらいなさい、と王主任にいわれた」

と催促された。私はついこのあいだちよつとしたことで入院していた時に、足しげくこの人たちの見舞をうけたというあの公安幹部に猛烈な反発を感じ、黄香が先回りして「先生はもう用意してきました」と言ったことにも嫌気がさした。

「もうこれつきりで、以後何をしていたく必要もありませんから」

と彼らに言うのと、私は黄香に「嘆願書」を押し付けて、踵を返した。

情与法（ある対外事件における法と情け）」

と題して、私の絵入りの記事がタブロイド版の半面を埋めていたのだった。

それには、事件の舞台となった学校に私が赴任した経緯、事件の発生と犯人たちの逃亡の足跡から逮捕、拘置所での面会の様子から起訴にいたるまでが事細かに書かれ、私の生い立ちやこの町とのかかわり、そして嘆願書の内容が記載されていた。

記事によれば、「彼は十二月八日に中等法院で起訴され、二十日に開廷審理が行われて、審判委員会で懲役六年と決まった」そして、「まさに判決が下されようとしたその時、彼に対する一通の『嘆願書』が届いた」

「この法院の審判史上初めてのことなので、それは委員会の熱烈な議論を巻き起こした。国際的な影響を考慮する必要があるが、法に準じた量刑を軽々しくいじることはできない。また、外国人による嘆願を無制限に取り上げれば、我が国の法の尊厳を損なうことにもなりかねない。そのため、取り扱いは慎重を要した」

「そこで、最高裁の弁護士に計り、嘆願書の内容を検討した結果、法村の経歴や事件発生の条件や環境を勘案、この事件は、犯人が自首したこと、盗品を全部返した（弁済されたのはお金だけだが）ことなどの諸条

件を考慮して、今回に限り、先生の物を学生が盗んだという、身内の出来事として処理する」という、人情案（大岡裁き）を下すということで見方の一致をみた」

「春節を目前にしたある日、裁判官が拘置所を訪れて、邱は懲役三年執行猶予五年、小料理屋のおやじには懲役二年執行猶予三年を言い渡し、ふたりは即日釈放された」

「二人は大いに驚きかつ喜んだ。そして二月に邱某から感謝の手紙を受け取った法村老師は、中国政府が一人外国人の建議を重視したことに驚きをみせ、勉強を続けて祖国に報いるようにと返信し、彼らを激励した」というような内容であった。

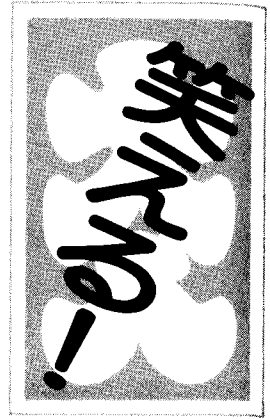
嘆願書が使われた時期といい内容といい、かなり芝居がかつているので当地では相当受けたらしく、パーマ屋さんも私のことを知っていた。

私が提案した執行猶予という措置が取られたのも珍しければ、「邱某」という匿名で記事が書かれたのもかつてなかったことである。

ちよつと違うんじゃないの、という部分もないではないが、中国の現状からこれも庶民教育と考えれば、今回の出来事は無駄ではなかったように思う。

けれど、いまだに納得いかないのは、私が余程のおばあさんのような『老太太（大奥様）』に描かれて、町中に広まってしまったことだ。

（続く）



夢

カナダ 海林寺ひろい

夜中の十二時。私は、書齋のパソコンに向かい仕事に必要な資料の検索をしていた。

先にやすんでいた夫が入ってきて、「やっぱり夢だったんだ」と、目をこすっている。

聞けば、その夢の中で私は、彼と二人で乗ったジェットコースターから転落して死んでしまったのだと言う。

「生きてて良かった。僕より先に死んじやいやだ」

と、ポロポロ涙をこぼす。スポーツマンで

大柄な彼が、まるで恐い夢を見た子供みたいに見える。仕方ないので、私は仕事を切り上げて一緒にやすむことにした。

実は彼には言っていないが、私もそのテの夢を見たことがある。私の逆は、夫が交通事故致死するのだ。目覚めた時、私が思った事は、

「もっと高い生命保険に入ったほうがいいかな」

だった。

女って現実的？



ヒソ漬!?

長野県小県郡 花岡京子

野沢菜を出しに漬物小屋へ行くと、ばあちゃんの漬けたかめの上に、「平成10年ヒソ漬」と書いてあった。

おいおいヒソとは、あの和歌山の猛毒のヒ素かいな？ そんな漬物いらないうよ！
おそるおそる覗いて見たら、なあんだ、シソの実の漬物ではないか。そういえば、ばあちゃんはシソの实のことをヒソの实といっていた。ああ、我家もまだ安泰でいられる。

(え・田沼千恵)



FREE TALK

フリートーク

荷下ろし症候群

東京都日野市 十河温子(46歳)

一九九八年六月姑が亡くなった。三年間の介護の末、深夜夫と二人だけで臨終を看取った。

夫の母との生活はつらく、周りのものに愚痴ばかりをこぼしていた。そのせいかみんなに、「ご苦労様、ホッとしましたよ」「これであなたも自由になって好きなことができるわね」「毎日何をしているの？ 何かやりたくてむずむずしてるんじゃないの？」

好きなことを言ってくれる。実際そうなのだが、もっと長い年月それもずっと悲惨な思いをしている人を知ることにつけ、どうしても「ヤッター！ 自由になった！ いちぬーけた」という気にはなれない。

—— 済んでみれば三年間は夢のようであったが、年老いて弱っていく母の姿

をみて過ごした日々の重みは、なかなか私を数年前の「外様」だった私に戻してはくれない。

何をおいても母のことが一番で、呼ばれればすぐにいけるような所にいたが、心まで寄り添うことはできなかった。常に批判的であった母から昔言われたことなんか忘れて、私自身が変われば母との関係は改善されていたかもしれない。しかしそれはどうしてもできなかった。自己変革などというものはそんなにたやすいことではない。

そして楽しく会話することなく母は口が利けなくなってしまった。後悔しないようにと最後まで責任を持ったがやはり悔いは残った。それは愛情ではなく単に物理的にお世話をしたにすぎなかったからだ。

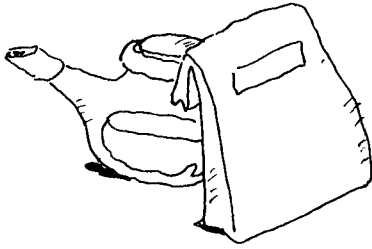
母が寝ていた私の「戦場」は夫の書齋となり、もう生々しく思い出すことはなくなってしまった。でも気分はふさぎ込んだままなのである。

—— 亡くなる三カ月ほど前から繰り返される肺炎のため、私は外出時間を極端

に制限しなければならなかった。一時
間以内に行つて帰ってくるという早業
に、さすがの私も減入つていった。

どうしても出かけたければヘルパー
さんを頼み、作業しやすいように家の
中を整え、伝えておきたいことをメモ
しておかなければならなかった。面倒
なことだ。

やつとの思いで外へ出れば近所の人



に会う。

「おばあちゃん、どう?」

みんないい人たちで気遣ってくれる。

「うん、あいかわらずよ」

と答えてはみるものの、後はその人の
話を延々と聞くことになる。みんな自
分のことで精一杯なのだ。母のことを
あまだこうだと人に話してみても、あ
まりわかってもらえそうにない。わ
かってもらいたいと思う方が甘えてい
るのだということがわかり、事細かに
説明したり自分の気持ちを話すことは
控えるようになった。

そんなことを繰り返しながら、他人
が幸せそうに見え、ついには人に会う
のが嫌になり、とうとう外へでるのが
億劫になってしまった。

これはもう鬱病の初期症状である。
それはわかっていたがどうしようもな
かった。夫は心身医学が専門なのだ
が、私が診察料を払わないからと同情
はしても診てはくれなかった。

母が亡くなった時、それまでは冗談
を言ったり冷静に対処していた夫の悲

しみようをみて私は、母はどんなに
なつても生きていなくてはいけなかつ
たのだと思つた。それなのに、代償が
母の死とわかつていながら私はいつも
自分の自由を求めていたのだ。

念願の自由を手に入れ街へ出てみ
た。でも浮かれたような華やかさや、
きらびやかな世界に馴染んでいけな
い。世の中実はどうでもいいようなこ
とであくせくしている。何でみんな忙
しく動き回っているのだろうか? そん
なことを感じてしまった。

緊張感から解き放たれ体の力が抜け
落ちたまま次のステップが踏めないの
だ。今まで大きな夢や希望を持つこと
なく過ごしてきたしまい、寝食を忘れ
て打ち込みたい趣味や仕事がない。何
かで成功したいという野心もない。ま
た物事に深く感動したり、うきうきし
たり、大声で笑つたり、そんなことも
忘れてしまっている。

この鬱状態から始まった、荷下ろし
症候群らしき元気のなさはいつまで続
くのだろうか? 数年後の更年期にこ

のまま突入ということになると思うと恐ろしくてならない。

関西版日本語習得

大阪市旭区 宮崎貴子(36歳)

前号で、長男の習っている英語の先生について触れたが、その先生、関西に住んでいるので、日本語習得面において結構面白い。芸能人で、東北弁を使うガイジンがいるが、その関西版、みたいなもの。

捨てることを「ほかす」で覚えているし、近況を聞いたら、「ぼちぼちでんなあ」。友人のご主人のお商売のことを話している時には、「もうかりまっか」ときた。一体どこで覚えてきたのやら。veryを「めっちゃ」と覚えて知っていることも大阪ならではの。「ちゃう」を知ってるかと尋ねると、言葉は

知っているが、使い方が分からないとのこと。そこで、私がそこにあつたノートを指して、「Is this a pen? ちゃう」ってな具合で、例えを出して、会話ふうに教えてあげると、いたく喜んでいた。これからはZの代わりに「ちゃう」を使うかもしれない。

先日、新しい関西弁を覚えたと言つて、嬉しそうに言ったのが、「かりばち」。こちらの方が? となつてしまった。「It means……」と言つて、英語で例題をまじえながら説明してくれたところによると……誰かに何かを貸したところ、返つてこなかった場合のことらしい。つまり、借りてパチル（パチルは関西弁で盗るといったような意味）と言うことらしい。しかしながら、そんな言葉はそこにいた誰も知らなくて、不思議に思っていると、どうやら最近できた彼女に教えてもらったとか。それ以外にも、彼のスクールの生徒たち（学生たち）の影響もあつて、結構若者の言葉をよく口にする。私たちが、ははあ、なるほどと



言って、妙に感心している様子を楽しんでいた彼。

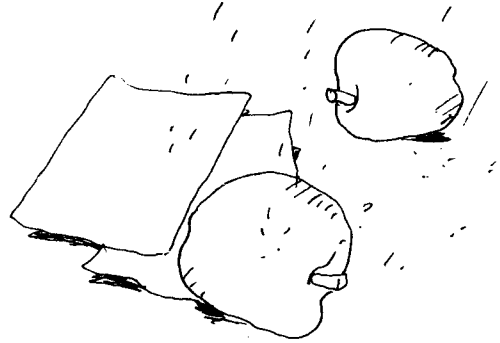
これからも私たちの知らない関西弁を勉強すると張り切っている。さて、次はどんな関西弁が飛び出すことやら。

事故

東京都武蔵村山市 大沢陽子

十二月三日、一時から、「生きものたちの会」の定例会がある。十二時半、自転車に書類やらりんごやらを積んで出発。暗い。今にも雨が降り出しそう。東経大近くの三叉路を渡ろうとしたとき、車が来た。

アツと思ったときは、自転車の前輪に車がぶつかり、私は舗道にたたきつけられていた。車はゆるい速度で来たようで、ぶつかったとき、衝撃はあま



り感じなかった。が、バタンと倒れ、いやというほど後頭部を打った。

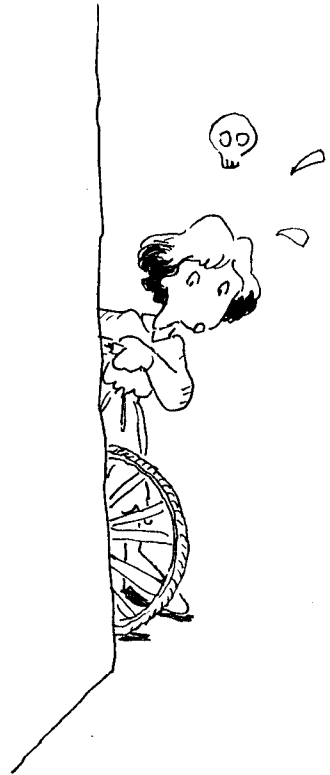
車はすぐに止まって、降りてきた人が自転車を起こしてくれた。「警察を呼んだほうがいいですよ。頭を打っているから」と近くにいた男性が寄って来て言った。

「大丈夫です」と言って、私は歩き出

した。「呼んだほうがいいですよ」。心配そうに男性がまた言った。そういうのってとても時間がかりそう。いつもは右を見て左を見て、もう一度右を見てというふうには、何度か左右を見てから道を渡るのに、今日はうっかり見落とした。ふっと道へ出てしまっていた。何も考えていなかった。魔がさしたというか、一瞬の空白のとき。

「警察を呼びましょうか」。相手の人も言った。「大丈夫です」。私は言った。本当に大丈夫だと思った。「必ず病院に行ってください。今日必ず」とその人は言った。「二時に村山病院に行きます」と話した。三時なら会合を終えて行くことができる。

「今、ちょっとぶつかったちゃった」。会場に着いて私は言った。「早く病院に行ったほうがいいですよ。私の友だちは翌朝冷たくなっていったんですよ」と星さんが言う。「すぐ、病院に行きたほうがいい」と楠木さんが強く言う。「ついて行ってあげて」と陣内さんに言う。「大丈夫」「だめよ。頭だけ



ら。急に具合が悪くなることもあるのよ」と楠木さんに言われて、大丈夫なだけでな、と思いつつ、道を隔てて向い側にある村山病院に行った。「犬の例で悪いんですけど、うちの犬は頭を打って一時間後に死にました。急に様子がおかしくなって、獣医さんに電話しているうちに死にました。脅かすようですけど、頭を打つとこわい」と陣内さん。

病院には、「ここは脳外科がないので」と断られた。「脳外科のあるところへ行ってください」と。

みんなのところへ戻った。出席者は

私を入れて八名。一個ずつりんごを配ったり、いろいろのねこのついた封筒を一枚ずつ取ってもらったりした。この封筒はこの間、子猫を庭に投げこまれた友人からのものだ。ブルーの目をしたその子猫を私の若い友人がもらってくれた。その家族に抱かれた幸せそうな子猫の写真を送ったところ、この封筒を送ってくれたのだ。今日は、今年最後の例会で、ほかの人もいろいろ持ってきてくれた。手作りのフルーツケーキ、あん入り八ツ橋、おせんべいなど。

まず、十一月に行われた消費生活展

について、つぎに一月に行われるボランティア連絡会の十周年記念行事について話し合い、依頼されている署名について、来週不妊手術に連れて行ってもらう十二匹の猫たちについて、来月の定例会について、報告や話し合いをした。司会は私。「座って話して」と楠木さん。

三年ぶりに姿を見せた菊地さんは近況報告。消費生活展のパネルを見て今日初めて参加した星さんは、自己紹介をした。

月一度の会合は、たいてい二時間ほどで終わる。さつき、病院までついて来てくれた陣内さんが「送ります」と言う。「家まで行って、荷物を置いて、保険証を持って、東大和病院まで行きましょう。早い方がいいですよ」と。「大丈夫」と私は言った。頭もすっかりしている。頭が少し痛いのはコブができているからこれでしょうがない。「荷物も濡れます。車のほうがいいです」と心配そうにしている陣内さんに、「大丈夫、ありがとう」と

言って、自転車に乗った。

雨の冷たいこと。自転車に乗っているうちに雨はどんどん強くなり、すっかり服が濡れた。手が冷たくて切れそうだ。車で送ってもらえば楽だった、と後悔した。二十分もかかるのだ。

四時ちょっと前に帰り着いた。「三時四十分に電話があったよ。電話のあったことをお伝えくださいって」と夫が言う。ぶつかつたあの車の人からだ。服を替えたり、濡れた荷物を拭いたり、犬を散歩に連れて行ったりしてから、電話をした。

「今日中に必ず病院に行ってください」とその人は言う。大丈夫だから、このことはこれで終わり。夫には、言わないでおこう。「バカだなあ」なんて言われるだけだから、と思っていたけど、こうすっかり頼まれると言わない訳にはいかない。

すぐに脳外科のある病院に行くことになった。

雨は雪になっていた。降りしきる雪の中を夫の運転する車で行った。雪は

降るし、日は暮れている。こういうとき車に乗るのは怖い。

CTで何枚もの写真を撮り、レントゲンを三枚撮った。症状が無いので、帰って、明日また来てくださいと言われた。当直の先生が脳外科の専門ではないので、と。

翌日、病院に行った。異常なしだった。「この頃、忘れっぽいんです。脳が縮んでいませんか。老化が進んでいるんじゃないでしょうか」と聞いたら、「年相応の老け方です。脳も顔と同じで老けるんですよ」と先生。年相応ならしょうがない。私は来月、六十歳になる。

支払いは、相手の人と相談してからにしてください、と言われた。五万円弱だそうだ。

例の車の人から、電話があり、警察に行くことになった。それまでに診断書をもらっておいてほしいと言われた。事故届けを出さないといけないらしい。支払いの方法はいつ決めるのか分からない。

「あそこは車が徐行しなければならぬ所だ。ぶつかつてきたのが向こうなら、向こうのほうが悪い。こっちの責任は半分以下だ」と夫は言う。自分が支払いを引き受けたいならそうしてもいいけど、と。どうしよう。確認を忘れた私が悪いんだけど、五万円は高すぎる。

十二月八日、警察の門前で車の人と待ち合わせて、係の人のところへ行き調書を書いた。私はそれで帰され、車の人には現場検証に立ち会って、それから調書を書くのだそうだ。

翌朝、保険会社の人から電話がきた。病院の支払いは保険会社がしてくれるそうだ。自転車は壊れていませんか、お洋服は？ 日常の家事にさしかえはありますかなど、いろいろ聞かれた。すべて、大丈夫ですと答えられた。それでも、慰謝料として八千二百円が振り込まれるそうだ。車の人に何か送りたいと思うけど、かえって迷惑かも知れないので、何もしていない。今ワープロを打っていて焦点が合わ

ず一瞬キーが打てなくなった。頭の中
にトラブルが起きているのではないかと不安になった。

事故って、ほんとうに簡単に起きるものだ。車にスピードがあったら、私は生きていなかっただかも知れない。対向車が来ていたら車どうしぶつかって大変なことになったかも知れない。怖いことだ。これから気をつけよう。

保育所で得たもの

京都府乙訓郡 入江由里(31歳)

保育所が幼稚園、どちらにしようをよく聞く話だが、私は保育所にしてよかったと、最近つくづく思っている。ここでは子供にとってでなく親の私にとって、として言いたい。

四年前、長女が入所した時の私は、いい妻、いい母親、いい嫁としてが

ばろうと思っていた。嫁ぎ先が田舎の旧家で姑も横に住んでいるし、おまけに夫は十四歳年上の亭主閨白型。いい加減だった私もすっかり洗脳されてしまっていた。

やりくり上手と言われたくて買いたい物も食べたい物も我慢していた。主婦はそれが当たり前と思っていた。信じられない事に姑が昔、着ていたセーターなどを、着なくちゃ悪いと思って着ていた。何とダサかった事か！子供を置いて外出なんてめったになかったし、ましてや夜なんてとんでもない!!と言った感じだったが、いきなり保護者役員をすることで変わっていった。

私のように幼稚園の代わりに入れる人もいるが、大半が働いてる人なので、役員会は当然、夜七時から行われる。当分の私にとって、夜七時からたとえ近所でも出かける事は大変な事で、夕方、二人の子供のお風呂と食事を済ませ、「ごめんね」と夫に気を使いながら行かなければならなかった。

子供は後追いするし、泣くと、「連れて行けや！」と夫にエラそうに言われ、しようがないとまだ一歳にならぬ長男も連れて行つた。今では忘年会でも、食事は用意するだけで「ほな」と出て行く。子供もバイバイと手を振る。こんな日が来るなんて夢のようにだ。

みんな看護婦や教師などフルで働いてる。私より年上で子供は三人なんてザラ。なのにみんな元気で、何より自由な事に驚いた、刺激された。私も一人の人間としてがんばろう、と。他の母親たちと話すときどうしても子供中心のつき合いになるが、ここは仕事、夫婦、時には老後の事など友人のように話ができるのがうれしかった。毎日、送り迎えて顔を合わすおかげだと思う。結婚したら新しい友人なんてできないと思っていたのに……。

徐々に私は彼女らのように身も心も(?)解放されていった。若過ぎるかな?と思う服でも買うし、大好きなイクラだって買うぞ! バレーボールの

練習も行くぞ！

当然、夫とは何度もぶつかつたが、少々あきらめてきた様子。今は長女を学童保育に入れるか入れないかでモメている。

保育所の子はほとんどが学童保育に行き、一段と親同士仲良くなるらしい。そんな事聞けば、私だけみんなとサヨナラなんて淋しいよーと思つてしまふが、冬、真つ暗の道を帰らすのかと想像すると、仕事も辞めてブラブラしてゐる今の私には仕方がない。

二年後には長男も卒所して保育所へ行かなくなる。毎日、何気なく昨日あつた出来事を話したり、キムタクのドラマのビデオを貸りたりできなくなる。こんな調子だから、朝はともかく夕方のお迎えはかなり時間を取つてしまつているので、ラクにはなるとは思ふのだが、卒所式の時は、名残り惜しくて泣いてしまふだろう。

四年前の長女の入所式の写真の私、今より若いはずなのに、どこかハリのない顔、今の顔の方がずっと好きであ

る。いつまでもこう言えたらいいなあと思う。

ネコ

神奈川県大和市 浅田節子(66歳)

数年前、小さな捨ててネコを見てしまった時、哀れな子ネコをそのままにできず、手の平に乗せて持ち帰つたのがまず一匹目。その子ネコが年頃になり、恋をし当然の如く大きなお腹になつた。

室内で生活していたので、どこでお産するのか？ 押入れの中かな？と思つていたところ、ふとめくつた私の布団の中で、産まれたの赤ちゃんネコが三匹うごめいていた時のオドロキ！ そのサマは、今も鮮明に目に浮かぶ。

お産を目前にした母ネコは、一番安

全な場所は私の布団の中だ——と判断したのだろう。

とにかく愛らしくて、いとおしくて、どの子ネコもしぐきが何とも言えず、毎日私たちにほほえみを与えてくれた。

最初は三匹のうち一匹だけ残し、二匹は人さまに上げることになつていたが、三匹で仲良くじゃれ合つて遊んだり、ママのオッパイを幸せそうに飲んでる姿を見てみると、母親から離すのが可哀想で、情にもろい私は親子四匹の面倒を見ることにした。

そのうち娘夫婦がネコを飼つてはいけないマンションに移り住むようになり、ペルシヤネコ二匹を私が引き取ることになつてしまつた。外には老犬もいて、計七匹の動物に囲まれるハメとなつたのである。

さて——ネコの世界は大きすぎである。日本ネコの親子四匹が平和に暮らしていたのに、突然アメリカ人(?)のペルシヤネコの侵入である。さあ——大変！ 母ネコは我が子三匹を守

るのに全身の毛をさか立てたり、身が
まえたりの生活となってしまった。

ネコの召し使いとなった私は、あら
ゆる工夫をこらし、やっと母ネコも落
着きを取り戻した。

ところが、今度は網戸の向うで子ネ
コが何者かに追われているかのように
「ニヤン、ニヤン」と助けを求めている
のである。

どうしよう、もうすでに我が家はネ
コ屋敷になっていて六匹もいる。そこ
へまた仲間がはいると七匹、ワンちゃ
んとで合計八匹——ワァ——どうしよ
う——。

そんな私の心の中を知るよしもな
く、子ネコは助けを求め続けてなく。

とにかく、エサを与え水を飲ませて
考えこんでしまった。どのネコも捨て
ることはできない。仕方なく動物との
生活が続いた。

その後——老犬が十六歳で天国へ、
母ネコは十三歳で……、私の布団の中
で産まれた三匹の中の二匹が十一歳と
十二歳で、つきつきとあの世に召され

ていった。

愛情をそそいだ分、悲しくて、ツラ
クテ……、動物との別れはもうイヤ
ダ!と思った。

でも獣医さんから救いの言葉を聞き
て気持ちが急に楽になった。

動物の死は、人間の考えと全く違っ
て、それを自然に受け止めて当然だと
思っているから、人間の心理になって
悲しむことはない——ということだっ
た。

そうだったのか——人間も動物の心
になって「死」を迎えられたら幸せ
だ、と思った。

今、この家にはベルシャニ匹と、私
の布団の中で産まれたミーちゃん
と、ノラちゃんの四匹がいて、それぞ
れの場所で、それぞれの楽しみをみつ
けて、ゴロニヤーとそれは自由に暮ら
している。

その姿を見て、ネコの召し使いに
なったこのオバちゃんは、いいなア
——とうらやましく思うのである。

(え・西宮さき)

わいふ文章講座のおすすめ

公民館、女性センター、社会教育課
などのご依頼で、しばしば「わいふ文
章講座」を開いています。

編集長田中、副編集長和田、「わいふ」
から巣立ったライター達を講師とし、
五回から十回までのコースがあります。

その他に、「子育て」「教育」「女性」
「高齢者」「社会参加」など、各種の問
題について講演をいたします。老人
ホーム情報センター主任研究員の水落
も担当します。

お住まいの地域で開きたい方は、お
電話をください。資料をさし上げます。
それを持って公民館、教育委員会の社
会教育課などに開講を頼んでみてくだ
されば、引き受けてくれるところも多
いと思います。

●PTA主催の成人教育、家庭教育学
級での講師としてもご依頼ください。

ズバリ一言

見えにくい 児童虐待

横浜市磯子区 十文字圭子(36歳)

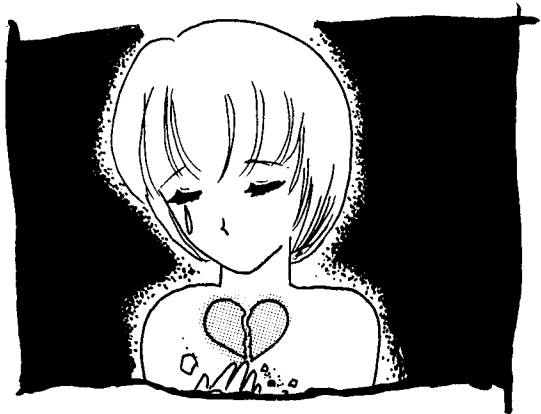
「代理によるミュンヒハウゼン症候群」というのを聞いたことがあるだろうか。

子どもを生んでからのこの数年、児童虐待はいつも注目しているテーマなのであるが、これは去る十一月十三

日、NHK海外ドキュメントで放送された内容から知ったものである。

早く言ってしまったら、親、特に母親によるある種の児童虐待のスタイル、ということになるのか。一九八五年デンマークで発表され、徐々に世界に広まりつつある考え方である。「自分に注目を集めたい」女性が、子どもの病気によって、世間又は医師から注目されることに快感又は満足感を得ることを発見し、本来は健康である(それほど重い病気ではない)子どもを、ドクターショッピング(病院を転々とすること)によって、検査や通院で虐待すること、とでもいおうか。

これはいわゆる身体的な虐待や放置・遺棄(世話をしないこと)と違って、外からは分かりにくい。それどころか、世間的には「病気の子どもに尽くす出来た母親」を賛美してしまいがちであるから始末が悪い。番組では、この種の虐待は十人に一人が、事が明らかになる前に死亡しているという深刻な報告をしていた。



というのも、いくら検査を繰り返しても異常がないとなると、医師や看護婦の目に触れないところで自ら子どもに手を下す(乳児であれば窒息をさせたり、もう少し大きくなっていればわざと怪我をさせたりする)母親がいるというのだ。

また、そこまでしないまでも、苦痛を伴う検査や意味のない治療に費やす時間は、それだけでも十分虐待であるのに、週に何度もの通院のために勉強が遅れがちになって落ちこぼれたり、自分に自信が持てず落ちつかず、親の注目を集めたい余り自ら進んで病気になるったり、酷くなれば子どもも自殺願望を持つような精神障害にも陥りかねない。

自分に価値を見いだせない、もっと広くいえば社会的能力のない女性がこの病気に多くみられるタイプだそう。自信の無い、つまらないと思っていた自分が、妊娠・出産に拠って世間から注目を集めた、それが引き金となって、その後も世間（医療関係者）と接触を持ちたいと思い、子どもを傷つけてしまう。

しかし、日本より遙に進んでいるデンマークのインフォームド・コンセントにより、親は子どものカルテを見る権利があるので、本人に内緒で症候群を記載し、関係機関へ連絡することは

大変難しい。それが、発見を遅らせ、悲惨な結果をもたらすことが多いという。

このケースでは虐待は数十年に及ぶことも珍しくなく、その子どもに与える影響は計り知れない。この症候群だと診断され、今は子どもと引き離されている母親は「自分はただ子どもを治してやろうとしただけなのに……」と今も言い続けていた。また、長年母親から傷つけられていた二十代の女性は、大きな傷を足に残し「今も母親を許せない」と語った。

発見には、過去に原因不明の死を遂げた兄弟がいること、頻繁に入退院を繰り返していること、という注目点があるが、最も重要なことは、社会が医師にもっと強い信頼を寄せることであるという。

日本では情報公開の遅れもさることながら、医学界は政界・教育界に並んで保守的であるという。虐待においては、医師にその通報の義務はあるものの、罰則を伴うものではない。只々そ

のモラルに頼るだけしかないとするば、余りにも不安ではないだろうか。どんな形でも虐待は許せない。

オンブズマンを 利用して

上田はるか

希望していた保育園には、空きが全くなかった。つまり保育園入所を市が決めるための、措置会議の対象にもなっていないかったのだ!!

話は一年前の十二月に遡る。次年度四月からの認可保育園入所のため、書類を市へ提出する期間が十二月の月初めの一週間。

「希望の園を見学してください」という市の説明を素直に受け、二つの園を見学し、三歳の息子を入所させるべく、市へ書類を提出したのだった。

「入所の可否がわかるのは三月。日ちははっきりわからない」と市の曖昧な説明も、三月に入ればわかるだろうと勝手に解釈し、吉報を待ち続けた。さて三月に入ったが、待てど暮らせど返事は来ないので、半ば頃こちらから電話をしてみる。そして、冒頭のこととが初めてわかったのだ。十二月に提出した書類は無駄になっていたのだ……。



さらに書類には、第二希望の園までしか書く場所がなかったが、「皆さん第五第六と、たくさん書いてきますよ」と担当者は言い、なぜ空きが出るか出ないかを事前に教えてくれないのかとの問いには、「直前の移動もありわからないので」と答えた。

事前に言われなくてもきちんと調べない私が馬鹿だった？でも何の知識もなく、初めて書類を提出する者は、どこでどう調べればなんてわかるはずもない。私は市の言う通り手続きをし、市は書類をチェックしていたはず。

結局三月二十日も過ぎた頃、「入所できません」という返事が来たのだ。

四月から、市では「オンブズマン制度」が開始されることになっていた。市民の市政に対する苦情や不満を、弁護士が公平公正に判断し、必要な場合、市へ改善勧告、提案などを行う制度だ。

早速このオンブズマン制度を利用することにした。申し立てを簡単にまと

めると、

一、市の担当課での書類配布時、記入方法について何の説明もなされていない。希望保育園を枠外にたくさん書いても良いのなら、そのことを全ての人に説明すべきだ。

二、書類配布時もしくは提出時、希望保育園に空きが出る予定かどうか、知らせるべきではないか。直前の移動があるのは仕方ないが、だいたいわかるはずではないか。

三、入所優先順位が不明確なので、はっきり市民へ知らせるべきだ。

以上を文書にして、四月に入りすぐオンブズマン室へ送った。

一カ月程してオンブズマン室から連絡があり、室長と会うことになる。彼は私の訴えをもっとものことだと言いい、市のいい加減さを嘆き、対応の改善を求める意見表明をすると私に言った。

それから数週間後市から手紙が届く。ただこれは、オンブズマンが市へ意見表明をしましたというだけのもの

だった。

市から本当の返事が来たのは七月も末の頃。特に具体的な細かい説明は余りなく、事務処理見直しを検討しますという内容だった。

私の言い分は認められなかったが、回答が余りに遅く、息子も結局保育園に入れず、すつきりしない気持ちだった。とりあえず市の「一時保育制度」を利用することにして気持ちにケリをつけた。

「一時保育」とは、週三回を限度として一日決まった金額で、八時半から五時迄預かってくれる。私の場合、一度内職の証明を出して、この三月まで利用できることになっている。

それにしても忙しかった。途中、運良く週二回の仕事の幼児教室講師をすることに内職と兼ねてやってきたが、週のうち四日は息子がいる。内職と言えども、空いている時間にやればいい程度のものでなく、一日五〜六時間の作業が必要だった。講師の仕事は、前準備や事務処理に時間がかか

る。

お陰で外でパートに出るのと同じ位、時にはそれ以上（十万円近く）稼いだ月もあったが、あまりの忙しさに体重は数キロ減り、大好きな洋画のビデオもほとんど見る暇はなかった。こんなに忙しく働いているのに、なぜ保育園に入れないの……と何度思ったか。

さて今年の十二月。また次年度四月入園希望の書類受付の時期だ。早速提出する。

市の対応は、去年と比べ変化はあったか？

- ・書類配布時、記入方法の説明がされる。
- ・書類提出時、「若干の移動はありませんが」と前置きの上、希望保育園やその他の園の空きの子定人数を教えてください。
- ・入所可否かの連絡が二月末までと早まる。

以上三点は明らかに変わっていた。

一市民の不満は、市政に少しだけ影

響を与えたらしい。そう考えるとこの一年は無駄ではなかったと思える。あとはこの四月、息子が保育園に入れれば言うことなしなのだ。

アムウェイに誘われた

東京都東大和市 長谷部治子(36歳)

子供がいらないせいか、犬を飼うまでは、あまり近所付き合いをしてこなかったが、四年前から飼い出した犬のお陰で、散歩の途中、色々な人と立ち話ができるようになった。

その中の一人が、自然食のドッグフードを個人輸入していると、人伝に聞いた。

以前から、ドッグフードの添加物が気になり、ペット先進国である海外では、犬のエサにも添加物を使わず自然

の素材を生かしたフードがあると聞いたこともあるし、何より個人輸入している人が、身近にすることが嬉しかった。

英語がまるで駄目なので、書くことも話すこともできない。だから憧れはあっても、一人で始める勇気がなかったのである。

何週間かしてその人に会えたので、「もし良かったら、カタログでも見せて貰えたら」とその旨を伝えると、「いいわよ。じゃ、午後に会いましょう」と、あっさり受け入れてくれた。午後になって、旦那さんと一緒に来た。

「どうして、旦那さんまで」と思ったが、手にしている、洗剤の入ったプラスチックのカゴを見て「ああ、これは何かあるな」と、やな胸騒ぎがしたが後の祭りである。案の定、アムウェイの名刺を差し出された。

アムウェイは、外資系の会社であり、合成洗剤を、口コミで広めるといふマルチ的な商法でのしあがった会社

である。

日本にも支社があり、やはりそのマルチ的な商法は、隣近所の奥さんたちをターゲットにしているだけあって、

お互い付き合いが気まずくなるのを避けて使う気はなくても「まあ、洗剤ぐらいなら」と買わせることができるので、しがらみ商法とも言われ、消費者団体では、よく問題視される会社でもある。

個人輸入しているといっていたドッグフードは、アムウェイが出している商品だったのだ。洗剤だけでは売れなくなつたのか、見せてくれた日本支社のカタログには、化粧品・健康食品・空気洗浄器なども載っていた。

アムウェイの信者になって三年目の彼女は今は正念場なのか、熱心に会社の素晴らしさと、会員には一切の搾取がなく、みな自発的に誇りを持って、活動をしていることなどを話してくれた。

ありがちな、他社の洗剤との比較テストを慣れない手つきで旦那さんがし

お友達に「わいふ」をおすすめください

新しい定期購読者をご紹介くださった方には、次のように購読期間を延長させていただきます。

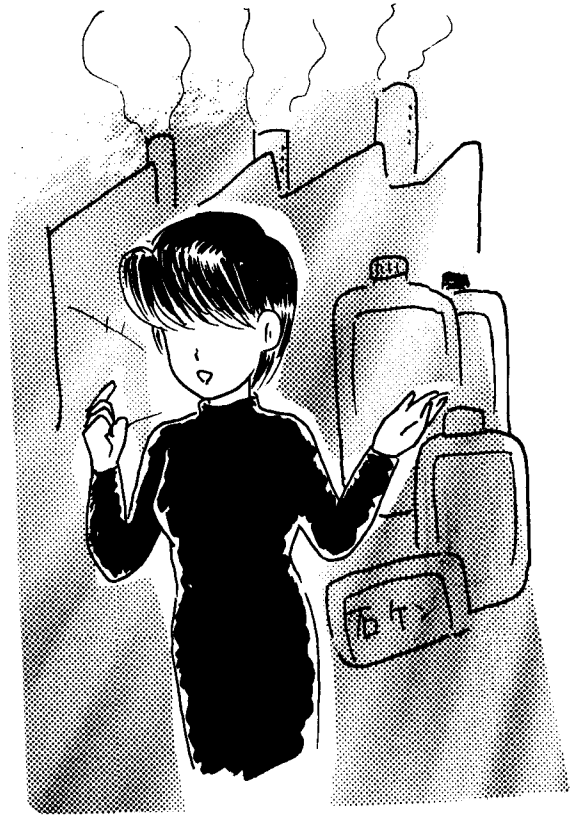
●定期購読者をお一人ご紹介くださるごとに誌代、プラス送料とも一号延長。

「わいふ」年間分をプレゼントにお使いください

●結婚、赤ちゃん誕生のお祝い、遠方のお友達とのコミュニケーションにどうぞ。お申し込みいただければ、新読者に、贈り主のお名前とプレゼントのおしらせを同封の上、一年分、計六回送本いたします。

●その場合も定期購読者のご紹介の場合と同様に、お一人につき一号分延長させていただきます。

●また十冊以上ご購入くだされば割引がございます。



ていた。

合成洗剤とボトルには書かれてあるけど、生分解するから安心であることや、原油が流れて傷ついた水鳥を洗い流して救ったのもアムウェイの洗剤で、国連から環境賞まで受賞した会社だから、これ以上安心な洗剤は無いと力説した。

三十代の彼女は大学生の頃から、公

害問題に取り組み、ダイオキシンについても詳しく

「私も昔は石鹼を使っていたの。でも石鹼も環境によくないのよ。カスが出るから」

と、私が純石鹼しか使わないことを知って、即答した。

九年近く信じて使い続けてきた石鹼を悪く言われ、まるで家族の悪口を言

われたようで傷ついたが、私が一番引つ掛かったのは、もしその話が本当なら、何故彼女は、アムウェイなんかに傾いたのかである。それだけの知識がありながら手放して、アムウェイの洗剤を信じている筈がないと思っただ。

結局、無知でお人好しな人たちには売れるからだろう。合成洗剤と純石鹼の区別のつかない人が圧倒的に多い中で、知ってる人だけが、知らない人をだませるのである。

私は自分の甘さを恥じた。知識もあり実践もしていたが、石鹼の良さと合成洗剤の危険性を誰かに、熱心に伝えただけがあっただろうか？ 生活がかかっている彼女の切実さに遠く及ばない甘さを思い知らされた。

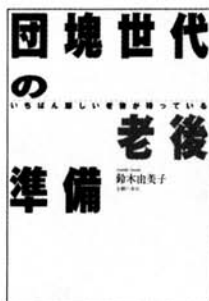
アムウェイに誘われたことでもかえって、発奮したのである。大切なことは一人でも多くの人に伝えていかなければいけないと。

勿論、誘いは断った。

(え・田村幹代)

団塊世代の老後準備

鈴木由美子 著



鈴木由美子著
主婦の友社
本体1500円＋税

岩田和子

空前の高齢・少子社会を目前にする今、その影響第一波をもろに受けるのが「団塊の世代」。彼らはまたも、新局面に立ち向かわなければならぬ。そんな中で「わいふ」の論客、鈴木由美子さんが、自分も含めた同世代がこれからの日本社会を生き抜くためにはどう考え、行動すべきかを書き記したのが本書である。鈴木さんの文章らしく、深く広く

現実的・理想的なことを取り混ぜて切れ味が鋭い。現在中年期を迎えつつある我々がつべき哲学がまつていると思った。

と、難しいことではない。テーマは「定年後と老後のお金」「田舎の老親」「夫婦のこれから」

等々、だれもが直面する身近な問題ばかり。それに対して、現実はどうあるのか、どうしたらよりよく対処できるかなどが、わかりやすく具体的に書かれているのである。

また、文明批評としても面白い。例えば我々の親世代の価値観（貧乏だったから、どうしても物質主義に傾く）を、快刀乱麻を断つが如く言い当てているのは、溜飲が下がる。一方で、身につまされながら笑ってしまうのが、聞き分けのない老親

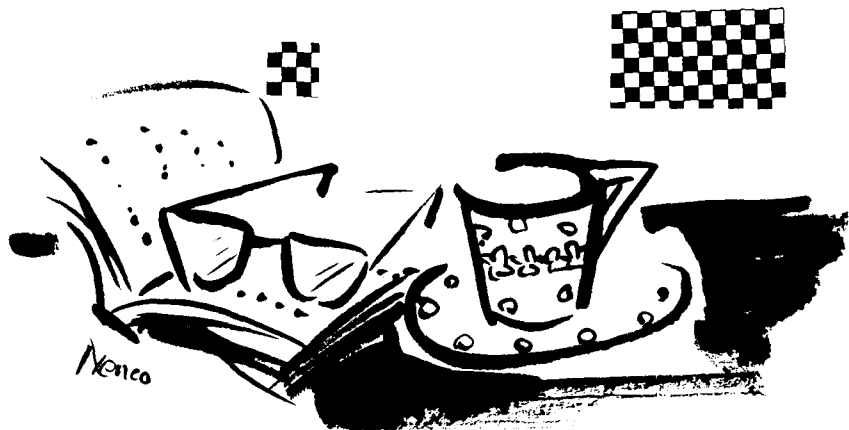
やら出来の悪い子ども、また「親がからむと理性を失う夫」。こういう人たちとうまくつきあう方法も、これまでの知識・経験からはなかなか見いだせなかった。常に新しい地平を切り拓いていった団塊ならではの知恵が必要だ。

という具合に、重いテーマ、いやでも考えなくてはならないテーマでありながら、決して読むのがいやにならないよう、ユーモア（かなり辛口だが）もきかせ、うまく文章が運ばれているのはさすが。

半ばヤケクソだが一面では、老人になるとはどんな新しい経験なのかと、楽しみでもある。そのためには老人になる前に、十分戦略を練っておく必要がある。本書はそのための最適な「虎の巻」である。

座談会 私も言いたい

なぜ「シングル」なの？



出席者 染屋美代子(31歳) 五十木啓子(55歳)
高原香奈子(49歳) 木幡 澄(さやか)(35歳)
田沢未実(59歳) (すべて仮名)
司 会 田中喜美子 編集部・和田好子

結婚できないかもしれない

司会 今回のテーマは「わいふ」には珍しい企画です。

「わいふ」は、名前の通り結婚生活の話が多いんですよ。何かというと夫とか子供の話が出てくる。で、みんな、少し飽きちゃって、シングルで暮らしていらっしやる方達の話の少しは出そうじゃないかと。

最初から確信的にシングルがいいという方もあるだろうし、パートナーがいたんだけど嫌になっちゃったとか、いろんなタイプがあると思うのね。

それをまず話していただいて、シングルで暮らすことの良さ、面倒くささ、不安、どんな見通しを持って、生活設計をどんなふうにしようとしていらっしやるのか、話していただきたいと思います。

和田 じゃあ、若い方から。

この頃、若い人がなかなか結婚しなくて、新しい現象だといわれているでしょ

う。

木幡 私は好きで一人でいるわけではないし、一人でいたいとも思っていないんですけど、ただ相手がいない。結婚する機会がない……。

司会 そういう人に巡り会わない。

木幡 そうですね。

最近母に言われてお見合いをしたんですけど、二人の方としたんですが、結婚について真剣に考える機会になりました。私、結婚できないかもしれないって。

というのは、二人のうちの一人は理系で、私にはわからないような難しい会社につとめていた人。で、転職をして、今は輸入家具の営業をしている。大学時代はずっとボートをやっていて、サッカーもすごく好きで、最近はお社の仲間とサッカーをやっている。なんか明るい方だった。

司会 理系のスポーツマンでわけですね。

木幡 もう一人は大学の国文学の助教授で、スポーツはいつさいやらない。

私も大学は国文学科だったんですけど、ただ国文しか受からなかったからいったうだけで、全然わからない世界だったん

ですよ。

方言についてすごく研究していて、勧誘の電話がかかってきても、あなたはどの出身でしようとか当てちゃう。

全然タイプが違う。家に帰ってきて、どうだったと聞かれて、もしどっちかの人と絶対結婚しなくちゃいけないって言われたら、私、本当に心の底からどっちでもいいと思っただけです。両方とも私にとって存在が同じというか……。

司会 何も感じない。

木幡 感じないんですよ。



私のまわりでは、同世代でまだ一人の人はいますけど、女一人でバリバリ働いている人はいない。じゃあ、働けなくなったら何やるんだろうと思うと、ビルを掃除しているオバサンとか、私の会社にもいるんですけど、あれかな、私にできるのはそのぐらいかな、と。

ほんとに、結婚しなきゃ困るから、しなきゃいけないからとはどうしても考えられない。これは結婚できないかもしれないと思っってしまった。ちょっと親には言えない。心配するから。

高原 仕事は何をやっているしやるんですか。

木幡 プレハブ住宅の営業事務です。あまり女性が活躍するような職場ではないので、みんな、結婚までの腰かけ。最近結婚しても勤める人が多くなっただけですけど、子供ができると百パーセントやめる。

司会 その、何年目？

木幡 もう十二年目です。

司会 難しいお仕事なんですか。

木幡 機械を扱うことが多くて、設計のことも少しはわかっているんですけど、できないし、

重宝がられてはいるんですけど、いつまでもいるわけにはいかないし、どうしようって感じですよ。

高原 いつまでもいればいいんですよ。

田沢 女子社員の定年六十歳とか、社内規定、就業規則はあるんですか。

木幡 それがですね、入社四年目に一度辞めているので、今、正社員じゃない。契約社員というかパートみたいになかち。

和田 どうして辞めたの？

木幡 旅行に行きたくて。当時、休職とか全然考えなかったんですよ。

今までの話でいふ私の性格、わかってもらえたと思うんですけど、あまり後先考えない。三カ月間旅行に行きたくて、会社を辞めた。そのあと営業所長から「帰ってきてから仕事決まっているの？」ときかれて、「いや、決まってないです」「じゃあ、半年だけバイトしてくれないか？」「いいですよ」って、今に至っている。

司会 そういう方多いんですか。

木幡 いや、多くないです。すごく特別扱い。

染屋 上司は女性ですか？

木幡 いえ、男性です。女性では私が一番上ですね。

和田 非常に現代的な話ね。

司会 そうですね。とても面白い。

シングルは楽

染屋 私は、今はまったく結婚する気はないというか、三十歳を境にあまり結婚のことを考えなくなりました。

二十九歳のとき、本当に真剣に結婚を考えた時期があって、結局、それは駄目になって、それから結婚ということをあまり考えなくなりました。

司会 恐縮ですけど、失恋しちゃったわけ？

染屋 お互いにやめようって。お互いに結婚相手としてふさわしくないという結論で別れたんです。

二十五歳で知り合って、足かけ五年。最初は、恋愛自体が楽しくて楽しくてというつきあいだったんですけど、まわりから「結婚はどうするの？」「いつするんだ」と

かプレッシャーがあって、それをきっかけに結婚を考え始めて。お互いの機運が高まって、というわけじゃなかった。

で、考え始めたら、今から思えば、あまりにも真剣に考えてしまっただけで、結婚相手としてふさわしいのかどうか、っていう目で見すぎちゃった。

結婚って、ある種勢いで決めちゃうところがあると思うんですけど、その勢いにブレーキをかけてしまった感じ。

相手の性格とかいろいろ分析しながら、何十年間連れ添う相手として、本当にこの人でいいんだろうか自問自答して……。

相手も、そういう私と直面しながら、恋愛期間とは違うお互いを見て、そんなことで、結局、だんだんフェイドアウトしていった。

司会 フェイドアウトって、いい言葉だなあ（笑い）。なるほど。

染屋 その経験が、やっぱり自分としてはすごく重かったと思うんです。

司会 他に心ときめく異性の方だっておありになると思うけど、もう結婚とかいう方向へは行かなくなっちゃったわけ？

染屋 はい。

男性のわがままな面とか、いろんなことを勉強させてもらったので、以来、結婚を考えないおつきあいをして別れちゃったり、とかいうパターンが続いております。

司会 はい、ありがとうございます。とてもよくのみ込みました。

ところで木幡さんに聞きたいんだけど、恋愛したことはないの？

木幡 いや、ありますよ。

司会 そのときに結婚しようとは思わな



かった？

木幡 うーん、そのときは思いませんでした。

和田 年が若かった。

木幡 そうですね。

一方的に好きで、相手に家族があつたりして。二十七、八歳くらいになると、素敵な人にはたいてい家族がいるんですよ。

司会 やっぱり心ときめく相手っていうのは素敵ですか。

木幡 私から見ると素敵。

司会 その素敵がないと、やっぱし駄目？

木幡 ええ。実際の結婚となると子供を生みたいから結婚という形をとるだけで、あまり必要性を感じていない。

司会 こりや確かにみんな結婚しなくなるな、だんだん。

五十木 私は五十五歳です。

若いときからあまり結婚願望ってないんですよ。親も全然うるさく言わなかったし。

最初は金融機関に三年勤めていまして、そのころはコンピューターもありませんでしたから、残業が多くて何もできなかった

た。

次の仕事先では、小さいところですけどわりと重宝がられて、そこには若い男性もいませんでしたし、自分もべつに結婚する気になれなかった。

姉は母にうるさく言われて結婚したんですが、私のときは母は全然うるさく言わないう。で、ずうーっと今まできちゃった。

司会 今の生活がとて安定しているんですね。楽しいというか、びったりなんですね、その生活が。

五十木 そうですね。

親は、みんなから「親が悪いからこうなっちゃうんじゃない？」と言われるんだそうです。

私は、遊べるし、お小遣いは使えるし、楽でいい。

和田 うちの場合は、姉に父がうるさく言って結婚させたらうまくいかなかったんで、妹たちには一言もいわなかったってことはありますが、そういうことではなかったのね。

司会 お母さまの気持ちって、なんとなく面白いわね。

和田 ウマのあう子と一緒にいてもらいたい、という気持ちがあるかもしれない。

司会 仲がいいんですか、お母さまと。

五十木 喧嘩はあまりしません。

司会 今、おいくつ？

五十木 八十六歳です。

司会 びんびん？

五十木 ええ。腰が悪いので、普通に歩けませんけど、遠くへは行けない。

司会 他のきょうだいはみんないらっしやらない？

五十木 はい。独立してますから。

一人で生きていく力を

高原 私はもう少しで五十歳になります。

結婚は一度しています。

その結婚は、なんとってハチャメチャ婚

で……。

和田 いくつのとき？

高原 二十歳。

和田 若かったんだ。

高原 若いもへったくれもなく、大学受

験には失敗するし、家の商売も失敗したり倒産したりで、いろんな事件がありましたね、私が十代のころ。

私は四人姉妹の末娘なんですが、母や姉たちは自分が生きるのに精一杯で、私は姉三人のようすを見ていてウンザリして、こんな家にもしょうがない、出ていきたくてしょうがなかった。

それで、そのときつきあっていたボーイフレンドと結婚しちゃったんですよ。

和田 そのとき、お姉さま方は結婚していた？

高原 全部独身です。裏切って一人で出て行きやがって、と言われましたから。

そんな調子で結婚して、子供がポンポン生まれた。子供は今二十七歳を頭に、二十

五歳、二十二歳。

和田 あなた、ちっちゃい子を連れて「わいふ」へ来たわよね。何年前、あれは。

高原 二十五、六歳のときに「わいふ」へ来てたんですよ。

司会 まだ三番目が生まれてなかったものねえ。結局三人、次々に生んでしまったのよね。

高原 一番上の子が三歳か四歳で、まだ下のオシメがとれないころ遊びに来てたんですよ。もうフラストレーションの塊でしたものね、あのころは。

三十三歳ぐらいから別居して、三十六歳で離婚したのかな。

子供三人連れて離婚するにあたって、どうしようかと考えて、田中さんに「食ってかなきゃしょうがないんだからねっ」とかなんとかお尻を叩かれて就職した。

最初のところは一年もたないうちに辞めて、今の会社に移って十六年目です。

二十五年働いて年金もらおうかなと思ってるんですけど、あまり会社員に向いていないタイプじゃない。性格が悪いっていうか、雑なんですよ、人間が。いつまでたっても契約社員ですよ、どうしようもない。

田沢 二七四号で、なし崩し婚っていうのを読みました。私はああいうパターンなんですよ。

染屋さんのようにしっかり考えていればよかったんですけども、しっかり考えたのは四十歳から。ちょうど四十で人生の帰り道だなあと思ったときに、このまま年を

とって終わっちゃうんじゃないか、私の人生はないなと思った。

目覚めたのが四十ぐらいですから、とても遅い。別居したのが四十四歳の一月で、その半年後に正式に離婚届けを出しました。

子供は男の子二人ですが、親権は私がとりました。下が六歳になるかならないか、上が九歳になる前。急に名前を変えてシヨックを与えちゃいけないというので、最初は相手の名前を名乗っていたんですが、相手を一生引きずっていくのは堪えがたいので、一年後に私の戸籍をつくって子供二人を入籍させました。

これから結婚したいとは、まったく思いません。

あとは自分の老後ですね。日本は国が助けてくれないので、自分一人でのようにならなくとも、死ねるか、考えておかないと困るだろうな、と。

基本的には、一人で生きていく力、健康、死なない程度のお金を得ないといけない。親もいませんし。ま、そういうことを今考えているところです。

司会 ありがとうございます。これで、ひとわたり、現況を話していただいたんだけど、高原さんは、結婚についてはおっしゃらなかったけど、今後の見通しはどうですか。

高原 あまりする気はありません。

私の場合、息子たちの名前を変えないことが離婚の条件だった。あとはすべて私の言いなりって感じで、息子たちの名前を変えないんだったら、ええい面倒くさい、私も一緒にの名前にしよう、と。だから「高原」は結婚したときの姓なんです。

私は離婚する前から外に出ましたから、長男が何もかも自分で仕切ってやるっていうタイプの、やたらしっかりした子で、下の子を可愛がって面倒を見てくれた。子供三人は、くんずほぐれつで一生懸命生きてきたらしいんですよ。

父親には面接権を与えて、私は養育費を全部とって、それやこれやで父親と子供の結びつきが非常に強いんです。

向こうの両親は離婚したことを認めていないんですよ、いまだに。すごくヘンな家で、この間、ずつと結婚していたと思って

いた、と言われました。あんまり仲良くしているもんだから、復縁したと思っていたんですって。

離婚理由は経済問題

高原 で、私とまた結婚したいって、エックスハズバンドは言うんですよ。

だけどね、もう少しビジョンがないと。ただ籍を入れて、今まで通りやればいいというのは楽でいいけど、「今、あなたと一緒に私が生きていけるかどうかってことを考えると、絶対不安だよ。少し考えなさい」って言うてるんですよ。

男性の考えることって、すごく短絡的。

まあ、うちのエックスハズバンドがそういう人なのかもしれないけど、老後を一人で迎えるのは寂しいだろう、両親の面倒もみなくちゃいけないだろうし、子供たちが結婚するときに両親が離婚しているとまずいだろうとかね、そういうくだらないことで結婚したがっているわけですよ。結局、気心は知れますからね、お互いに。

離婚のきっかけは、彼が彼女をつくつて出て行ったんです。にもかかわらず、私、淡泊な人間ですから、怒りが長く続かない。

離婚しているのに、なぜか二人で共有名義のマンションを買ってしまおうとか、くだらないことをやっているわけです（笑）。

田沢 ちょっと聞いていいですか。そのときの彼女はとうなっただんですか。

高原 私が会いに行ったら、怖がって逃げて行ったんだって。

五十木 で、一人でいらっしやるの？

高原 彼はその人と別れてから、ずうっと一人です。

その女性に会いに行ったのは、夫とのくんとずぐれつの真っ最中で、私は離婚を決意していましたね、彼も離婚したいって言うし、いいわよ、離婚するわよって。そのかわり、ちょっと私あの人に釘を刺しておくからねって。

離婚しますけど、この男性は男の子三人の父親であることには間違いないんだから、面接をしてもらわなければ困るし、大

学を卒業するまでの学費は全部もらいます、それから慰謝料ももらいます、学費のほかに養育費ももらいます、と。

そういうことに耐えられるんだったら、一緒にになりなさいって言ったんですよ。

局、その女性、逃げちゃった。

司会 田沢さんは、高原さんみたいにはつきりした理由はあるんですか。

田沢 それを今書いているんですが、結論から言うと、経済観念がまったくない人だった。

子供が三人いるような形で、小さい子供二人と、大きい子供一人と。私の力ではとても一生支えきれないなって。とにかく、麻雀と酒で給料の半分しか持ってこない。転勤のときにサラ金の借金がわかったりね。

結婚って愛が大切なんて言いますが、維持するには経済生活が大事で、生活費をきちんとキープできなければ維持できないんですよ。

司会 それはそうですよ。

田沢 手に残った百円玉を数えて、今日のおかずは何にしようとかって生活を何年か

したんです。

日本は物質的にはこんなに豊かですけど、みんなグルメだの何だの、毛皮のコート着たり、グッチのハンドバッグがどうたら、エルメスのスカーフがどうたら言ってますけどね、あんなものは本当に幻。いざとなったら何の力にもならない。

百円玉が何個、千円札一枚で何日暮らせるかみたいなことまで経験しましたからね。

それをやっているうちに、この人を頼りに、こんな生活して子供を育てていけるかなって。四十歳のときに突然、専業主婦をしていたことが自分にとつてすごい間違いだったことに気がついたんです。

司会 何年専業主婦をしてらしたの？

田沢 十一年間。

もうこんな生活してらんやったら、もう一度働いて、二人の子供、大人になるまで私が育てたるわいと思った。それでも実行に移すまで三年はかかりましたね。

司会 染屋さんは、結婚を考えるとときに経済的なことは入ってました？

染屋 ええ。

司会 どんなことをお考えになったのか、ちよつと教えてくださる?

染屋 親しくなつてくると、今日飲み会があつて持ち合わせがないから一万円貸してとか、お茶代貸してよとか、そういうのがあるでしょう。

それが返つてくることもあるし、返つてこないこともある。相手は忘れている。そういう貸しが四万円くらいになつたときに、あ、こういう金銭感覚なのか、だらしない人なのかなと思つた。

司会 他にありませんでした?

染屋 あと女性に対して、とても社交的な人で、ものすごくお友達が多いんですよ。

初対面でもすぐ仲良くなる。そのおかげで私の輪も広がつたんですけれども、その反面女の子にもすぐ声をかける。新聞記者だつたんで、飲む機会が非常に多くて、知り合つた女性と気軽に飲みに行つたりする。私とのデートの場にも呼んでたりして、無頓着。

私はそこで許せなくなつちやつたんです。結婚してもこの調子でやられたら、私さつと精神的にストレスがたまるだろう

なつて。

司会 何だかすごく賢明な選択だつたよう
な気がする(笑)。

高原 私もそう思う。

染屋 見る目、あつたのかな、なんて。

田沢 ありました、ありました。

和田 やつぱり離婚理由の中で一番多いのは経済問題ですね。

高原 そうですよ。

だつて私がサ、夫に女ができたから別れますつて言つたら、「そんなバカなこと止めなさい」つて、みんなが引き留めたもんね。田中さんだけ、離婚しろ、離婚しろつて言つてた。

うちの母でも何でも、そんなのほつとけばなおるとかね。だいたい、女ができたら騒いじやいけないというのが常識。何年でも我慢すればいづれ帰つてくるつて。

女の人は、みんな待つてんですよ。それでストレスでガンになつて死んじやつたとかね。かわいそうに。

田沢 耐えることを美德としていた時期があまりにも長過ぎた。女に耐えなさいつて言うけれど、男には言わないですもんね。

専門の生命保険コンサルタントを派遣いたします。

(東京都内・近郊のみ)

お一人ではチョット心細い、
でも何人かいれば心強いあなた…
お友達・職場の仲間などどなたでも結構です。
3、4人でも何人でも
あなたのお宅に、あなたの職場に、お集まりください。
生命保険の専門家が皆さんの疑問にお応えいたします。

くわしくは「わいふ」あて 電話で資料請求してください
わいふ指定代理店 東京海上火災保険株式会社 東京海上あんしん生命保険㈱

杉本保険事務所 杉本侑子 ☎03-3260-4771

女が独身でいられる時代

高原 話は変わるけど、木幡さんが二回お見合いしてピンとこなかった話って、わかる気がする。

今の若い男性って、言葉がないような気がしません？ 自分を表現する言葉がないし、相手を引きつけようという努力もない。僕はこれだけのものを持っているから、よく見てほしい、というアピールがまったくないような気がするの。

だから、どっちと結婚しても同じ、というの、すごくよくわかる。

司会 でも染屋さんの最初のボーイフレンドみたいに、アピールのある人は、どっちかという遊び人タイプだったりして、うまくいかないんじゃない。そこらへんの兼ね合いがむずかしい。

高原 きつとその彼はすごくチャーミングだったと思うよ。

染屋 ええ。カッコイイと思います。

高原 木幡さんのお見合いの相手、うちの

息子を見ているみたいで、うちのもきつとそう言われるよ。

染屋 フィーリングがあわなかったんですよ。

木幡 自分でもどうしてだか、よくわからないですけど。

もともと私は自分から行動するタイプで、相手からどんなに言われようが努力されようが、イヤなものにはイヤなんですよ。自分から告白もするし。

高原 積極派だったんだ。

木幡 そうですね。

お見合いのときにすごく不思議だったのは、レストランに入ってオーダーをするじゃないですか。お店の人が何回も通りがかっているのに「すみません」って呼ばないんですよ。オーダーできない。テーブルの上を押しさつきり。

それで、ついに私からオーダーしたら、って言ったんです。でも、相手のそういう点を気にならない自分に驚いた。そんなこと、どうでもよかったですね。

その人ができなかったら自分がやればいんだし、どんどんやっちゃう人だったら

黙ってついて行けばいいんだし。じゃあ、私って何が気になるんだろう、と思って。

いったい私って何さま、何がいの、って自分で思っただけですね。どうしよう私、結婚できないかもしれないって。

司会 二人ぼっちでそう思うの？ たくさんお見合いしたらいいじゃない。

高原 そうよ。

木幡 会社とかまわりにも独身の人、けっこういるじゃないですか。この人と結婚したらこういう生活になるとか、すごくよくわかるんですよ。

きつと朝ご飯をつくる羽目になるだろうとか、夜はきつと先に寝るだろうとか、この人の趣味は私はやらないうろろとか。具体的なことがわかって、ビジョンがはつきり見えちゃうのもまたイヤなんです。好きな人とは結婚したらどうなるんだろうなんて、考えない。

司会 結婚する対象じゃないから好きになれるのかもね。

木幡 けっこう、毎日会ったりすると飽きちゃう。

学生時代につきあっていた人は毎日電話

をかけてくる人で、頼むから毎日電話しないでくれ、って。

五十木 若いときは煩わしいんですよ。

木幡 結婚をしなくちゃいけない理由もわからないし、必要性も感じないし、したいとも思わない。たぶん、子供ができて、結婚しなきゃ困るからするのかなあ、と。

司会 でも、好きだなあと思う人はいたわけですよ、ともかく。いたけれども、一緒に住むような客観的な状況、シチュエーションがない。その人がどっかの偉い人とか、そういう形だから。

木幡 結婚しようとも言ってこなかったし、自分もしたいと思わなかったし。

司会 なんだか、そこらへんがちよつと面白そうねえ。

和田 やつぱり一昔前とは全然違っちゃったってことね。

司会 ともかく結婚する必要性がない。和
田 なくなつた。

われわれのときは猫も杓子も結婚してた。生活上、女は結婚しなければ食べていけなかったから、親も真剣だし本人もそのつもりだから。

今はそんなことないもんね。女も稼げるし。それから大きいのは、女に実家の相続権ができたことね。これは大変なことよ。

司会 でもあなた、私たちの結婚するときだって新憲法だったわよ。

和田 うん。

でも今は、一軒くらい家を持っている人はすくたくさんいるけど、まだそのころは財産を持っている人が少なかった。親がそんなに財産を持っていないのに子供はたくさんいる。分けるってわけにはいかない家庭が多かつたと思うのよ。

それ以前の旧憲法時代には、女には相続権そのものがないし、やつぱり結婚しないとやっていけなかつた。

今はいい時代になつたのね。女が独身でいられる時代になつたんですよ。

子供を生んでみたい

司会 シングルで親の家にいると、自由にお金は使えるものなの？

木幡・五十木・染屋 使えます。

田沢 あの、ちよつと聞いていいですか。親の家にいる人って、生活費をどれぐらい入れているんですか。

染屋 家は賃貸なので、家賃と光熱費とペットの餌代で月に九万。

木幡 私は入れてないです。

和田 お母さんはよこせて言わない？

木幡 正社員だったときは渡していたんですけど、アルバイトになつてからは言わない。でも、妹は入れている。

五十木 若いときは私もそうでした。今は立場が逆になつてしまつて、私が母を扶養している形です。

染屋 うちはまだたく別ですね。冷蔵庫も分けてます、棚で。食品も別だし、食事も自分のぶんは自分でつくる。うちは珍しいと思う。

和田 お母さまはお勤めか何かしてらっしゃるの？

染屋 いえ、もう年ですから。七十九歳。ずつと家にいるからかまいたがりますよ。年をとればとるほど子供に向かつてくる。食事もつくりたがるし、いろんな世話をやきたがる。



司会 で、してもらおうわけ？

染屋 させないです。

司会 ずいぶん意志が強いわね。

五十木 うちは母が全部やってくれていました。食事も洗濯も。それでお小遣いは自由に使えるし、母はわざわざわしいことをあまり言わないし、楽しんでたよ。

和田 確かに。結婚したら楽しんでないもんね。

司会 高原さん、どうですか。結婚してたい身とすれば。

高原 夫はガタガタ言うタイプじゃなくて

楽な人だったんですけど、なにしろ男の子が三人、上の二人は年子でしたから大変でした。

和田 子供さえいなきゃ、結婚も楽かもしれない。

高原 子供のいない夫婦は楽に見えますよ。うちの会社にもいっぱいいるけど。

子育て中の三六五日の飯づくりはホントに大変で、いつもご飯をつくって、いつも食べさせていたような気がする。

司会 何だか、ますます結婚したくなくなっちゃう。

木幡 私はしようと思っではいるけど……

高原 でもね、今は子供がほしい、というのが結婚の最大の原因になりつつあるんじゃないですか。女の人は、絶対一人は産んでみたいからね。

司会 新聞に、人工受精で、種だけもらって男はいらないなんて出ていましたよ。

田沢 ただ、子供が大きくなったときに、「僕のお父さん、どんな人？」って問題が出てきそう。

染屋 女性が、自分の母性を満足させたい

がために、子供をそういう形で手に入れるって、どうなんですかね。ちよつと人間性(?)に反しているように思うんだけど。

高原 私も反していると思います。

染屋 今の若い女の子は、必ず子供は産んでみたいって言いますけど。

司会 木幡さん、どうです？

木幡 まさに、産んでみたい、って感じですよ。女に生まれたからには。育てたくはないけど。

男の人にできないことっていったら、子供を産むことぐらいだなと思っっているので産みたいです。

和田 産んだって、後が大変よ。

木幡 男の子じゃないとイヤです。

和田 男の子だったら、育てるのいいの？

木幡 女の子だと、その子が主役になっちゃうじゃないですか。自分の娘ならあり得ないことなかもしれないけど、若さにヤキモチ焼いたりして……。

私、妹と十歳違いなんですけど、むかし思ってたんですよ、「オマエ、青春はこれからだな」って。

私の人生の主役は私だから、女の子は

ちよつと……。

それに、相手がわからないというのは考えられない。子供なら何でもいいとは全然思わない。好きな人の子供がほしい。

司会 では、そろそろ時間なので、最後に言いたいことか言い足りないことを出していただいで、締めくくりたいと思います。

染屋 結婚で結局、私は法律上のものだと思っんです。男と女が寄り添っていくって、自然なことだと思っんですけど、今までの世の中では結婚という形態をとらなければ認められないところがあった。

一人の人間として、社会人として恥ずかしくないように生きていくけれども、素敵な人と出会って、一緒にいたいなと思ったら、同じ屋根の下で暮らしを共にするという行為に走るかもしれない。それが結婚という形をとるのかどうか、私にはわからないです。

結婚って、好きな男性と同居することなのかと思っっています。もちろん、仕事は続けます。

高原 来年五十歳になるけど、結婚以前に

もつといい恋愛をしてみたい。なかなか難しいです、これが。

木幡 私は結婚します。

必要性を感じないと言いながら、こう言うのもおかしいんですけど、私は働きたくないんです。他人のお金で遊んで暮らしたい。

和田 相当収入の高い人じゃないと駄目だ。

木幡 うちの母なんか見ていると、他人のお金で遊んで暮らしていると思っませんか。

司会 でもね、お母さまの時代の女性は勤め口もないし、すべてのことをおやりになつたと思っのよ、家の中で。今でこそ、すごい活動家だからいろいろ外で運動していらつしやるけど。

昔も今も亭主が寛大でお金を持っれば女房は遊んで暮らせるのよ。女の運は亭主次第。木幡さんもああいふふうに生きようと思つたら、寛大でお金を渡してくれて、なんののかんつて言われない人を見つけないと。いるのかなあ、そんな人。

基本は経済力

田沢 みなさんのお話を聞いていて、自分とは違う世界だなあと思っました。

というのは、私は十八歳で家を出ましたから、とにかく生きていくための生活費は全部自分で稼がないといけない。家賃も払わないとホームレスになつてしまふ。そういう状況ですつときていますから、今の話はべつ宇宙のような気がするんですね。

現実は今、やつと子供は成人したものの、今度は私自身が失業して、失業保険も今月いっぱい切れてしまふわけで、もう収入がない。

厚生年金も、推定して私には月額七万五千円しか出ないんです。それでどうやって生きていくか。長く働いてきても、女はスタートの時点で年収が違ふから、査定で男の三分の一しかない。

私のお友達ハズバンドは、年金が二十三万あるそうです。それだと過去一千万円

は年収があつたんですね。で、私はちょうど三分の一だから、計算上はびつたりある。最初から低くおさえられている年収で計算されますから、そんなもんなんです。

ですから私の人生は、最初からお金を数えて暮らす生活で、あの世にいくときも葬式代はいくらかなって数えて終わるんじゃないかと思つています。

結局、基本的にみなさんは生活の不安は全然ないわけです。だけど私の場合は、明日倒れたらそれでお終い。本当にいつも瀬戸際に立っている。

この先、最後の計画を立てて、うまく死ななきゃいけないっていうのは、そういう背景があるんです。

私が病気がケガをしたら、子供たちがいくらか援助してくれるかもしれないけど、一人は社会人ですが、一人は自己退学して学歴のない、底辺の肉体労働者ですから、彼が一人前になるには後十年はかかるでしょう。

その七万五千円と、プラス国民年金の一萬五千円。それで生きていけるものかどうか。

エイヤツつて、十四階から飛び下りればいっぺんで人生が終わつてしまうような生活なんですよ。

だから私、今日は来てはいけなかったのかな、つて。

和田 いやいや、ぜひ、そういうお話は出してほしかったです。

女の人が孤立無援だったらそうなりますよ。だから昔は女は一人では生きていけないから結婚しろといったわけです。

田沢 私も結婚すれば普通の、家族とか家族愛に憧れを持っていたんですけど、それが幸せな人生を送れる一つのカードだと思つていたんですけど、引いたカードがジョーカーだった。それはやっぱり、私には家族とか男運のない人生が最初から設定されていたのかなあつて。

まあ、すんでしまったことはいくら言つてもしょうがないんで、これから先ちゃんと考えて生きていかなきゃいけないと思つています。

司会 でもイヤな男と、自分にとつて何の取り柄もメリットもない男と一緒に暮らすより、ともかく自立して生きていらしたん

だから、本当に田沢さん、よくなつたと思つたわ。それだけ女の人生は昔よりよくなつたということですよ。

和田 世の中の動きの影響は大きいですね。

田沢 さつき木幡さんが、年とつたらお掃除のオバサンになるのかな、とおっしゃつたでしょう。来年、カレンジャーが変われば、もう私、それしかないんです。

五十木 確かにそうですね、年齢的にはわかりません。

田沢 だからやっぱり基本は経済力、お金ですね。一人で生きることの基本は①健康、②孤独に堪える意志、③衣食住を支えられる収入、だと思つています。

司会 今日はこれでよろしいでしょうか。最後に、田沢さんの重みのある発言で終わらせていただきます。

田沢 重いんですようか。

司会 重たいですよ。

五十木 しっかりと受け止めました。司会 どうも今日は充実したお話をありがとうございました。

出会いと別れ——私の場合②

東京都北区 田沢 未実

世田谷区でのアパート生活は二年間。その後、義父が定年退職後のために買った建て売り住宅に四年間住まわせてもらった。この家は、後日同居する予定で基本プランを少し変更してもらったものであったが、一度も同居することなく終ってしまった。

起きない夫

その家から都心の勤め先まで、我々は共に片道約二時間かけて通勤した。

東京都と神奈川県の間にある辺鄙な場所だったので、当時は最寄りの駅まで出るのに徒歩とバスとで三十分近くかかった。朝は六時半には出かけなくてはならず、夜は定刻に会社を出ても八時頃にやっとたどり着くという生活だった。

長距離通勤の往復に費やす時間とエネルギーの浪費はお互いさまたと思うが、その家に住み始めてから彼は時々欠勤するようになった。二日酔いとか徹夜マージャンの疲れが残っていて起

きられないとか、情けない理由が多かった。

「俺はあと一時間眠ってから出るから、先にいってくれ……」とか、

「今日は休むから……」と寝ぼけ眼で言うのであった。

私はそういうことが度重なると、寝ている彼を起こさず、定刻になれば先にさっさと一人で出勤した。

私は無理に彼を起こして出勤させようとはしなかった。記憶が定かではないのでなんともいえないが、それでも

最初の一回か二回は起こそうとしたかもしれない。はつきり覚えているのは、起こしても無駄と分かってからは、自分の時間割りに従って出勤していくのが日常化したことである。

結婚はしたものの、彼一人の収入では苦しいのがはつきりしていたので、共に働く生活を続けようと最初から思っていたことは第一回にも書いた。

そのような生活であったが、実に幸運なことに、彼はサラリーマンとしてどうにか給料もボーナスもきちんと貰っていた。今思えばいい時代だったと言える。

子供をどうするか

彼の両親はやさしく穏やかな人達で、露骨に「孫の顔を早く見たいものだ」などと言うような人達ではなかったが、それでもたまにそれらしいことをほのめかすことはあった。

私は子供を持つことを内心恐れていた。子供を持つことで「働くこと」と



「自由時間」の両方を失うことを恐れていた。そうは思っても、幼児や赤ん坊を連れた夫婦の姿を見る度に感じる劣等感も抱えていた。

もつと強く感じていたのは「子供をもってこそ一人前」とか「家族らしい家族」という日本型定番・不変のイ

メージからの抑圧であった。このまま年を取って出産年齢を過ぎたとしても後悔しないだろうか、と働きながらも自問自答をくりかえしていた長い一時期がある。

不妊であると判定されたわけではなかったから、産みたいと思えば産めると思い込んでいた。また高年出産の危険性なども耳にすると気持ちが悪いらしい。

彼は「子供はいてもいなくてもいいよ」という人だった。

あの言葉はいたわりだったろうか。私たちは避妊していなかったから。

三、四年経っても妊娠の気配がないので「出来ないもの」と思っていたらしい。「子供を持つ生活を選ぶか、持てないならどうするか」などと真剣に話し合ったこともない。

仮に話し合ったとしても物事がその通りになるわけではないが、私は夫婦間の大事なことを特にそれがネガティブであればあるほど、しつかり話し合うということをしなかった。

「結婚生活の破綻」を恐れていたからではないかと今にして思う。ということとは、そのような芽をどこかに妊んでいる関係であったのだといえる。それに正直に向き合えなかった。

私は三十三歳になって妊娠した。年齢的に見てラストチャンスであると思った。

ひどいつわりに襲われた。通勤中はおろか、家の中ですらちよっとした臭いに反応しておう吐する症状が続いた。食品の臭いであれ、バスのシートなどの臭いであれ、彼が家で飲むウイスキーの臭いであれ、不快だなど感じたとたんに吐いてしまうという症状だった。

会社勤めをやめて「専業主婦」になった。けれどもその第一子は早産してしまった。長男が無事誕生したのは三十五歳。高年出産といわれた。当然のことながら、私が勤めをやめてから収入は半減して生活は一挙に苦しくなり、食べていくのがやっとの日々になった。

それでも彼はマージャンを止めず、それで勝った分だけ飲むから、という理由で外で飲む回数も減らなかった。

「やれやれ」の畏

彼は人の良さそうな目尻のさがった優しい風貌で、物言いも当たりが柔らかく外の人から見ればいい夫であった。私にも同じように優しく接し、声を荒らげるようなことのない人柄であった。

両親と姉・弟と祖母という家族構成で育ち、特に学校の成績が良く、親に期待されて東京の私立大学までいかせて貰ったことが自慢であった。彼の家族が、どんなに家族愛に満ちたい家庭であったかという彼の話を、別れるころまでに何十回何百回、まさに耳にタコができる位に聞かされた。が、世の中にひとつも瑕疵のない家族などあるのか？

「家族愛！」

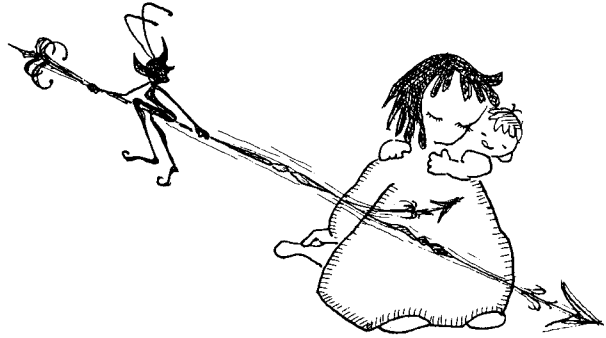
その幻影に私は溺れたのだ。その輪

の中に入りたかったのだ。家族とは言えない家（この事情は煩瑣になるので省略）の中で養女として育った私は、本物（？）の家族が欲しかったのである。

だから、彼の優しさを取り違えて解釈していたことに気づくまで長い時間がかかった。

長男が生まれて二年後、彼に大阪転勤命令が出た。私は二番目の子を妊娠していて五カ月目くらいであった。やっとなり流産の危機を脱したところであったし、長男は二歳を過ぎたばかりだったから、辞令後の一週間で荷物をまとめ一家あげての転居は無理だった。単身赴任で彼はひとり大阪へ出発し社員寮に住むことになった。いずれ社宅が見つかったら私たちも行くということにし、私と二歳の長男と二人きりでその家に残った。

この時に、彼がサラ金に借金があると分かり義父が代理返済をしてくれた。我々には貯金はおろか、月々の生活費がやっとのありさまでもとも払え



なかった。借りたお金は殆ど飲み代の支払いと賭けマージャンの精算に消えた。

彼一人の収入で親子三人やつと生活しているのに彼はマージャンも酒もや

めなかったから、いつかこういうことが起こるだろうという危惧はあった。だからサラ金からの借金は「やっぱりそうか」と思うだけだった。返済金を父親に借りたのは彼自身であったと思う。

私はそのことで彼と言い争いをして、非難をしたりしなかった。「普通の奥さん」なら、どうしてこんなことしたのよ!と激しく問い詰めるものなのだろう。

私はしなかった。なぜ?

「結婚生活の維持」が一番の目標になっていた。夢として抱いたものは何もかも、中途半端なままやめてしまつて、いまや三十七歳。

「せめて結婚生活くらいはまともに続けたい」それが本音だった。だから言いたいことを呑みこんでしまった。呑みこんでもそれは消えずに気持ちの底に溜って残るのに、その場で素直に感情を爆発させない私の性格がこうさせたのだ。

彼が酔ってよく言った科白を思い出

す。

「君は偉いよ。何でも一人で出来るから」

そう、私は行動力はあった。思ったことを行動に移す時は迷わず実行するタイプなのだ。実行に移すまで考えていることは、人には解らないようにする。誰にも話さない。だから「奇異」な感じを人々が持つこともあるだろう。私にとってのはたっぷり考えた末のことでも……。

片言をしゃべり出し可愛い盛りとなった長男とふたりきりの生活は、昼間はとうとうということもないが、日が暮れると人っ子一人通らぬ新興住宅地はしんと静まり返り、深夜の風の音や犬の遠吠えが不気味だった。

折悪しく季節は秋で、一日ごとに日没時刻が早くなりもの淋しくなる。十一月になって、とうとう「杜宅を見てほしい。年が暮れないうちに引越したい」と大阪に電話をかけた。

八カ月の大きさにふくらんだおなかを抱え二歳半の長男の手を引いて、新

大阪駅に降り立ったのは一九七六年十二月であった。

あの日の日付けは定かでないが、小さな籐のバスケットを手にした長男が、新幹線の到着プラットフォームを彼の方に向かって駆け出していった時の、小さな後ろ姿はいまでも忘れられない。

はるか昔(だとその当時は思っていた)春三月まで雪の残る故郷のA市を出た時、私は人生は可能性に満ちたものと信じている十八歳だった。それでも大阪で暮す日が来るとは思ってもみなかった。だから大阪という土地に来たということだけで、なんとなくある種の興奮状態にあった。

新大阪駅から出たタクシーが新御堂筋を、北大阪急行電車の線路に添ってT市に向かって走った時のこともよく覚えていた。

みじめすぎる借家

あの時私は、自ら選択した生き方の

結果をやがて刈り取らなくてはならないという現実には直面するまでの、束の間の希望を味わっていたのだ。人生のターニングポイントに向かって走り出していたのだということも、あのときはまだ分かっていなかった。

「借り上げ社宅」のその家についての夜八時頃だったと思う。周囲の様子はその晩はよくわからなかったが、その家の玄関に一步入った時のショックは何と云ってもいいか、今風にいうと「えっ、なにコレ？」であった。

玄関とは名ばかり、入ったところは人間一人がやっと立っている分のスペースしかない。上がりカマチの部分がいやに高くて大人の膝ほどの高さである。上がったところもまた大人一人が立っているのがやっと。そこから二階への階段は胸をつくような急勾配である。その狭い上がりカマチの脇にトイレがあるのだ。だから玄関はトイレの臭いがする。二階から下りたらそこが上がりカマチでトイレの入り口であり、一階六畳の部屋に入るドア前のス

ペースであった。あまりに狭いのでドアは部屋の内側にしか開かない。

部屋に入って更に驚いたのは「壁」だった。昔、東北の村の家で見て以来見たこともないような、また一九七〇年代の東京では見かけもしなかったような「砂壁」だった。指で触れるとザラザラした砂粒が落ちる茶色の壁であった。

もっと驚いたのは、その六畳の部屋に続く三畳程の板敷きの台所。汚い！床も窓も更にそこから裏の物置(波板で囲った差しかけ小屋みたいな)に続いているガラス戸も。とにかく何もかも「汚い」の一語に尽きた。いつ掃除したのかと思うほどの汚れ方であった。風呂場のドアの下は湿って腐りかけたようで、床板に少し穴があいていたし、家全体の照明も薄暗く、うらぶれた感じの家の中であった。

貸し家としては最低レベルだった。社宅として貸し出すのに、内部の改装も掃除もしていない家であった。あの汚さは今思い出してもゾッとする。こ

んな家を社宅として賃した大家にも、内部をきちんと検分もせず借りた夫にも腹が立ち、後日それがだんだんエスカレートしていく。

しかし、この時は子供も私も疲れきっていて風呂にも入らずに、彼がいた寮に先に送っておいた布団を出して寝てしまった。

彼はその前日社員寮から自分の荷物を持って引越していたのである。所帯道具の荷物を積んだトラックはこの日の翌朝到着することになっていた。(ここでちょっとお断りしておかなくてはならない。なんでこの引越しとこの家の様子にこんなにかだわるのか、とお思いかも知れない。が、この家に到着した時のあまりの汚さに対するショックと、その後の四年間の暮らしたが、私の精神状態に大きく影響し、やがてノイローゼも引き起こしたからである。なので、この家のことをもう少し述べさせていたきたい)。

翌朝目覚めてまたまた驚いてしまった。その一階の六畳の部屋には全く日

が差さないのだ。雨戸をあけても薄暗い。電灯をつけないといられないような暗さなのである。

冬の日差しだからというのではなく、その家は西向きに建っており、東は物置で隣家と屋根を接しており、北と南は壁、隣家との間がやっとひと一人が通れる狭さで建っているのだであった。つまり季節に関係なく常に日光が差さない構造の家であった。

外へ出てみた。周りの様子が初めて分かった。かつて田んぼだった場所に密集して建てられた一角で、採光も通風も考慮せず粗製濫造された見すばらしい住宅の一群が十五軒ばかり、車一台ほどの幅の道路に向かって一列に並んでいた。

みな同じ西向きで、それでも小さな門が申し訳け程度についており、ほとんど同じ外観だった。ひと昔前の建て売り住宅だと分かる家並みだった。朝日はその家並みの後ろから差していた。そしてその通りの向こう側に、建築後二、三年といった様子の新しい建

て売り住宅の一群があった。その一群は年代が新しいせいかな採光については考えられたものらしく、南向きに建った家々であった。このことが目を追うにつれて私の強いストレスになっていた。

しかし、「この汚い家は嫌だ」といったところで、いまさらどうしようもない。ともかくも荷物を積んだトラックは到着するし、しかたがない。

東京から来たトラックは帰りを急ぐかしてあわただしく荷物を降ろした。大きな家具類、といっても冷蔵庫・洗濯機と食器棚・テーブル・イス四つと整理たんす・ロッカーが一つずつ、そしてテレビ一台がめばしい家具といえは家具だった。スタンダード版の和風嫁入り三点セットのような家具など持たぬ私であったから、紅白のリボンを嫁入り家具に掛けて、町内に見せびらかしたりする地方の人々がみたら、びっくりするような超貧乏引越してあったわけである。

運送業者は、大きいものをどこに置くかだけ決めると、細々した箱類は無

差別にどんどん下ろし積んでいく。だからこの時は彼も荷物整理で協力せざるをえなかった。彼の家庭における肉体労働は、この時と五年後にもう一回見ただけである。そのことは後述する。

それにしても、こんなにも汚れて薄暗い家をなぜ借りたのだろうか？ 社宅としての家賃規定があるにしても、もっと他の場所や家をじっくり見て回ればいいものを。

だが彼はそれをしなかった。面倒くさがりだったのと、家というものに対する鈍感さがそうさせたのである。休日は半日寝ているような人だったから、あちこちと家を見て回る労力を惜しんだうえに、日当たり・風通しのことなど考えもしなかったであろう。不動産屋に案内された最初のその家で、ま、いいや、と決めてしまっただけらしい。妻と子供がその家で、「二十四時間三六五日暮らすのにどうであろうか」とは考えなかったであろう。

彼がこの家を借りに来た時の様子に

ついでの話聞いたのは、次男の出産も終わり大分時間が経ってからである。その述懐で分かったのは、この家のみならず大家（隣）の家もすごく汚いということである。

最初見に来た時に案内されてなかに入ったら、「家の中が散らかっていて、おまけにあんまり汚なくて、どうぞお座りくださいといわれても座ることができなくて俺は立ち膝してた」というのであった。

それでもそんな大家の家を借りたのは、彼の「住まいに対する無関心」と言えるだろうし、他も見て回って少しでもいい家を探そうとする意欲の無さであつたらうとも思う。

男というものは（特に日本のサラリーマンは）おおむね家にいる時間が極端に少ないから、「妻子の生活の場」にたいする関心が少ないものなのではないか、と言われた方がいる。実にもっともだと思ふ。まして会社が借りあげる社宅となれば、採光も通風も知ったことではないのかもしれない。

「こんな汚い日も射さない家に住みたくない！」と言えば良かったかもしれない。しかしここでも私はそれを言わなかった。ともかくも、ここへ来たんだ、ここで暮らすしかない。それだけだった。結婚生活維持という大義名分の重みはそういう風に、私に言いいたいことをその場ですぐに言わない生活をしっかりと身につけさせていた。そのようにして「普通の主婦らしい人生」をすごしたかった。

その場で感情や言葉を素直に表現しない人といえは、「根くらで陰気な嫌な人」と思うのが普通かもしれない。私にはそういう性格が根底にあると思ふ。それゆえ、それを隠そうとして無理に明るく振る舞うのかもしれない。本当はそうしたくないのに、心にもないことを言ったりしたりする。時には軽薄ですらあった。そして、そのように言ったり行動したりする自分自身そのものをストレスとして抱え込み、時間が経過して耐え切れなくなつてからやっと話し出す。或いは行動を起こす。

二人の幼児を抱えて

さて、それから大きなお腹で休み休みゆつくり荷物の整理をしながら、十二月から二月下旬まで、私は冬ごもりの熊の親子のようにその家にこもって過ごした。

食料品を買いに長男の手を引きノロノロ歩いて外出するだけで、話をする人もなく、毎日決まり切った食事・入浴・就寝の繰り返しで、幼児と妊婦の「ひっそり生活」をしていた。

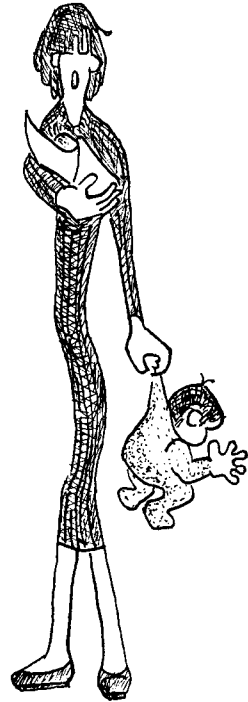
夫は大阪転勤後もマージャンにひたっていたらしく、帰りはいつも遅かった。当時の大阪支店長がまたマージャン好きで、接待にもマージャン、なにかという自宅でも又マージャン、というわけで彼はその常連メンバーなのであった。そのうちにゴルフなども始めて典型的サラリーマンのパターンになっていった。

一九七七年二月、次男が誕生した。長男誕生の時、義母が片道一時間

ほどかけて子供の入浴や食事の用意の手伝いに約一カ月通ってくれたが大阪ではそれも行かない。

出産予定日を人工的にアレンジする時代になっていたので、入院の前日にはるばる大阪まできてくれて、彼女の長男である私の夫と、孫にあたる私たちの長男を見てくれることになった。

二歳十カ月の「孫であるほうの長男君」はまだ夜はおむつをしていたし「夫であるほうの長男君」は食事の支度もできない人だったし、現在のように「育児休業」という概念が広まっていない時代だったので、上の子供を見



るため会社を休むというそもそもの発想がなかった。私自身にだってまだそのような発想はなかった。

約六日間の出産入院だったが、この間に義母と私が「御礼の品」のことで気まづくなり、私が次男を抱いて帰宅したその日に入れ違いに義母は東京に帰ってしまった。

退院した正にその日から生後六日目の次男と二歳十カ月の長男と、帰りが遅くなんの手助けにもならぬ夫との生活が待っていた。

— 続く —

(え・橋本美智子)

子育てフォーラム

NMSのページ



子どもの友達遊び

東京都国分寺市 太田明子

もうすぐ六歳になる長女は、三歳になつたばかりの次女と遊ぶのが好きだ。家の中でよく色々なごっこ遊びをしている。次女は我が強く、全て長女の言いなりになるわけではないが、長女はある程度自分の思い通りに遊べる。

家の外で子ども達の遊ぶ声がする。私の二人の子どもは家の中で楽しく一緒に遊んでいるので、私がやりたいことを妨げられることはない。けれども

私は、外の子どもの声が気になって仕方なくなり、何も手につかなくなってくる。

長女が早く外に出て遊べばいいのに、外の子どもの声が長女に聞こえていないわけではないのだから一緒に遊べばいいのに、と私は思ってしまう。外で遊ぶ方が健康的だし、きょうだいで遊ぶのはいつでもできる。次女は外の子とも達とうまく一緒に遊べる年齢ではないが、長女は十分遊べる年齢だ。何故外に出て行かないのか。

いつも私がしびれを切らして長女に声をかけてしまう。「外で皆遊んでいるよ。入れて、と言って一緒に遊んでもらえば」

長女は少し嫌そうな顔をするが、大抵は、

「分かった」

と言って出て行く。時には、「行けばいいんでしよう」と言うこともある。

私は過保護なのだろうか。私が声をかけなくても、いつか長女が自分から外に出て行く時が来るのかもしれない、と思いつつ、つい気になって声をかけてしまう。長女が外に出るとほとんどの場合、子ども達は一緒に遊んでくれるし、長女も楽しそうにする。これで良かったと思う一方で、長女の少しばかりの嫌そうな顔が思い浮かび、複雑な気持ちになる。色々な人と触れ



合って欲しい、友達とたくさん遊んで欲しい、できるだけ外で遊んで丈夫になつて欲しい、と願うのは、長女にとって負担なのかもしれない。

ある時、長女は幼稚園の友達の家遊びに行った。親同士の約束で遊びに行くと、夕方私が長女を迎えに行くに、長女と同じようにその家に遊びに来ていた子ども達が、

「これ、もらったの」

と手にしていた小物を私に見せた。長女は、

「あたしは何ももらっていない」

と言つて出て来た。長女は元気に友達に別れを言い、私達は家に帰つた。

私は、家に帰る途中も帰つてからも、何故長女だけ何ももらっていないのだろうか、という思いにとりつかれ

ていた。耐えきれず、長女に色々聞くと、ある程度は納得できた。長女が欲しいと思つた小物を、その家の子はあげたくなかつたようで、長女はあきらめてしまつたのだ。

「あたし、我慢したの」

と長女は言つた。そんな長女がいじらしかつたが、私の心の中には、長女はあまり友達に好かれないうちなのかもしれない、という怖れといらだちが残つてしまう。

私は幼い頃、引つ込み思案だつた。

そこそこ勉強が出来たので多少は同級生から認められていたが、そうでなければいてもいなくてもいい存在だつたような気がする。そしてそんな自分がたまたまなく嫌だつた。快活で明るく、誰とでも仲よくなれる人が羨ましかつた。

大人になるにつれ、自分から人に話しかける勇氣を持てるようになったが、努力し始めた頃は、誰かと二人きりしていると、自分が相手を退屈させているのではないかという不安にかられ

たものだ。

私のそんな経験と性質が、長女への期待と干渉につながっているのかもしれない。そう考えると長女に対して申し訳ない気持ちになる。

自分からはなかなか声をかけられませんが、私が提案するとなんとか声をだし、楽しく友達と遊ぶこともある長女と比べ、次女はもつと昔の私に似ている。長女としか遊ぼうとせず、外に出ると私にビツタリくっついていて。同年代の子どもに興味は示すが、自分から近づくことはないし、相手が近づいてくると私のかげに隠れてしまう。

きつとこの先、長女の時のように、次女の友達遊びでも気をもむことになるだろう。次女の方がうまく友達と遊べないだろうが、私にとっては二度目の経験なので、少しは自分に忍耐力がついているだろうと期待している。

けれども、私の苦い思いは続くだろう。子どもを良い意味で放っておけない自分が嫌になる。私の子育ては、子どもを信じ、見守る忍耐力という大切

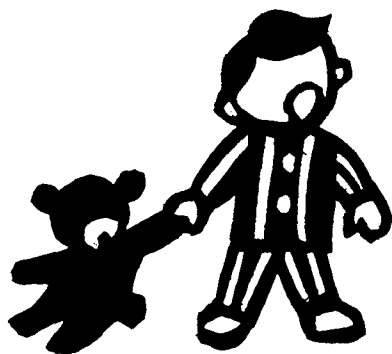
なところが欠けているのだと思う。自分と同化することなく、子どもの人格を認め、ありのままの子どもを受け入れることができない。どうしたら欠けている部分を補えるようになるのか、今は分からない状態だ。

あつという間に甘えん坊に

東京都府中市 杉田みほ

十二月末の出産をひかえて、しばらく夫の実家に身を寄せています。まだまだ野歩のほ(長男、一歳五カ月)に手がかかるので、出産前後は家族の多いほうがいいだろうと……。

大人四人、それぞれ仕事を持っていて、日頃から家事に手の回らない家なので、ふだんの三倍ぐらい家事をやっているような気がします。別によい嫁を演じるつもりはないし、細かいこと



を気にしない人たちなので、気はラクですが、突然七人家族になって、食事の支度も時間がかかるし、小さい子を育てるにはあまり汚れが蓄積されているし……で、とにかくよく働いていきます。これで安産は間違いないでしょう！

「専業主婦のお母さんが一日そばにいて、気を使わなくていいんじゃない？」

と言ってくれた人がいて、たしかにものは考えようだと思いました。多分日本の平均レベルと比べると、夫の実家と言ってもかなり気楽に過ごせる環境だろうと思います。私のやり方を尊重してくれるし……。

ただつらいのは、野歩の寝かしつけのときです。寝つくまでついていないと、すごい剣幕で泣きわめいて、みんなびっくり。家ではときどきやるけれど、夫は平気で眠っているような人なので、私が泣き声に耐えて三日もすれば、泣いてもしかなないと悟って、またしばらく静かに寝つく日々がやって

きます。

今まで泊まりにきたときは、並んで寝ていましたから、泣くこともなかったし、私がいなくてもお義母さんと一緒におとなしく寝ていたので、「本当に手のかからない子だねー」と言われていました（私はふだん一人で寝かせるようにしていたからだ、と思っっているのですが……）。

でも三カ月近くもここで生活するとなると、そういう特別な状態をつづけるわけにはいかない、あとで大変なことになるだろうと思っ、ベビーベッドも持つてきて、いつものように一人で寝かすようにしたわけです。

でもお義母さんに、「かわいそう」「ついていてあげたら」と言われると、苦しいですね。

野歩もかなりいろいろなことを理解するようになってきたから、上手に甘えるし、お産が近づいて何か感じるところもあるのか、はたまた、こちらに来て遊び仲間がいなくなつてエネルギーを持てあましているからか、とに

かくグツと甘えん坊になってしまっているのです。

まあせめて寝つくまではいるとしても、ベビーベッドに寝かすという点だけは、くずさずにいきたいと思っるところです。

子どもを手放してみて

三重県阿山郡 林 京子

初めて子どもを手元から放したのは昨年九月。私の右足股関節の手術のため、二カ月入院したときですが、その手術を決断するのに、当時一歳十カ月の子を二カ月半も親から放して、その後そのことがどう子どもに影響していくかが一番の心配事でした。

三歳までは母親と一緒にというのがいろいろな本や雑誌を通して目に入っていましたし、足の治療はしたいけれ

ど、もう少し大きくなるまで待ったほうがよいのでは……、だけどそれまで私の足がもつかどうか迷い始めていたとき、村のある人に「手術を受けたいけれど子どものことが心配で迷っている」と話したところ、「子どものことが一番心配いらないと思う」と返ってきたのです。

その夜夫に「手術したいけどSのことが心配。Aさんは、子どものことが一番心配いらないって言っていたけどどう思う？」と話したところ、「オレも子どものことは心配いらないと思う。親から放したらどうなるか、どう育つかやってみたらいい」という返事が返ってきたのでした。

それで私もやっとな決心し、二カ月半の入院にいたしました。入院中はかえって会わないほうが子どももすっきりやれるのではない、会わないでやりました。

退院して帰ってきたときは、ほんとうにすっきりしている子どもにも変わっていて、私はずっと見ていたら、こん

な風には育たなかったらうと、とても感動したものです。泣いて思いを通そうとすることも、すねてみたりすることもなく、とても素直な子に変身してしまいました。私にはそう見えたのです。



ですが十日もするとだんだんと入院前のその子にもどり、というよりも、もっと親（私）を自分の思いどおりにしようとするわがまま（？）な子に変わっていききました。私がそうしてしまったのです。長い間離れていたことを不憫に思う気持ちがかどこかにあり、「かわいい、かわいい」とそれまで以上に甘やかし、もとに戻ってしまったのです。

そのころヤマギシズムの「太陽の家」の係さんからも声がかかり、少しははつきりした態度をとるようにしてみたりしながら、子どもも少しずつ変わってきたという感じでした。

二度目の手術の今回も、やはり前回と同じようなことをやってみてしまいました。今年はずっと子どもの様子も一度目とはまったく変わって「しない」「やだもん」「も！ きれいな！」と、以前にも多少はありましたが、ここまではっきりしたものではありません、それが三歳という年齢によるものなのか、また別の要素によるものなのか考えましたが、子

どもはどうあれ私は、いつの間にか甘い甘い母親になってしまふのです。

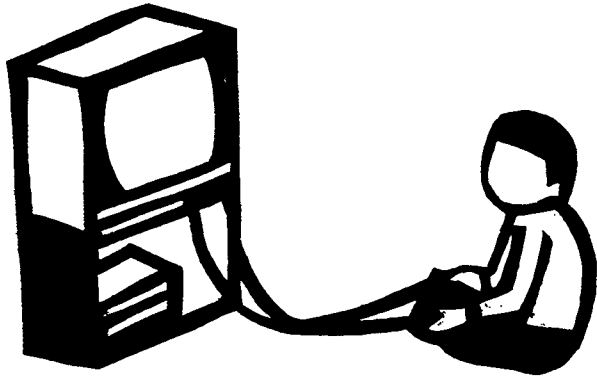
やはり久しぶりのわが子はかわいく、どうしてもいつの間にか自分でもはつきり意識しないまま、かわいかわいといと甘くなり、段々と手に負えなくなつた頃やつとそのことに気づくという有様です。

今回もそのことに気づいたのは退院して三週間ぐらいしてからでした。このことはやはり親である私のテーマだと思ひます。子育てについてほんとうに考えてみたいと思ひます。

ファミコンは要らない

東京都目黒区 佐野千代

大田生活者ネットワークの「子育ては社会のしごと」という、田中喜美子さんの講演を聞きました。



講演の中で「ファミコンは、百害あつて一利なし」の言葉に、我が意を得たりとうれしく思い、田中さんはこの決論を出す迄に、膨大な調査をされたとの事でしたが、私がどうして、我が子にファミコンを反対したのか考えてみました。

我が家の子供達が小学生の頃は、手帳の大きさのゲーム機が始めて、今のような大がかりなファミコンは中学生になつた頃から、流行し始めました。

「家では二十五歳まで買いません」と宣言したのですが、長男が二十一歳の夏、アメリカのケンタッキー州から、十七歳の男子留学生が六週間滞在しました。夏休み迄は、都立国際高校に通学したのですが、家に居る日には、私のあとを一日追いつづけ、「それは何」「それはどうするの」と質問せめて、とうとう私がネをあげて、長男に「お願いファミコンを買つて来て」と頼んでしまいました。

アメリカ空軍の戦闘機の隊員の先生

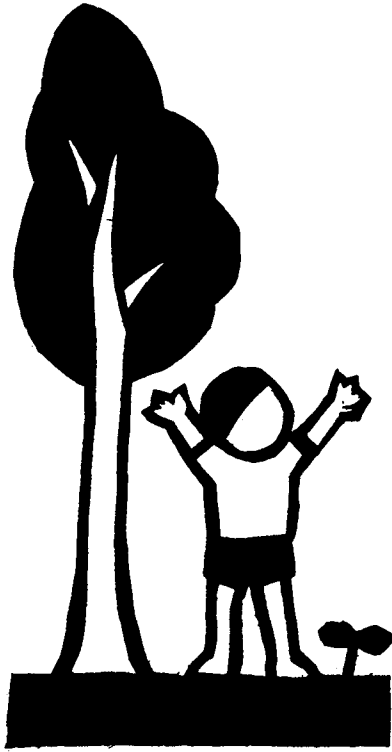
を父に持つ彼は、操縦士さながらの速さでファミコンを扱い、我が家や近所の子供達はあつけにとられ、私は質問せめから解放されました。

彼の帰国と共にファミコンは子供達のものとなり、子供が出かけたあとの午前中は私が遊んで、気がつくとお昼という事がしばしばありました。

私が二十五歳と考えた理由は、人間の肉体の成長は二十五歳で頂点に達し、そこから老化が始まる、ともの

本で読んだことがあり、それと人格の形成とを結びつけたもので、人格の形成がなされる迄は、遊んではいけないものと考えたからなのです。

食べたり、歩いたり、飛んだりなど、生きるすべは全ての動物が親から教えられる共通のことでしょうが、人間は生きるすべだけを伝えられるのではなく、豊かな感情や、人と人とのつながりの対人関係の知恵などを学習するのが、大人になる迄の一番大切な事



だと思うのです。

いい事をしたら気持ちがいい、悪い事をしたら何となく落ち着かない、みんなで食事をしたらおいしく、沢山食べられる等々、幼いうちに身体に植えつけなければならぬ事が多くあります。

ファミコンはそれ自体に全く感情がなく、何人やつづけた、いくつのハードルをこえた等々、指さきの反射神経が重要で、そこに心は存在しない、一言でいえば「ひまつぶしにするもの」と思いました。

大人になる迄には、言わなくちゃいけない事、言つてはいけない事、しなくちゃいけない事、してはいけない事、がまんする事、がまんの仕方、自分や人の悲しみをどうする、怒りを……、喜びを……等々、日々の暮らしの中で、一つ一つ学んでいくのが大切な事だと思つたのです。

「でも禁止と言つて、子供がよくいう事をききましたね」と言われたことがあります。

一歳前からその家庭なりの規則正しい生活を身につける事は親の責任と考えています。

そのルールをその場、その場、いき当りばったりで、くるくる変えては子供がわがまま勝手になるのは当り前だと思っております。

二、三歳の時、寝る前にチョコレートを泣いて欲しがり、親が根負けして与えるようなことをしつづけければ、長じて後の暴走族につながる気がします。

テレビでのケーキのぶつけ合い、ビールのかけ合いなど、「勿体ないわねー」と親が心いためて言うのを聞きながら観る子供と、何も聞かずに観る子供が同じように育つ訳がないと思うのです。私は叱るときは全力で叱りました。

現在長男は二十九歳、二女は二十六歳となり、保護者としての母親役の日々は遙か遠くなつてしまいました。しかし二、三年前長男が「僕も子供には二十五歳迄ファミコン禁止するよ」と言ったのでした。

親の真剣な気迫はきちんと理解され、いつの日か納得もされると、うれしく思いました。

NMS研究会御中

―再びかやの外から―

札幌市清田区 香山なおみ(37歳)

NMS研究会へ、再びお便り差し上げます。

NMSのことが知りたいという私の投稿に対して、二七〇号でNMSアドバイザー小松智子さんから丁寧な回答をいただき、感謝しています。でも残念ながら、私の知りたい内容とは少し違っていました。

以来、意図を十分に伝えきれなかった稚拙な文章を反省しつつ、釈然としない思いを引きずっていました。

抱き癖批判論への反論も、私を含め数人の文章が掲載されました。それと

同じころ目にした「スタッフから」(二七三号)の田中編集長の一文。「(NMSが) 発足してから、そうか、けじめのある子育てに反対の人はこんなにも多いんだ!と身に沁みる毎日」

これを読んだ時、とても悲しくなりました。違ーう!と、心の中で叫びました。これが「私を含め数人」だけに対しての言葉ではないとわかっていても、ああ、どうしてもわかってもらえないんだなあ、と、ため息が出てしまいました。

どこに、けじめのある子育てに反対の人などいるでしょうか? 子育ての中で「けじめ」というものの考え方がNMS方式と相容れないだけで、そんなふうを決めつけないでほしい。そう感じたのは私だけでしょうか。

NMSの中ではこう考えています、という定義があるのは当然です。でもそれを永遠不変の真理のように掲げられてはたまりません。

たとえば二七五号「NMS研究会よ

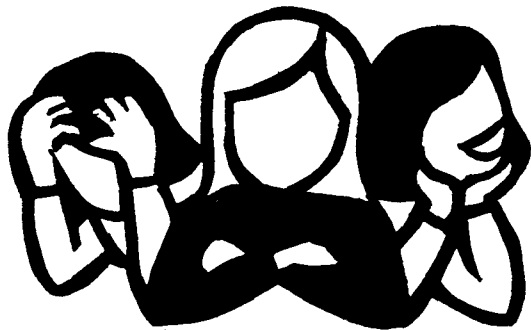
り」。

「それにしても、子育てを語る時には、現場のお母さんの体験と知恵をフルに活用しなければウソ、とつくづく感じます。」……ウンウン、わかってくれてんじゃない……。」「正しい考え方の基礎さえわきまえていけば、現場のお母さんの知恵にまざるすばらしいものはありません。」……え？ 正しい考え方の基礎さえわきまえていれば？……。「正しい考え方」って何？ 誰が決めるの？ NMS？ ……やっぱりね……。

この文章に続き、NHKの育児に関する番組のことが書かれています（私も興味深く観ていました）。そして曰く、「間違った子育ての結果、少しでもいい苦勞をしているお母さんは、ほんとにかわいそう！」

「間違った子育て」って何ですか？ どの時点でそんなことが決まるのでしょうか。

あの番組に出ているお母さん達も、みんなとして世の多くのお母さん達も、みんな



な一生懸命です。そのやり方はNMS方式ではないかもしれない。しないでいい苦勞をしているかもしれない。でも、だからといって「間違い」だなんて言われたくない。それも一生懸命な日常生活の、ほんの一面を垣間見ただけで。

確かに「間違った子育て」は存在するでしょう。でも私は、犯罪レベルの虐待などに関してのみ、その表現を使いたいと思います。

同様にもう一点、気になる表現がありました。それについて飯島まゆみさんが二七五号「何が子育ての『結果』か」で書いてくださった一文は、まさに我が意を得たり！でした。

「『こんな風に育てたら、こんな子になった』という表現に、私は抵抗がある」

そうなんです！ NMSの表現に、私はとても抵抗があるんです。

飯島さんが書いていらつしやるのは、二七四号「NMS研究会より」に

ついでですよ。私もこれを読んで、
ウーンと唸ってしまいました。

「こんな子育てをしていたら、こんな
ふうに着た、という面白い例」の募
集に反対するわけではないのです。た
だ、子育てって、そんなにも一貫性を
持って続けられるものではありません。

NMS方式で抱き癖をつけないでお
こうと思っても、抱かすにはおけない
場面もあります。もちろんその逆もあ
ります。生活の全てのことにおいて、
ついうっかり、あるいはやむを得ず、
普段と違うことをしてしまう時もあり
ます。そのたつた一回のできごとが、
思いがけず大きな影響を及ぼすかもし
れません。それも、表出してくるのは
十年後、二十年後かもしれせん。

私達が目にする「子育ての結果」
は、あくまでも途中経過に過ぎませ
ん。それを称して「間違つた子育て」
とか「成功・失敗は問いません」とか
「そのやり方やダメなんだよね」（二
七五号「スタッフから」田中編集長の

欄）とか表現されることに、私は大き
な抵抗と深い悲しみを感じてしまふの
です。

NMS方式がどんなにすばらしいと
しても、それでなければちゃんと育た
ないとか、こうしなければ取り返しの
つかない人生になるとかいうことは、
絶対にあり得ません。そう信じて、ど
んなに不器用でも遠回りでも、「しな
いでもいい苦勞をしてかわいそう」で
も、みんな一生懸命格闘しているんで
す。ですからお願いです。それに対し
て「間違っている・失敗だ・ダメなや
り方だ」などとおっしゃるのは、どう
かNMS研究会内部の会話だけにとど



めておいてくださいませんか。

話は変わりますが、『0歳からの教
育（田中喜美子+NMS研究会）』も
読んでみました。書きたいことは多々
ありますが、ひとまず授乳について、
三点書かせてください。

まず最初に、授乳間隔について。

本書では当然のことながら、授乳に
もはじめを、と強く主張しています。
でもそれがかえって問題を長期化させ
る場合もあるということを知ってい
ただきたいのです。

よく知られているように、赤ちゃん



が吸う力（吸^{しゃく}力）とおっぱいの出る量（母乳分泌量）は、需要と供給のバランスがとれています。吸われれば吸われるほど、たくさん分泌されるようになります。ただそのためには、数日間を要する場合があります。

端的なのが出産直後。赤ちゃんが生まれると同時に母乳がほとぼり出るわけではありません。最初の数日間はおっぱいが当たり前で、その出ないおっぱいをひたすら吸わせていけば、母乳製造工場が本格稼働し始めるのです。

まずこの時点で、残念ながら今の日本の医療では、ブドウ糖水やミルクを補うのが常識です。でも実は、何も与えなくても大丈夫なのです。何も与えず、一滴も出ないおっぱいを日がな一日吸わせ続けていた方が、本格稼働への道はずっと早く開けるのです。

それでも、糖水やミルクを与えても、大抵の場合、いずれ工場は本格稼働し始めます。ただ、その後「出が悪なおっぱい（母乳不足）」という問題

が起こることもあります。供給が必要に追いつかないのです。

供給不足をミルクで補うと決める人はそれでいいのですが、できることから母乳だけでと考える人は、工場に増産を命じる必要があります。

その場合、一番の近道は、ただひたすら吸わせ続けることです。一日に十回でも二十回でも。状況にもよりますが、早ければ半日で効果が表れます。余程特殊なケースでなければ、ほんの数日、忍の一字で吸わせ続けられれば、驚くほど分泌量が増えます。この時ミルクを与えると、その分どうしても遠回りになります。ほんの数日、空腹で泣き続けていても、赤ちゃんは死にませぬ。発達が遅れたりもしません。

今「余程特殊なケースでなければ」と書きました。確かに、数日という短期間では問題が解決しない場合もあります。増産が軌道に乗るまでミルクを補わないと、生命にかかわる場合もあります。私の第二子がそうでした。

私は、母乳育児を支援するあるグ

ループからノウハウの提供を受け、ミルクを補いつつ母乳を復帰させることができました。具体的な手法は長くなるので割愛しますが、日本ではほとんど実践されていないようです。

海外では同じ方法で、妊娠出産経験のない女性が養子のために母乳を出したり、孫を引き取ることになったおばあちゃんが母乳を出したりしているようです。

ですから、どんなに出ないおっぱいでも、出すことは可能です。ただ、そこまで問題が長期化すると、とても大変です。そうならない内に解決するには、前述の通り、ほんの数日間「けじめのない授乳」をすることが、実は一番簡単な方法なのです。

だからと言って、必ずそうするべきだと押しつけるつもりはありません。授乳はとてもプライベートな問題ですので、人それぞれの思いと事情が尊重されるべきです。ただ、母乳で育てたいという気持ちを持つ人には、「おっぱいの本当のこと」を知ってもらいた

い。知った上で判断してもらいたいと思うのです。

次に、断乳について。

いつどんな形で授乳を終えるかは、もちろん人それぞれです。ただ一つだけ知っていたいただきたいことがあります。それは「産後一年以上経った母乳にも、栄養も免疫も十分に含まれている」という確固たる事実です。

昔から言われていた「お誕生過ぎのおっぱいなんて水みたいなもの」というのは、実は誤りです。ですから、「栄養のなくなった母乳なんか早くやめて、普通の食品から栄養を与えなければ」という焦りだけから断乳を急ぐ人がいるのであれば、ちょっと待ってとお伝えしたいのです。

私の場合、第二子が二歳ですが毎日たっぷり飲んでいきます。母乳から栄養を摂っているせいか、すさまじい偏食ですが元気に育っています。NMS研究会の方々が卒倒しそうな話ですね。

それでも、まだまだ飲ませるつもりです。第一子が三歳の時、自分から卒乳を宣言し、おっぱいから離れていった経験が、何物にも代えがたい私の宝物だからです。

第二子が、いつ、どのような形で卒乳するのか。その時のことを思うと、とても寂しくもあり、楽しみでもあります。こんなおっぱいライフが私にはとても幸福なものですから、これも一つの「NMS方式」でしょうか。本書のカバーに書いてありますよね。

「子育てでいちばん大切なことは、お母さん、あなたが幸福であることです。」

最後に、ダイオキシン問題について。確かに母乳からダイオキシンが検出されています。それはとても残念なことです。が、そのためにミルクを選ぶ人が増えるとするれば、それはもったいないことだと私は思います。

よく考えてみてください。ミルクは安全ですか（粉ミルクの原料である牛

乳からもダイオキシシンが検出されていますよ（ね）？ 水は？ ミルク缶は？ 哺乳瓶は？ ゴム乳首は？

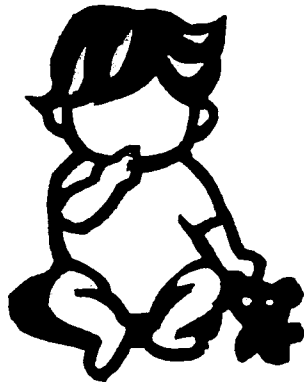
全てのものが汚染されている現代社会で被害を最小限に食い止める選択肢を考えれば、やはり母乳になるのではないでしようか。

その理由の一つは、母乳製造工場が、その時その時に合わせたベストな成分を自動的に配合してくれる、夢の工場だからです。

O-157に感染したお母さんから、O-157の抗体を含んだ母乳が分泌されました。チエルノブイリ原発被害のお母さんからも、同様の現象が見られたそうです。

もつと身近な例は風邪です。お母さんが風邪を引くと、その時のウイルスに合わせた抗体を含んだ母乳が分泌されます。赤ちゃんに風邪が移らないように。移っても軽くて済むように。

驚くべきことに、この逆もあるのです。赤ちゃんが風邪を引くと、赤ちゃんの唾液に含まれたウイルスが乳腺を



通って母乳工場に届きます。すると瞬時にその時必要な抗体を含んだ母乳が分泌されるのです。つまり、天然の風邪薬というわけです。

肝心のダイオキシシンの場合はどうなのか。今はまだ最終的な結論が出ていないようです。が、こんな魔法の力を持った母乳を諦めるなんて、もったいないと思いませんか。

某大学教授（日本のダイオキシシン研究の第一人者）が、「三カ月までは母乳、それ以降はミルクにするのがベスト」と語っています。とても説得力があるように聞こえます。でもこれは、少し古い説のようです。

実は、ダイオキシシン対策で日本より先行しているドイツで、数年前まではこれと同様の「国からのおふれ」があったそうです。が、その後の研究から、汚染された地域では、七カ月以上母乳育児を継続した場合とそうでない場合との間に、発達の差が認められることがわかりました。そこでこの「おふれ」は撤回されたそうです。

そんなに長く飲ませていては、母乳中のダイオキシシンが子どもの体内に蓄積するのでは、という不安もあるでしょう。でも、今のところそれは安心できるレベルで、それよりも母乳のメリットの方が上回る、と考える専門家がが多いようです。

厚生省が発表している許容摂取量の目安（指針値）は、これでもかというほど用心に用心を重ねたものだとということ。ダイオキシシン問題を軽んじることはできませんが、飛び交う情報に振り回されることのないようにしたいものです。

確かに「ある時のある母親の母乳」○ ccから○ピコグラムのダイオキシシンが検出された」という事実は存在します。しかしそこから一年分の蓄積量を推測することなど、全くナンセンスです。それは、母乳の成分が刻一刻と変わっているからです。同一人物の母乳も、朝昼晩で違います。更に一回の授乳の中でも、出始めと最後の方（十

分以上経ったところ）では、雲泥の差があります。その時の体調や栄養状況によつて異なることは言うまでもありません。

そこまでのばらつきを考慮した分析に膨大な労力や費用をかけるよりも、その分ダイオキシシンそのものの対策を進める方が、ずっと現実的ではないでしょうか。

もう一度よく考えてみてください。ダイオキシシン問題の根源は何でしょうか。ゴミによる環境汚染です。それならば、ダイオキシシンを恐れてミルクを選ぶという行為そのものが、矛盾してはいませんか。

ミルクは、製造・輸送・販売・購入・調乳・後始末の全ての行程においてゴミを出し、環境を汚染します。我が子をダイオキシシンから守ろうとして新たなダイオキシシンを発生させていたのでは、本末転倒です。

こう考えると、本書のように「何だ

か母乳も安全ではないようだから、あまり母乳にこだわらなかつたって」という内容（私はそう受け止めました）は、とても残念に感じます。

随分いろいろなことを書きました。私がお願ひしたいのは、NMS方式にそぐわない育児をしている母親にも、どうか温かいエールを送ってくださいませんか、ということ。す。

NMSアドバイザーの目には「けじめがない」と映るかもしれませんが、「こっちの方法にすれば、もつと楽になるのに」と、もどかしく思われるかもしれません。

でも、授乳にせよ抱っこにせよ叱り方にせよ、私はこうしたいという信念を持つている人もいます。そうしなればならない事情を持った人もいます。また、そんな信念も事情もなくとも、「ダメ」「間違い」と、まるで排斥されるような表現をされるのは、とても悲しいものです。

これからも私は、NMSのかやの外にいるでしょう。そして時折興味深く中を覗き、そんな考え方もあるんだなあ、と感嘆しつつ、また自分流儀に戻るでしょう。

どうしても「違ーう！」と叫びたくなつた時には、また叫びます。その時は、どうぞよろしくご静聴のほど、お願いいたします。

「かやのなかから」お答えします

東京都新宿区 田中喜美子

今月からこの「子育てフォーラム」がNMSのページに脱皮することになりましたので、私はNMSの主宰者として、自分の言いたいことを書けるようになりました。

そこでこの文章は、香山なおみさんの「NMS研究会御中——再びかやの外から」へのお返事です。

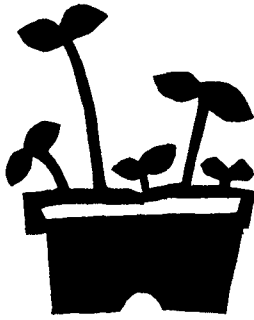
子育てのほんとうに難しいところ、面白いところは、親と子の組合せには無数のバラエティがあつて、「これこれのやり方で育てたから、こうなつた」と言い切れないところです。ですから「こんな育て方は間違っている」などと言われてはたまらない、「それも一生懸命な日常生活の、ほんの側面を垣間見ただけで」とおっしゃる香山さんの気持はよくわかります。そし

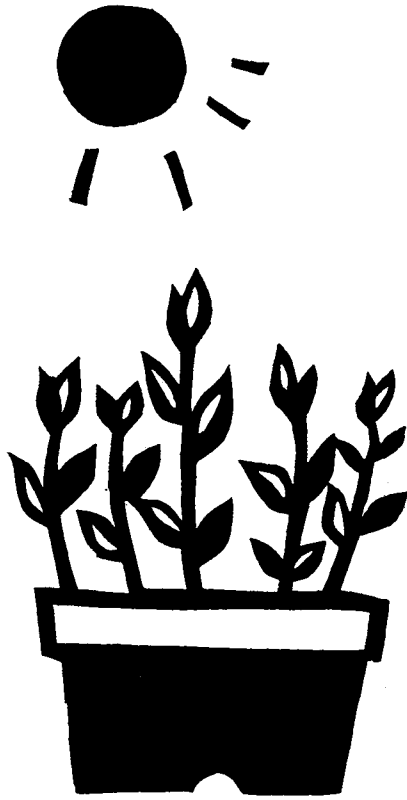
て香山さんは、「犯罪レベルの虐待などに関してのみ」「間違い」という表現を使いたい、と思つてらっしゃるわけですね。

でもほんとうにそうでしょうか。みんなのやつている小さな日常生活のなかに、「間違い」はないのでしょうか。香山さんは、いま、小・中学校での子どもたちの状況を、どう考えていらっしゃるのですか？ NHKが取り上げたので、最近ようやくこの問題が一般に知られるようになりましたが、私は十五年ほど前から、子どもの荒廃状況の最大の原因は学校教育でなく、家庭教育にある、と痛感するようになりました。

一言で言えば、母親以外に誰もいない核家族のなかで、お母さんひとりに子育てを押しつけている状況が基本的に間違っているのです。「間違い」といったらこれほど大きな間違いはありません。その意味でお母さんは加害者でなく、本質的に犠牲者なのです。

この状況を基本的に直すこと、それ





は社会全体の——とくに政治の責任だ
と思います、ここで浮上してくるの
は、「間違い」はそうした大状況にの
みあるというわけではない、というこ
とです。

ほんのちょっと子育てのやり方を変
えただけで、子どもは現在よりはるか
にたくましく、しかも大人と——お母

さんを含めて——いい関係を結ぶ存在
になり得るのです。

ここでもまた、「こんな育て方をし
ているからこうなった」という固定的
な現実はないということをはたしかなの
ですが、NMSでこの間、一―二五人
のお母さんを対象にしてとったアン
ケートでは、けじめのない授乳やだっ

こ、添い寝やテレビ視聴の垂れ流しで
育てられた子は、そうでない子にくら
べてはつきり「駄々っ児」度が高いと
いう数量的な結果が出ています。こう
した客観的な数値で駄々っ児をつくる
子育てを分析した研究はこれまでに存
在していなかったもので、この結果はと
てもうれしいことでした（「データに
見る子育ての問題点」というパンフと
してまとめましたので、興味のある方
はNMS事務局にお電話をください。
〇三―三二六〇―二五〇九）。この研
究でもはつきりしたことは、子どもを
愛しながらも、「けじめ」をつけて育て
るといふことの大切さでした。

ところが「けじめ」などには無頓着
に育てても、「生きる力」のある子は
いくらでも育っています。

ですから「このやり方で育てれば、
こんな子が育つ」ということを、「絶
対的眞実」のように振り回すことは間
違っていると私も思います。

でも「子育てみんな好きなようにや
ればいい」（こんな題名の本もありま

した」ということも正しくはない、とは思わうのです。

現代社会における子育ての目的は、子どもを「自立した人間」で、さらに「他人とよい関係を結べる人間」として育てることだと思えます。この目的に照らして考えれば、やはり「これじゃまずい」「こりや間違っている」ということははっきり言えると思うのですよ。

そうした子育てを目のあたりにしながら、「それでいいんですよ、みんな一生懸命にしているのですからね」と育児雑誌のカウンセラーのようにやさしく言わずに「それは私にはできません（ついでながら、育児雑誌のこうした「受容的姿勢」に、私は強い疑問を抱いています。あそこにあるのは「母親甘やかし」の姿勢ではないのでしょうか）。

さて、授乳に関しては、ずいぶんよくお調べになりましたね。私も初乳の授乳に関しては、香山さんとまったく同意見です。近日中に出版される、

『NO!と言える子育て』（飛鳥新社）にもそのことは書いてありますので、読んでみてください。でも「自然卒乳」に関しては、三歳まででも飲ませていい、と桶谷式などがすすめているやり方には疑問を感じます。

お母さんがそれで「幸福なら」いいじゃないか、とおっしゃるかもしれませんが、「幸福な子どもは幸福な母親から育つ」というのはNMSの Motto ですが、その「幸福」にもいろんな種類があると思います。母親が自分を抑圧して子どもに尽くすことは避けたい、と思いますが、母親が楽しくさえあればどんな子育てをしてもいい、とNMSは考えていません。子どもの健康な育ちのために、何が望ましいのかということは、いつも考えなければいけないだろうと私たちは思っているのです。

ほんとうに、子育てって難しいですね。

（え・小林正子）

★わいふバックナンバー

- 257号 ああ、マンション暮らし！
- 258号 時事放談「私たちのゴミ問題」
- 259号 夫の過労死は他人ごとか？
- 260号 トラブル旅行記
- 261号 嫌われる姑・好かれる姑
- 263号 わが家の親子ゲンカ
- 264号 ふるさとの伝統行事
- 265号 私の初体験
- 266号 一世一代の買物
- 269号 再就職で得た仕事得られなかった仕事
- 272号 カウンセリング体験
- 273号 子どもとテレビ
- 274号 引越騒動
- 275号 料理と私

どうせ死ぬなら上手に死のう

死ぬのに必要な手続きのすべて

本体二二六円十税

自分にあった養老金の決定版 私立高校ガイド

ハイスクールレポート99（関東版）

本体一八〇〇円十税

シニメ老後の暮らし

お年寄りが安全に暮らすために

一五〇〇円

変わる主婦・変わらない主婦

一五〇〇円

お申し込みは ☎〇三—三二六〇—四七七—

エッセイスト・クラブ

孫娘と太鼓祭り

和歌山県日高郡 中松ミナ子

息子一家恒例の、孫の写真入り年賀状が出来たという。早くも年末行事が期限付きで迫ってきた思いがする。

さて写真の孫娘は、あの日の祭り衣装を纏い厚化粧の下から照れた笑顔を見せている。

そもそも、この祭りは古い伝統を守り続ける地元神社の太鼓祭りで、四人の「乗り子」が終日バチを打ち続けるのだ。本来、男子に限られ小学五年生と決まっていた。

花笠を頭に色彩も鮮やかな「女装」で、太鼓みこしは地元消防団員が揃いのハッピ姿、担いで街を練り歩くのだ。かつて息子も乗り子に選ばれているので、父と娘の親子二代が秋祭りの主役を勤めたことになった。

毎年、異なった事情で乗り子決定までが大変だと実行委員が告白していたが、近年は少子化現象と少年たちには祭りなど興味外となったのか、時代の流れか



「秋祭り」という行事への両親の関心の無さもあって、祭り中止説まで出たそう。夏休みの終わり頃、祭り実行委員である消防団長が再度姿を見せては孫への勧誘が始まった。すでに神社側からも二十一世紀を目前に男女差別は時代錯誤だとの了解も得ており、



「今年は最初の男女二人ずつの乗り子で祭りや。お父ちゃんも昔、乗ったことやし縁起のいい事や、太鼓に乗った過去全員が健康で幸せな人生を送っている。なア、娘を一日貸してくれよ」と、最終的には息子夫婦へ哀願にも似た説得が続いた。

当初、孫も「いや！ そんなのカッコ悪いよ」と頑なに拒否していたが団長から真夏の昼下がり、アイスクリームを連日差し入れされたのと「五年生の女の子が喜んで乗ってくれる。男の子も知ってる子やでエ」と告げられ、「受験勉強（私立中学）さえ無かつたらいいけど……」と春から塾通いの重圧（？）の中で次第に心は揺れ動きはじめたらしい。

結局孫も、いくつかの条件を出して乗り子を承知したのである。

いよいよ十月に入ると毎日夕方、消防屯所に於いて太鼓の打ち方練習が始まった。

ドンドンドンテン・ドンテンドン……と四人がリズムを揃えて打ち続けることは、単純だが長時間となると意外に体力、精神力を必要とするらしい。ところが、祭り前日、台風十号接近で激しい風雨となった。二日前、嫁と孫で作ったという大小十二個のてるてる坊主が、軒下でズブ濡れになってキリキリ舞いしている。最悪の天候だ。家族は「雨止んで欲しいね」と交代で呟きつづけていた。孫も太鼓を打つ楽しさを



知ったのか「雨なら中止になるなんてヒドイよ。練習したのに」と文句を言っている。そんな時、不安気な表情で祭り委員が「天気になって貰わんと。昔かたぎの長老連中が『言わんこっちゃない、伝統ある習慣破って女の子を乗せるから神さんが怒ってはるのや』と言うとる。あーあ、雨止んで」と頭を抱えるのだった。夜が更けるに伴って雨は一層強くなり夫も私も眠れなかった。ところが三時頃、急にピツタリと止み夜明けには小鳥のさえずりさえ……(よかった!)

さて当日の日曜日は家業のすし店を臨時休業するなど開店以来三度目の大珍事。八時過ぎ孫は美容師に着付けてもらった乗り子衣装もハデハデしく、店の中で

大座布団に別人のように座って出発まで一息入れていた。息子も三十年前の乗り子体験を思い出したらしく、眩しそうに花笠の下で我が子を見つめてカメラを向けるのだった。やがてハッピー姿の若い衆たちに肩車されて、太鼓まで運ばれて行った。今日一日乗り子は地面に足を下ろしてはならないのだから――。

そのあと神社で祈禱を受け、太鼓みこしは台風一過の秋晴れの空の下へ威勢よくくり出して行った。私たちも孫のための招待客への料理作りに、大急ぎで鳥居をあとにした。

それらのことが、手にした年賀状の写真から太鼓の音色とともに甦ってくるのだった。

帽子

東京都世田谷区 前橋春菜

小石川後楽園の吟行会の折だった。同じ会の友達を園内で見かけ「お早うございます。紅葉といい天気といい、最高の吟行会日和ね」と声をかけた。「あつ、日さんだったの。変わった帽子を被っていたので気付かなかったわ、よく似合うわよ」と言われた。二人で肩を並べながら「戴き物なのよ」と答えると「帽子を呉れる人なんているの」と言われてしまった。

実は、私も帽子を戴くのは初めての経験だ。一カ月程前、句会場に行くために降りた駅で、たまたま一緒になった知人と会場に向かう途中で、突然「日さん、この帽子被って見てよ。たぶん似合うと思うわ」と差し出されたのがグリーンのコートデュロイ、鳥打帽の様な型のこの帽子だった。えっ、私にこの帽子？と思っただが言われるままに被ってみると、被り方を直しながら「やつぱり良くお似合いよ。午前中お教室で完成させたばかりなのよ。差し上げるわ」とのことだった。思わず「私に下さるの」と聞き返してしまった。

彼女とは顔見知り程度の知り合いで、物を戴くような間柄ではないし、個人的な話をしたこともない。戸

惑っている私に「私はそこのお店でお昼を食べて行くわ、お急ぎでしょうからお先にどうぞ」との事、私は帽子を被ったままお礼も言いそびれてしまった。

私はその句会で受付けをしなくてはならないので、早く行っている必要があるのだった。彼女も袋の中からいきなり出して渡して下さったので、私も自分で見えない帽子姿が不安で、帽子を脱ぎカバンに入れて会場に向かった。

そんな訳で戴くべくして戴いたのではなく、偶然の出来事だった。会場では何かと忙しく、席も離れていたのとお礼を言う機会もなく、帰宅してから彼女の住所を調べてお電話したのだった。

私は帽子が似合わない顔立ちで、今迄に買ったもので満足したものはない。帽子は嫌いだがハイキングや旅行等、どうしても必要な場合も多いので次々に似合わぬ帽子を買う結果になり、家には被らない帽子が幾つもあって持て余し気味である。

そんな私が買う場合このような帽子を手にするとは考えられないが……被ってみると軽くて、今迄の帽子のなかで一番似合うように思われた。帽子の手作りなんて考えたこともないし、又、事実この帽子も作ったと言われなければ私には判らないことだった。

戴いて間もなく奈良への旅行があり、吟行会があり愛用しているが「珍しい帽子姿ね」と声をかけられも



した。この帽子、少し位の風では飛ばされることもなく又、頭の上の部分かゆったりとしているので、被っても髪型が余り潰れない。帽子を脱いだ時も便利である。帽子の色が着る物を選ばないのもうれしいし、その上カバンに入れて持ち歩いても型崩れしないのだ。

こんな便利な帽子に出逢う事など、そうあるものではないと思う。私が私らしくない帽子を被っているの、雰囲気が違うらしく、行き交う知人でも気付かず過ぎてしまう人も居るくらいだ。

お蔭で私の日常も少し変わった。普段帽子を被るのと等しくなかったのに、この頃は外出の時に被るよう

になり、被ってみると暖かく自転車を出掛ける時など手離せない物となってしまった。偶然の出逢いで戴いた帽子が、私の気持ちをも少しずつ変えたように思う。帽子嫌い、似合わないという感覚が消えて、どう被ったら似合うかしらと少しかき上げてみたり、スカーフに注意したりと気持ちも少しおしゃれになったように思う。

本当に良い帽子との出逢いだったことをうれしく思っている。

(え・佐藤瑞江子)

もつと使える乾物の本

おいしき・手軽さ新発見

食べ方・使い方 170



奥蘭壽子著
農文協
定価1500円

東京都八王子市 和田好子

乾物屋さんの店が、昔は町の中に
もつと多かつたと思う。

「ひじきと油揚げのそうざいを、うま
がつて食っているようでは、ろくな
知恵は出やあしめえ」

とかいうセリフが歌舞伎にあるが、
江戸時代には庶民の日常の食べ物と
して、ひじきや切り干し大根のたぐ
いが幅を利かしていたのだろう。

昭和の戦前と戦後では、食べ物に

対する考え方ががらりと変わった。
戦前は江戸時代の延長で、ひじきや
切り干しのおかずが一般的だった
が、戦後は栄養学者の指導のもと、
「もつと肉を、もつと魚を、もつと
油を」と、欧米に追い付け追い越せ
の洋風化がはやった。

おかげで若い人の身長が伸び、足
が長くなって洋風化はしたものの、
悪いところにも一緒に追いついてし
まって、心筋梗塞、痛風、糖尿病が
増えてきた。

こうした経緯があつて、今や古い
乾物料理がヘルシーと呼ばれて見直
されてきている。いつの間にか世界
一の長寿国となつていた日本、それ
は伝統料理に適度な洋風を混じえた
食生活のせいだと言われ、昔の食べ
物に注目が集まっているのである。

奥蘭壽子 著

そうした波に乗った一冊ながら、
単なる伝統の踏襲ではなくて、大へ
ん独自性がある。著者の年齢が若い
（一九六二年生まれ、三十六歳）た
め、昔のレシピにとらわれることな
く、「お気楽に、自由な発想で」干
ししいたけはハサミできざんでもど
さず煮汁に放りこむ。高野豆腐をス
テーキにする。ひじきを電子レンジ
でもどしていたが、もつと簡単にい
きなりゆでて、落としぶたでぎゅつ
とおさえればもどる、それをサラダ
にする。などと年寄りから見たら怖
いような料理法が続々登場する。

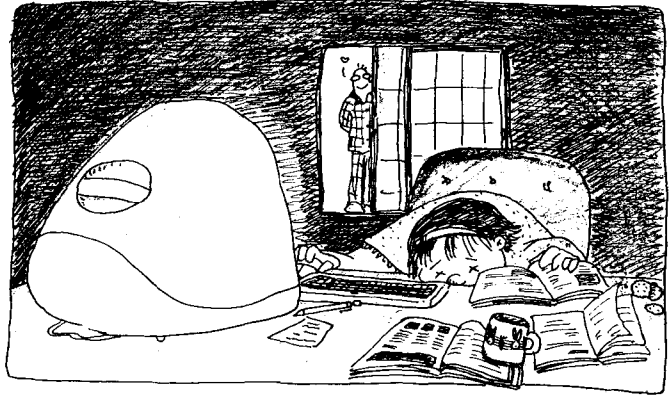
若い人には乾物といえども、昔の
味の記憶もなし、「おいしければいい
じゃないの」と大胆なもの。ヘル
シーと手軽さでウケるに違いない乾
物新料理法である。

パソコン ワールド

超初心者の現在

静岡県清水市●鈴木美奈(34歳)

先日、夫と(例の如く)ケンカをした。原因も話の流れも忘れたが、なぜか「インターネット位やらせろ」という言い合いになり、そこで話がまとまってしまった。家にあるパソコンは夫がゲームをするだけで、常々もったいないと思っていたのだ。



さて。プロバイダの資料を集めたりISDNのことを調べたりしているうちに、突然判明したのが、夫のパソコン知識は私と同じかそれ以下だという

事実。普通、パソコンのことはご主人がやって奥さんに教えてくれるのでは？ これで会社でパソコン使ってるってんだから、世の中って不思議だわ。

しかし、しみじみしている場合ではない。夫を「もうオマエなんて頼りにせん！」とどなりつけ、パソコン初心者のためのかいいう本を買いこみ、せつせと読む。よくわからない。また読む。一晩たつと忘れる。また読む。ひたすら読む。パソコンの前に座る。わからなくなる。またまた読む……。

この繰り返し。ああ、なんて物覚えが悪くなったのだろう。頭のメモリも増設したい。いや、マザーボードごと取り替えなきゃダメかも。などとぼやいている間に、ジャンン、ISDNの配線工事が終わった。いやあめでたいめでたい。(頭大丈夫?)

あとは……。まあなんとかなるだろう、と思う。さあ、薔薇色の電腦世界が私を呼んでいる……。のかなあ？(次回に続く、かも)。

我が家の常識

栃木県●古沢涼子(47歳)

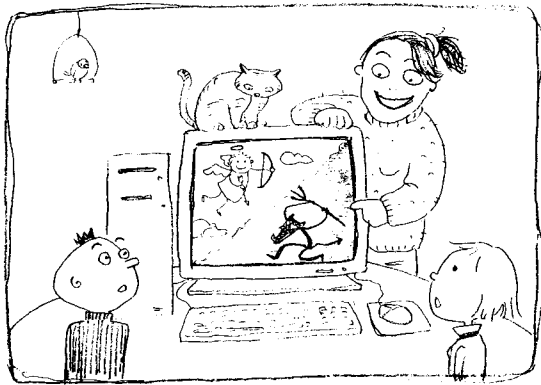
パソコンとアドレスは私なのですが、息子と娘(大学三年、一年)に自由に使わせています。夫は仕事と年賀状以外の手紙は一切出さない人種なので見向きもしません。

パソコン購入は三年前、ワープロからの買い換えです。ウインドウズ95ブームの最中、「数学の授業で使う。パソコンない家は少ないよ」との息子の声に家族の練習機も兼ねて。が、趣味はTVゲームという受験生だったため、実際は進学先が決まってから買いました。

私は同業者のメーリングリスト(グループ文通)に入るのが一つの目的でしたから、パソコン通信の経験全くないいきなりインターネットに接続しました。労多くとも易い道です。「こんなに面白くて危いもの、若者に任せ

きりではまずい。分別ある大人がどんな入って、良い方への綱引きに加わらなければ」。これはネットの世界の第一印象ですが、今もその気持は変わりません。

「好きなだけ使ってよし。チャットもメールも可。ただし、この世界は腕が



上の奴にはデータ抜かれる。完全な秘密は不可能、教室で大きな声で話すようなもの。読まれる覚悟で書いてね。秘密でなくちゃ気持を伝えられないっていうのは文章の腕が悪い。身の危険を感じたら言いなさい、オバサンが出ていって話つけるから。メールの検閲はしないけど時々管理者としてのチェックはする。そのかわり私のメールも読んでいいよ」というのが私の押しつけている我が家の常識です。

正直のところ、娘も進学一人暮らし希望だったため、パソコンワールドに無知なまま出すのは親として心配で、しつけの一部として強要したのです。二人とも不満はあったものの結果としてメール見学の機会ともなった様子。今は帰省中のみ使っています。

ここは入院中の子供の話し相手や有害サイトの摘発など、在宅ボランティアも可能な進化中の世界。私たちが常識作りに参加してもいいと思うのですが、いかがでしょうか？

(え・荒井千恵)



杉山由美子著
青木書店
本体1500円＋税

「明るい憂鬱」なんてあるのだろうか？ 最初の疑問。本を読んで納得。今どきの女たちは、きれいで、楽しそうで、なんでもソコソコにこなし、悩んだりすることなんてないように見える。でも、そのきれいな、明るさ、幸せそうな内側で、夫との関わり、子育て、仕事、人づきあい等、不満、迷い、悩みが渦巻き、つかみどころのないモヤモヤを持っている。

著者は、女の生き方三タイプの「行き止まり状態」や、公民館に集まる女たちを丁寧なルポし、彼女たちの抱える問題に迫っている。

「明るい憂鬱」を抱えている者のひとりとして、興味深く読んだ。(新)



滝上宗次郎著
講談社
本体1600円＋税

ふつう、現場にいる人には全体が見えず、全体の見える人には現場のことがわからない。しかしこれは「有料老人ホーム」を現場と全体の双方から照射する、希に見る充実した作品である。「終身介護」という言葉は何を意味しているのか。よいケアをしているホームはどうしたら見分けられるか。倒産しないホームはどうしたら選べるか。そうした具体的な情報の密度の濃さとともに、介護する側とされる側の人間関係への目配りには、はっとするほどの新鮮さが溢れている。ホームの経営者で経済学者でもある著者でなければ書けないこの作品は、ホームに興味のある人には必読の一冊だ。(田)



小林カツ代・林佳恵著
朝日出版社
本体1500円＋税

人は、自分自身の価値観、スタンスで個人生活を送っている。ところが、さまざまな人間関係がからむ冠婚葬祭の場となると、途端にしきたりや慣習などが、幅を利かせる。冠婚葬祭の「常識」なんて、大半は家父長制の名残にすぎないというのに。

本書は、もっと軽やかに暮らしを豊かにする冠婚葬祭を創っていきましよう、という提案集。小林カツ代、林佳恵というイキのいい二人の対談で、「これからのスタンダード」が語られる。先人の知恵に学ぶべきは学び、不合理だった虚礼にすぎないものは捨てる。人の数だけ「スタンダード」はあつぱれ。そう思わせてくれる一冊。(福)



パスカル・ズィヴィー著
キリスト教視聴覚センター
本体1600円+税

著者は札幌在住、マインドコントロールされた人々の更生、社会復帰が専門のカウンセラー。題名のリッコシェーには影響、波及の意味もある。フランスに住むユダヤ人の父の生き方と死、母親を幼くして亡くしてから父との親子関係、日本人妻との間にできた娘とのかかわり、そして神との出会い。これらの話を通して著者は、人間関係、特に家族の問題に苦しみ悩んでいる日本人に優しく語りかける。家庭内での対話、信頼関係、愛、お互いを理解しゆるし合うこと、「今」を大切にすること等、家族の絆がテーマの良書である。子どもを持つ親には是非読んで欲しい一冊である。(伊)



阪野光子著
ミネルヴァ書房
本体1800円+税

女はまさに女を介護し、男を介護し女に介護される——と沖藤典子さんは言われたそうだが、筆者阪野光子さんはこれを地で行かれたような方だ。

お母様亡き後、お父様の介護、続いてご主人を介護されている。その折々に出てくる医療現場の実録は、その場に居合わせたからこそ書ける迫力だ。そして現在、自宅で介護中のご主人との心の交流がまた感動的で心を打つ。読み進むうち、私は介護する側になつたりされる立場に立ったりしながら、今後の方針を考えさせてもらった。在宅介護に向けての体制づくりのコーナーは必読。今の役所の様子がよくわかり手離せない一冊となる。(和)

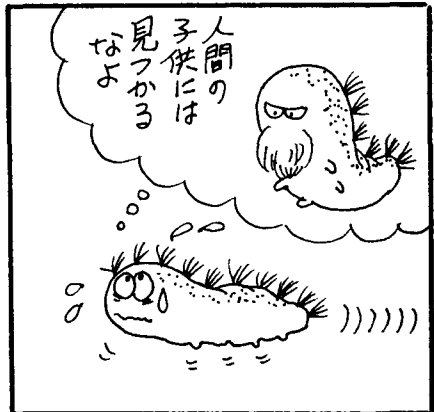
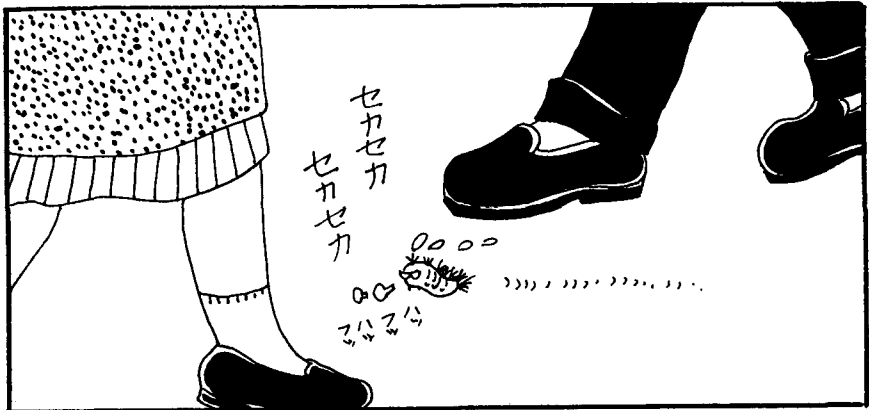


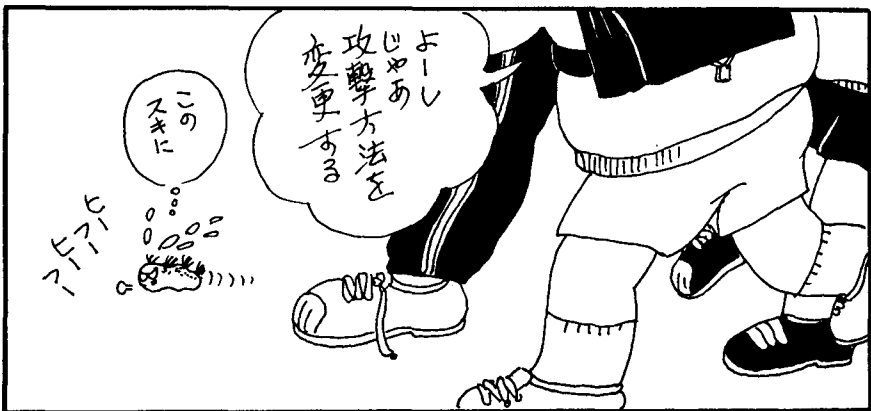
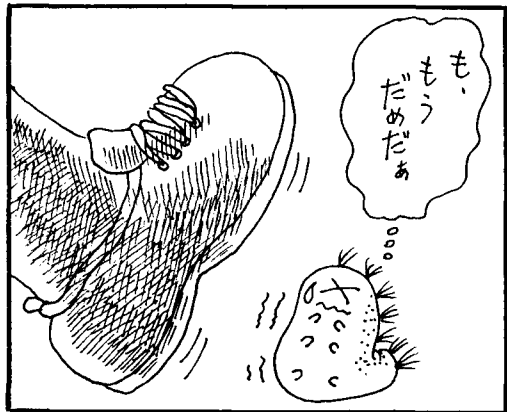
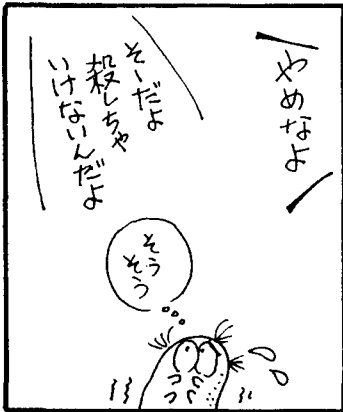
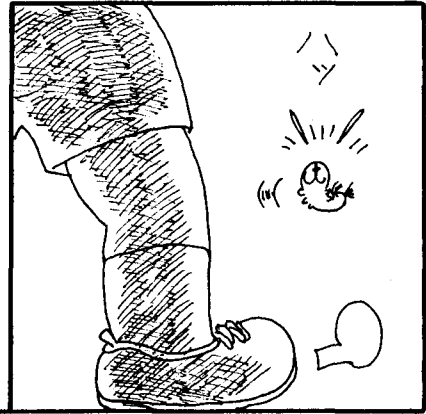
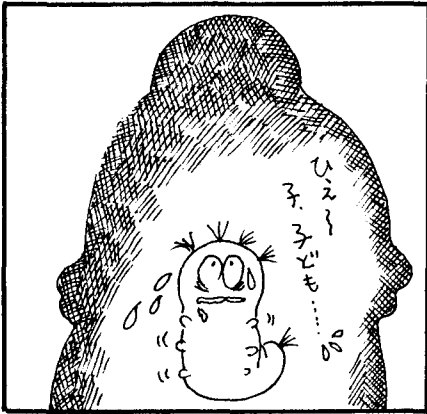
花岡香苗著
東洋出版
本体1000円+税

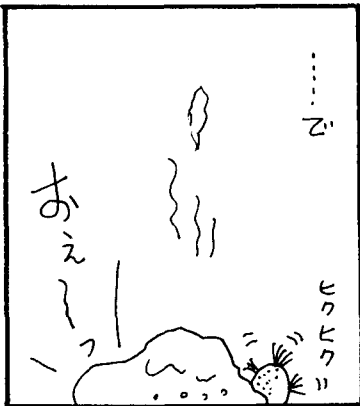
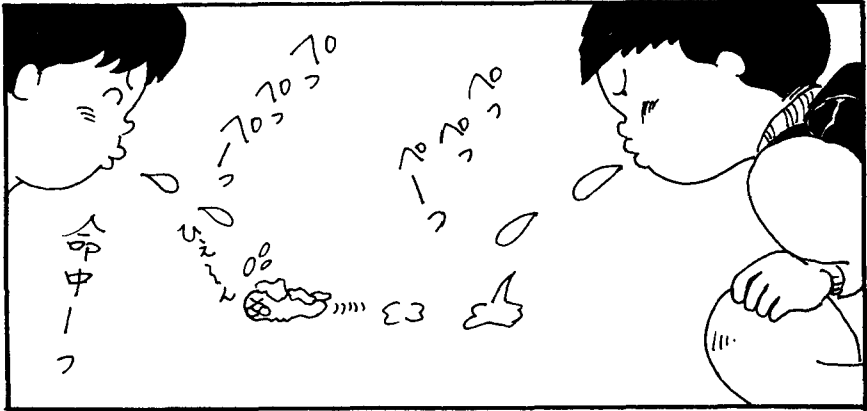
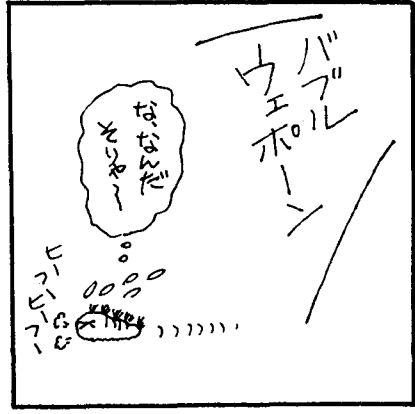
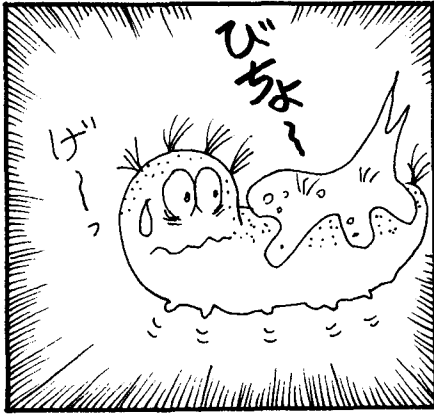
結婚する時はふんぎり一つで何とかまとまってゆくものだが、離婚となると互いに被る傷も深く簡単にはゆかないようだ。

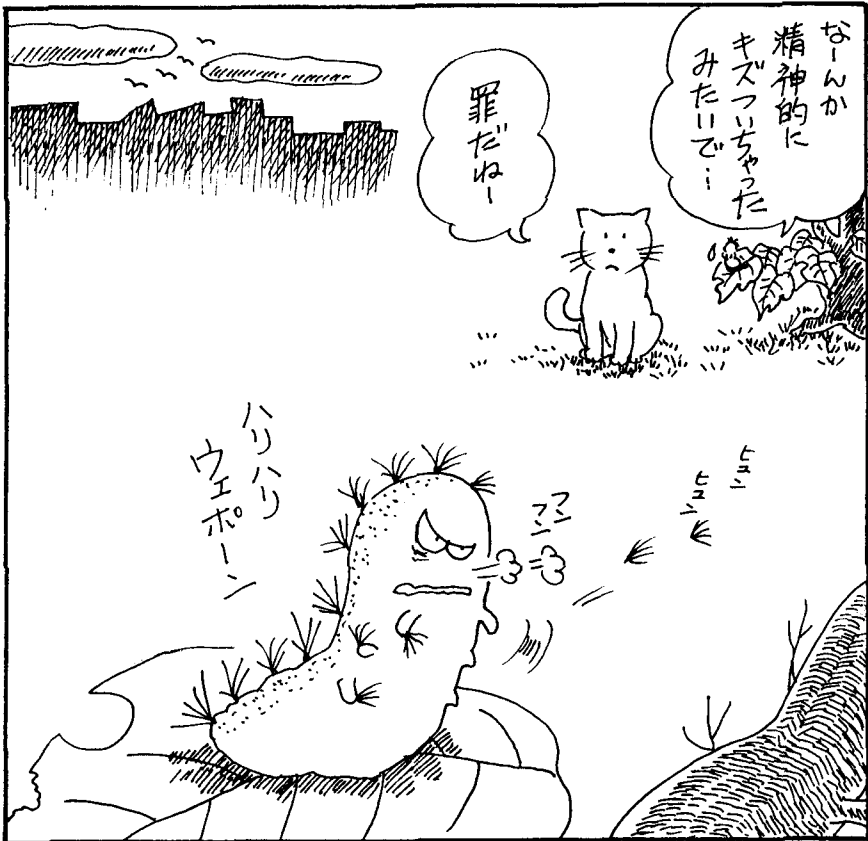
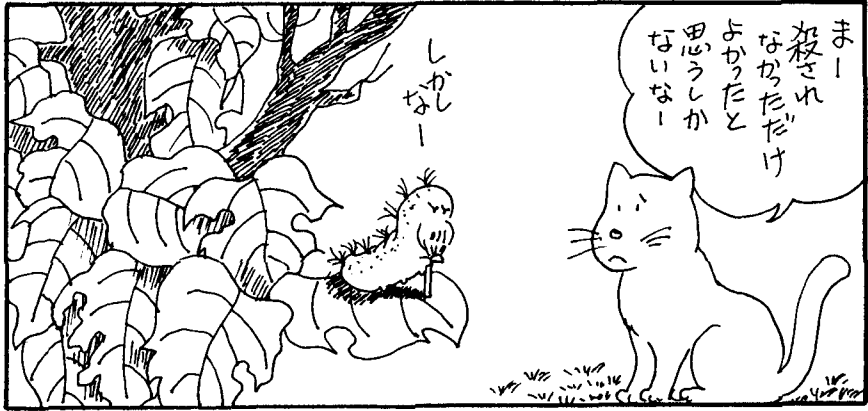
本書は筆者が、住み馴れた都会を離れて夫の実家のある地方の町に移り住んで以来、周囲の閉鎖的な因習や夫の横暴に耐えかねて、遂に三十数年の結婚生活を捨てるに至ったいきさつを綴つたものである。離婚による損失も大きいはずだが、不当な抑圧と闘って得た自由に、今は大きな安らぎと生きる力を感じている。華やかな恋の遍歴も多く綴られ、未だに見果てぬ夢を追いつけているようだ。一つの生き方であろう。(辻)

これが
子供の生きる道
 栗田光









私の意見

あなたの意見

再就職の働き方

一杯のかけそば

奈良県奈良市 小山いつか

この度、お歳暮時のパート募集に応募、見事、落ちた。勤務条件は、週四日以上、六時間以上働ける方だったので、週四日、(土日含む)勤務可能時間を、始業時より七時間と明記(休憩時間一時間加算)したけれど、「あなた様のご希望にそうとはできませんでした」ときたもんだ。ショック……

そのことを夫にいうと、「あんたは考えが甘い。そんなん、条件多いやつなんて、この不況時、一番に落とされる」と一笑された。

たしかに、求人広告の件数は減ってるし、どこも応募者が多いので、採用はむずかしいと聞く。こんな不況だからこそ、自分の小遣いは自分で稼いだり。子どもも小学校高学年だと、ある程度留守番できるし……。私自身、一応健康なので、毎日はいやだけど、というの甘いのかな？

「自分で働いたお金で、食べるとね、一杯のかけそばでも、味がちがうのよ」といった知人の言葉が脳裏をはずれない。

飛び出す勇気が出ない！

京都市伏見区 飯塚真里(34歳)

家事や子育てに支障をきたさない範囲で働く、これが主婦の典型的な再就

職のパターンだと思う。かつ、夫の扶養家族の域をでないよう計算をしながら働く。夫が元気でまた失業もせず、愛情も冷めていない関係ならベストな働き方かもしれない。

でも、一寸先は闇というのではない。今の状況が永遠に続くと思じている人が多すぎるような気がする。子どもを育てることはすごく大事なことで、同時に自分の食いぶちは自分で稼ぐ経済力を持つのも大切なことだと思う。初め駆け出しはお気軽パートでも、子どもの状況に合わせてステップアップしていく働き方を私はしていきたい。

しかし、言うのは実に簡単。主婦の再就職でキャリアを積みそうな職種は限られ、門も狭い。専門職のない主婦は辛い。今年、二人目が小学校に入った。お気軽パートをしてもうすぐ三年になる。次のステップに行きたいと思いつながら一歩が出ない。子どもを長時間留守番させること、帰宅後の慌ただしさを考えるとと思いとどまってしま

う。が、踏み出せない本当の理由は、今の居心地の良いぬるま湯から、自身が飛び出す勇氣を持たないから。主婦といういちおう安定した地位にいると、確固たる強い意志がない限りずつと夫の扶養家族のまままで終わるようになる。

再就職の働き方、私の場合

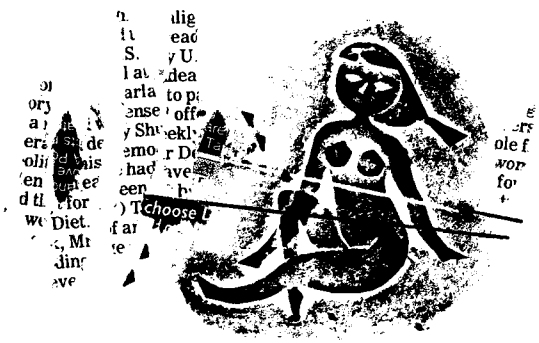
埼玉県大宮市 新井純子

海外生活三年間、長い夏休みも過ごしたことだし、日本に戻ったら、絶対にちやんと(フルタイムでとか税金が払えるとか)働くぞっと思っていた。

しかし、現実には厳しい。私甘い。社会状況として、男たちさへリストラされ、四年生大卒女子の就職は、超氷河期とも言われている。

反面、モーレツな働き方は見直しきれ、家庭、地域社会、趣味といったところで、自分の居場所を取り戻そうという動きもある。

働いて、地域活動もして、家庭の平和を保ち、自分の趣味、学習する時間を確保する暮らし方が理想であるならば、



現在の私のあり方は、まさにそれだ。今年の正月明けから、夫が早朝五時四十五分に仕事にでかけることになっ

私の意見・あなたの意見

た。二人で五時に起き出し活動を始める。私などは、ゆっくりコーヒを飲み、新聞を読んでも、まだ七時だ。義母と暮すようになり、家事は半減した。子どもたちもそれぞれ成長し、私が手をかけてやらなければならぬこともなくなつた。この朝の時間、もつたいないなあと思つていた矢先、市立保育園の時間外保母の募集があつた。

月曜日から金曜日、朝七時三十分から十時までと夕方四時から六時三十分。保母の資格はなくても可ということだった。時給八百四十円。四月から、朝だけ働いている。

とても、「経済的に自立する」という所まではいかないけれど、映画を観たり、本やCDを買つたり、PTAの役員会に参加したりという、お金と時間は得ている。

これで満足なんて思つてはいない。ただ、今の私の暮らし方なのだと思入れている。

(え・ペティ・フジャマ)

□
あ
なたへ
■ ■ ■ ■ ■

■
ス
マツジュ
□

勇気が出せない

埼玉県越谷市 伊藤美子 (37歳)

十文字さん、わたしも本当はまだ不参加については迷いがあります。何か言われてやめるなんて、というくやしきみたいな気持ちもあります。それではなぜ、と思われるでしょうが、その前にあの中で書ききれなかったことを少し補足させてくださ

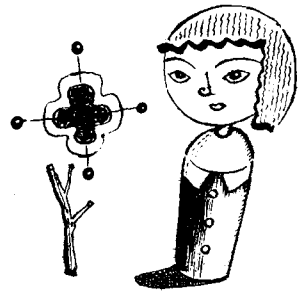
い。

入園させてからわかったことですが、この園では明らかに差別的なクラス分けをしているのです。年長で言えば——仮に一組とします——が、すべての行事に優先します。運動会のかけっこやリレーでも、一位は常にこのクラスで、勝つのも常にこのクラスです。担任もまた主任クラスのベテランがつかます。年中、年少もそうで、やる前から順位が決まっているのです。つまり、入園して、どのクラスになったかで、すでに順位がつけられているというわけ

なのです。しかも、うちの息子のように二年保育で入園すると、絶対一組にはならないのです。

そうなると、皆三年で入れようとなりますし、中には「うちの子を一組にしる」と、どなりこむ親も出てきます。全部そうではありませんが、そういう意識の強い中にあるので、スイミングでも競争なんだなど、今更ながら思ったのです。

十文字さんの励まし（と、とりました）はうれしく思いましたが、一組というだけで他のクラスを見下し



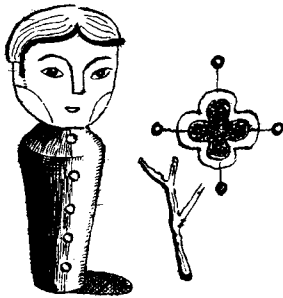
ている人もいるようなこの園の中で、勇気を出すことがわたしにはとてもむずかしい。もう少し強くなりたいたいと思っはいるのですが。

十年後をめざして……

神奈川県中郡 石井しのぶ(39歳)

二七五号の「こんなはずじゃなかった」のトム・クルースさんの投稿は、新婚当初のわが夫が書いたのかと思うほど、考え方や言葉から受ける印象が似ていて、久々に苦い過去を思い出した。「自分は妻に対して理解があるのに妻の方はぶしつけで常に緊張をしいられ窮屈……」と、さぞ夫も私に対して思っていたことだろう。しかし、その理解というのはあくまでも夫の側の勝手な思い込みの上になりたっていたので、私の側からすれば全く理解も尊重もされ

ていないのと同じだった。あの頃、夫は早く帰宅すること(夕方五時!)が私への思いやりだと思っはいたらしいが、私としてはほっとする間もなく夕食の仕度にかからなくてはならず、できればもつとゆつくり帰ってきてほしかった。それなのに「がんばって早く帰ってきてやっはているのに感謝しない」などと言わはれてしまう。「こんな理解ある夫も珍しい」と自分に自信を持っているので、私が何か意見を言えば「一生懸命やっはている自分がなぜ文句を言わはなければならぬのか」と憤慨する、といったことの繰り返しだっ



あなたへスマッシュ

た。

たぶんこの方の奥さんも、夫とうまくやっはていきたいからこそ感情をストレートにぶっつけているのだと思っはう。だから自分も思っはたままを、まっはすぐ伝えていけばいいのではなっはいだろうか。話せばお互いの誤解も解けるというこももあるだろう。「平和的に」なんて我慢しているから、窮屈であり息苦しいのである。

ただ一つ気になったのは奥さんへの愛情が見えてこないところだ。きつとこの方は理性的で頭のいい方なのだろうけれど、あまりに冷静すぎるところが奥さんにとってきみしいのかもしれない。妻にとっはて、家事の手伝いとか主体性の尊重とかよりも、夫からの愛情表現があるかなっはいかの方がずつと大切だということもある。

結婚十年以上たっはて、私たち夫婦はやっはと最初の頃の気まっはずさの原因に気がついた。性別も性格もちがう二人が理解しあうには、時間がかか

るということを是非知っておいてほしい。

海砂さんへ

長野県小県郡 青木清美 (37歳)

二七四号の「毎日が平日」を見て驚いた。マヨネーズ、ケチャップ類の食物をおもちゃにしている子どもを叱ろうともしない。しかも父親まで同じ事をしている。汚す事で叱るより、私だったら食べ物を粗末にしている息子を怒るだろう。自分の子どものころ、食べ物をおもちゃにしていると祖父母、親にすごく叱られた。海砂さんのマンガは新しい感覚でおもしろい。楽しみにしているが、この場面はいただけでない。この作者は私より若いのだろうか？ グンナさんも彼女も核家族でのびのびと育っているのだろうか？ いろいろ

る想像してしまった。私は古いのかもしれない。しかし、子どもには食べ物の大切さを教えるべきである。創造性を伸ばす事は大切であるが……。

保育園で二十代の保護者とおしゃべりしているとズレを感じ、急に年を取ったような気がする。

子供公害——二七五号

わたしもひとこと
「立派な公害」を
読んで——

東京都町田市 高野葉子 (41歳)

わが家にも小学校三年生を頭に三人の生きのいい子供がいるので、隣家の騒音の程度は容易に想像がつくし、大島さんの悩みも痛いほどわかる。私は生来、子供好きではないので、自分の子供でもうるさいと思う時があるし、他人の子なら尚更であ

る。三人も産んでおいて子供好きじゃないはないでしょう、とよく言われるがそれとこれとは全く別問題。

そんなわけで、私は子連れで出かけるのが嫌いである。なぜなら、子供好きでない私は、電車やレストランでのよその子供達の傍若無人ぶりに血圧が上がる。それを全く咎めもせず、静かにさせようという努力もしない親達にも腹が立ってしようがない。だから、自分の子供達にそんな振る舞いをさせるわけにはいかな

いから、電車を使う時などは、

「前を見て歩きなさい！」
「急に立ち止まらなさい！」
「走らなああああい！」

「降りる人が先。降りる人が先なの！」と一歩家を出た瞬間から、頭から湯気立てて怒鳴りっぱなしである。ある時、「一人でも多くの人が座れるようにもつと詰めて！ 足を広げるのは十年早い！」と怒鳴っていたら、隣りに座っていたご婦人に「立派ですわ。最近是人前で自分

の子供を叱れる親が少なくなりましてもの」と誉められた。

しかし、逆に、子供のマナーが悪くて怒鳴られたこともある。二十代前半の若い女性だった。ひたすら謝ったが、このくらいのこと、大目に見てくれたらいいのにと、内心むっとした気持ちになったのは否めない。

隣家から苦情が来たこともある。いわゆる普通のアパートから二階建てのテラスハウスへ越して来て間もない頃だった。テラスハウスというのは一戸建を真ん中で仕切って左右対称の造りになってるので、家中を飛び跳ねる音が上下に響かない代わりに横へ振動するようだ。苦情を言いに見えたのはお隣りのご主人だった。安善請なので、もう少し音を抑えて下さいと、ていねいに言われて、こちらは顔から火が出る思いだった。

それからというものの物音には特に気をつけるようにしたが、「ご近所

に迷惑だから！」と言ったところで聞くわけない。「この家追い出されたら、あの狭いアパートにあんたたちだけで、戻らんだよ！」が、私の切り札だ。「狭い家」が嫌いなのが家の子供達にはこれがけっこう効果があるが、その時だけである。

ところで、その苦情のあと、お隣りさんとは、現在の所へ引越すまでの一年間、ごく普通にお付き合いすることができた。苦情を言いに見えたのが普段顔を合わすことがないご主人だったことが、良かったようだ。これもよし、奥さんの方から言われたら、いくら神経の太い私でも、ご近所を歩きづらくなる。今では、よくぞ言っただきと感謝さえしている。そのことがなかったら、私は自分の子供が立派な公害になりうるということに気がつかずによその子供にばかり目くじらをたてる親になっていたかもしれないから。一件落着いたように見えるが、一戸建に引越した今も私にとつて気

の休まる日はない。あまりうるさい時は、「出て行きなさい！」と怒鳴る気力も失せて、自分が家を出たことも何度かある。庭先程度の家出だ

が。最近では自分の怒鳴り声の方が騒音かなと思うこともある。

二七五号 三歳児神話
よさようなら

井上玲奈さんへ
「わからないんですけど」

静岡県清水市 鈴木美奈（34歳）

井上さんて、いったい三歳児神話を信じていらっしやるんですか、それとも信じていないのですか。信じてないのでしたら、別に他人が何を言おうと「そんなのメイシンだよ」とか「自分なりに考えがあつてのことだし、責任だって自分でとるんだし、大きなお世話」とか思っ

ればいいじゃないですか。

もし、信じていてそれでも仕事するのが大事だとお考えでしたら、それもご立派なことと思いますし、堂々としていらつしやい。だいたい世間の人は好き勝手言いますが、所詮は他人のこと、そんなに深刻に考えちゃいけませんよ。保母経験者の方にしたって、自分がそれで苦勞した経験があるからそう言ったので、そうでなければ言いやしません（たぶん）。いちいち深読みしたってイヤな思いするだけ。馬鹿馬鹿しいじゃないですか。

私はちょうど逆。三歳児神話を鶴呑みにはしてませんが、子供は母親が育てるほうがいい（でなければならぬ、とは違います）と考えており、かつそうできる立場なので、専業主婦です。

その考えが本当に正しいのか、と突っ込まれると、わからないと答えるしかないのですが、少なくとも、自分でできる限りの勉強をした上で

最善のことに選んだとの自信はあるつもりです。ですから、世間で、また「わいふ」誌上で、「専業主婦はおバカ」「仕事をしなければ人生といえない」「母親べつたりだとロクな娘もできない」等々の意見を見聞きしても、ふーん、ま、いろいろな人がいるからなあ、くらいにしか思いません。働いているいないということより、そういう自分に疑いを持つて腰の定まらない日々を送るほうが、よっぽど子供のためにも自分のためにもならないでしょう。

私の付き合いはやはり専業主婦の人が多くりますが、母親が働いてるといっただけなのに反感を持つとは思えません。それぞれの家庭にはそれぞれの事情があつて当然ですし、「小さいのに大変だね」というのも、朝寝坊ができないとか、送り迎えが大変だろうとか、そんなところでしょう。

もし、反感を持つとすれば、ただひとつ。「私は働いてるから、専業

主婦のあなたよりずっと大変だし苦勞もしてるんだ」「だからワーキングマザーにみんなが協力するのは当然」という態度をとられたときです。誠に失礼ですが、もしかして、そう誤解されるような覚えはありませんでしょうか。

「スタッフから」 を読んで

東京都世田谷区 後藤 晶（40歳）

「わいふ」が届くと、まず自分のが載っているかさがし（最近ではほとんどボツ）、ざっと前から読んで、巻末の「スタッフから」で、編集の皆様のことを想像している。何日かしてから、いざ自分の原稿をまとめる段になり、もう一度じっくりと読む。「スタッフから」も読み直すとはじめの感想とは違うことに気づいたりする。

二七五号でも、本が届いてから自分のを出す二十日間の間に、自分の身にいろいろあった。水落さんのようなボランティア掃除も、小学生といっしょに近所の多摩川で体験した。一見きれいに整備されている河川敷だが、大勢でゴミを拾うとかなり集まった。公共の場所は、必ずだれかが掃除しているということを、いつも意識していきたい。

そのあと、腰が痛くて歩くどころか、立つこともトイレでいきむこともできなくなり、これは貴重なイン

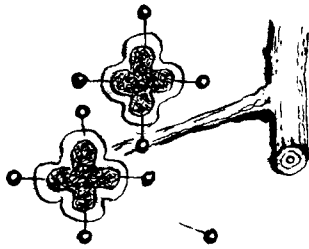
スタントシニア体験だった。成井さんのように老人の生活への心配は当然だが、山本さんの息子の彼女を募集する文は、何度読んでも「わいふらしくないと思う。

「わいふ」が講師の文章講座は世田谷区でもあったが、私はいつも申し込むのに抽選で落ちてしまう。ちなみに「ねこたま」はうちの近所だが、私はへいの隙間から見ただけ。社宅なのでペットは飼えず、近所の猫にかけては名前をつけている。駅のそばに、後ろ足がしびれた母猫が

いたが、子猫を四匹生み育ててみな堂々とした成猫になった。大勢の通行人もこの一家を好意的に見守っていた。

自分の子の成長に伴い、よその幼児を連れた親子のことは私も気になることが多い。自分の反省から、「あんな言い方じゃなくて」とか「こんな本読んでみて」とのどまで出かかっている。だけど、田中さんでもやっぱり言えませんか、と座談会のページの写真を見た。

(え・長谷川てるみ)



「わいふ」にスマッシュ

奈良県生駒郡 高松恭子（46歳）

「わいふ」が届いた。特集に載せて頂いた私の文を目にして啞然とした。最初の部分がすっぽり抜けている。えっ！何で……？

読み進むうちに、ええ——どうなってるの？ これ……と、思わず叫んでしまった。

私が料理に興味を持ち始めたきっかけを書いた部分が全部削られ、二人の師に出会って私の料理がどう変わったかを書いた部分、そしてまとめの部分、つまり私の主張したかった部分がすっかり抜けていた。

信じられないような文が、私の名前と住所、年齢まで書かれて載っている。あまりの情けなさに座り込んでしまった。



今朝も知人から電
話があり、「今回の
『わいふ』、急いで書
いたの？ 何か中途
半端な文だったよ」

と、言われてしまった。

「わいふ」を購読して以来、私は毎回投稿することを目標にしてきた。しかし、「下手な鉄砲も数打ちや当たる」といった感覚で、投稿してきたわけではない。それなりに推敲を重ねて投稿しているの

で、自分の書いた文には思い入れもあるし責任も持たたい。

編集部の思惑と投稿者の思惑とのズレがあるのは当然だと思う。特集を読み進むと、私と同じことを書いている人がいた。料理好きは、どこか共通した感覚を持ち合わせているのかもしれない。しかし、だからといって編集部の都合で私の文を削っていいというものでもないだろう。

投稿者に断りなく十一枚の文を四枚以上も削るなら、ボツにして下さるほうが、よほど親切というものだ。

もう「わいふ」に長い文を投稿するのはやめようと思う。流れが途切れリズムが狂った自分の文を見て、今も割り切れない思いでいる。

せめて結論だけは省かないでほしかった。

お答えします

編集長 田中

「わいふ」では投稿を添削しています。投稿者の個性はできるだけ生かしているつもりですが、ときには大幅に削るときもあります。その場合筆者にいちいち許可をいただくことはしていません。ひとつひとつそうしては仕事にならないからです。

この前の特集には、たくさんのご投稿がきて、選ぶのに大苦勞でした。そのなかで高松さんのご投稿は、懐石料理の部分に独自性があったので、そこにしぼって掲載しました。編集者から見ると、その部分がより面白く思えたからなのです。ご期待に添えなくて残念でしたが、非常識な切り方をしたとは思いません。

そこで提案。長いものを投稿なさるときには、皆様絶対削ってほしくないところには特別にするしをつけておかれたらどうでしょう。そうすればたぶんよりご期待に近い添削ができると思うのです。よろしく。

1999年基の経済指数

⑧

一筆両断



西田紅

私も ひとこと

早朝パート

新潟県南蒲原郡 長野恵子 (49歳)

農閑期の晩秋になる度、このまま家事だけのもつたいない毎日でいいのかと強く思ってきた。年齢不問、五時〜九時の求人募集を見つけた私は勤め始めた。

リズムカルな朝が始まり快い緊張に身が引き締まる。五十名の主婦が働く活気溢れる職場だ。無欠勤で一年がたち、まだまだ社会と繋がる力があつたのだと今実感中。家事の効率も勤めてから一段とアップした。

半径一キロの宇宙

東京都世田谷区 後藤 晶 (40歳)

スーパーや子供の学校は、家から徒歩で十五分以内のところにある。コンビニやデパート、一年中自然の中で遊べる多摩川も、区の出張所も歩いて行け、たいていのことは自宅から半径一キロ以内で事足りる。

さらに新聞・テレビ・ラジオ、さまざまな電話・通学通勤する家族からの情報、また近所の間関係もあるの、たぶん家から一歩も出なくても、私の日常は実際かなり深くて広い。

みたらし団子の本数は？

東京都北区 千田るみ子

今日買ったパックには四本しか入っていません。三日程前に買ったのは五本入っていた。ワゴンの安売りコーナーのだから文句は言えないのだろうか？ 値段が変わらなくても中味の本数がちがえば値上げです。真空パック入り煮豆、昆布などのグラム数を徐々減らしているメーカーもある。お団子は本数でわかる。子もち昆布パック百グラムを今九十グラムにして売っている。「……っ」というメーカーもある。

おかげさまで

東京都葛飾区 長谷川知子 (40歳)

会員になって八カ月、どっぶり、「わいふ」に浸っている。初投稿(名前前で呼んで)が載ったおかげで、夫は私のことを「知ちゃん!」と呼び始めた。我が耳をうたがうくらい、自然に、さりげなく……。

四十歳になった今年、これからの「何か」を予感させる「わいふ」との出会い。「よっしゃー、こい!!」の乗りで、毎日を過ごしている。

「オランダで手術」の中村美智代さんへ

かすみそでう

あなたの勇氣ある決断におどろきを感じました。私の娘も同じなのです。日本の病院で二度の手術を娘自身体験したのですが、「覚えてない」と言われました。でも私は心の中で強く残っていますし、これからも成長に合わせて何度か手術すると思います。

言葉の違う国で、人の心の温かさを感じたあなたの気持ちは、すばらしいと思いました。私にも少し勇氣をくれた氣もしました。

募金の相場

東京都町田市 高野葉子（41歳）
「赤い羽根」や「歳末助け合い」募金が町内会単位で集金される場所がある。寄付とか募金とかいうのはそもそも自発的な行為なのだから、本来、寄付をする、しないを含め、金額は本人の自由意思のはずなのだが、町内の役員さんが集めに来られるとやはり、「うちほしません」とは言いにくく、「皆さん、いくらくらい出されるのでしょうか」と、無難な線を探ることになるのが常。

もー、こりこり

長野県小県郡 青木清美（37歳）
二度の流産の末、一年間、産婦人科医院と漢方薬医院に通った。治療が当り、明日、第二子の出産予定日だ。計画出産で、明日入院だ。陣痛が恐ろしい。
四月から、吐気、虫歯、便秘、痔、子宮頸管手術と苦しみ「ただ生きていただけ」だった。子育てをしていけば、もうすぐ貴重を三千代も終ってしまう。あー、もー、妊婦はこりこりだ。女に生まれて損をした。

乳腺外来

東京都世田谷区 太田啓子（40歳）
気楽な気持ちで受けた乳ガンの検診で、ひっかかった。左胸にしこりがあるというのだ。大丈夫だと思いが、一応二次検診を受けて下さい、と医者に言われた。乳腺外来のあるR大付属病院が良いと聞き、さっそく出かけた。レントゲンとエコーの検査を受けた。結果はシロ、悪性のもではなく乳腺症でしょう、とのことだった。が、一種の老化現象です。という初老の助教授の言葉は、胸にこたえた。

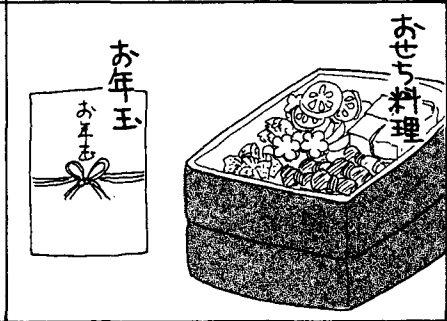
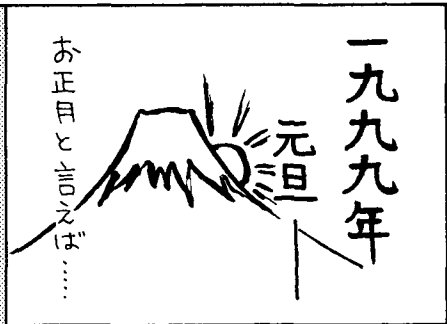
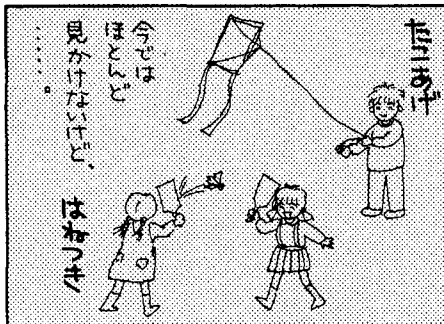
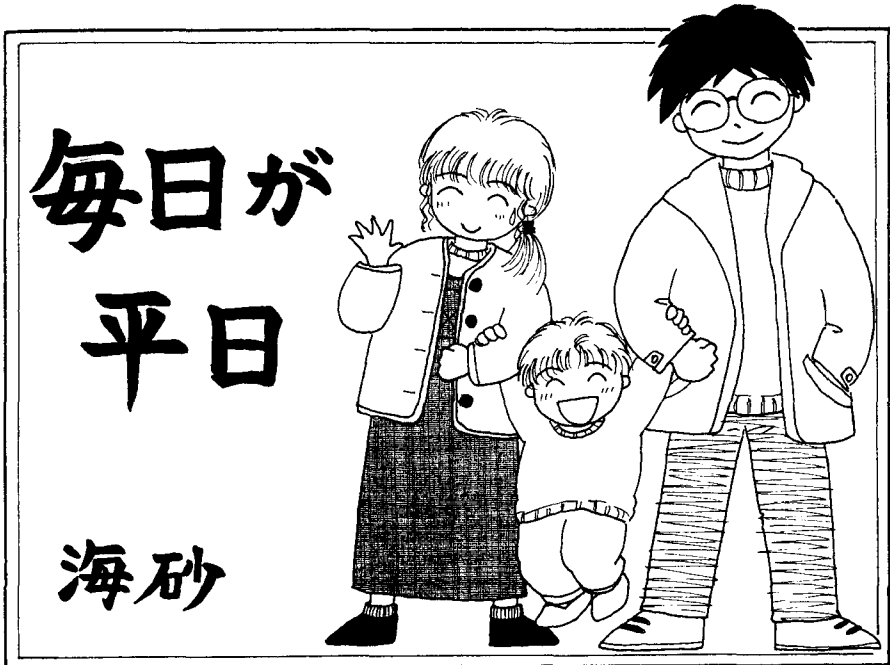
タイタニック号引き上げ品展

新潟県上越市 佐藤理恵子
十一月に、上越市で「タイタニック号引き上げ品展」が開かれ、私もボランティアとして数日間手伝いをしてきた。唯一の日本人乗客であった細野氏が上越市出身という縁から世界中でもただ一カ所、大都市以外で開かれた市民は百八十名を超え、改めて「上越パワー」を感じてしまった「たびのもの」(注)の私であった。
注・他地域から来た人を指す上越方言

なつかしい駒尺喜美さん

横浜市磯子区 十文字圭子（36歳）
二七五号に駒尺喜美さんのお名前を発見し、驚くと共に何だか嬉しくなった。大学時代、芥川龍之介の講義でそのユニーク、かつ明快な論文を、講師がいつも取り上げていた。
かつて図書館でお目にかかっていた駒尺さんと、たとえ目次でも、同じ所に名前を載せて頂けるのは、面はゆく、けれど誇らしい気がした。







ようしゃー!
はよの勝七だぞ!

すげーい!
いっばいだね



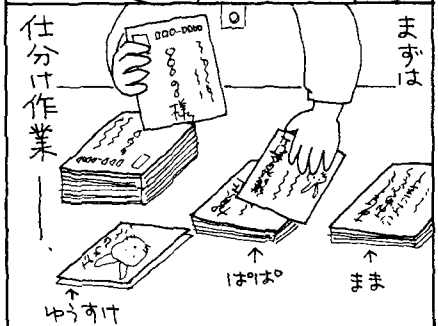
おおっ!
そうか!

年加貝状
きたか!!



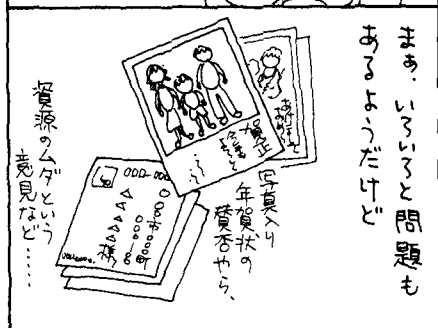
えー...?!
ママ、負けなの?!

別に、人気投票じゃ
ないんだけど.....



まずは
仕分け作業ー!

↑ まま
↑ はよ
↑ やすけ



まさ、いろいろと問題も
あるようだけど

投票のムダという
意見など.....

年加貝状の
発表資料



どれも
えー...!!
これはハハ

これは
ママ...

ねえ
ほくにも
キこる??



でも...
とりあえず
我家にこそは

お楽しみの
年に一度の
お楽しみ



おとうさん
ごきげんよー!

どう?!
今年も皆からの
楽しいのキこる??

情報 コーナー

〈司会〉

岩井俊憲（アドラー心理学）

「援助交際」は、なせいけないのか、魂に深く伝える原理論と具体的な指導・対処の方法とを総合的に提案する。

宇宙進化の中の生と性の意味

への洞察、人と人、人と社会、

人と自然・全宇宙とのつながり

感覚、正しくかつ幸福に生きる

ことへの勇気づけという根元的

なコンセプトの合流点からの提

言。

問い合わせ先 ○四二四一九五

一八二〇〇 重田

シンポジウム

援助交際Ⅱ少女売春

をどうするか

問われる学校・家庭・

社会の教育力

二月十一日午前十時～午後四

時半、日本教育会館（二橋ホー

ル）

〈発言〉

岡野守也（唯識心理学）、上田

紀行（人類学）、坂本洲子（ア

ドラー心理学）、諸富祥彦（ト

ランス・パーソナル心理学）

で、農作業をする日常のなかか

ら、環境を守る運動をせずに

激しく続けていられる詩人で

す。

この一冊はその活動の一環と

して、一九九七年の一年間、大

気の二酸化窒素による汚染度を

測りつづけた記録で、英文の翻

訳がついています。測定のやり

方もくわしく書かれていて、実

際に測定を行うことは「自分を

変えること」「周りを変えるこ

と」であることが側測と伝わっ

てきます。

同じような測定を一家で試み

られれば、親子の絆を太くする

役に立つかも知れません。

興味のある方は、武蔵野書房

（〇四二一三三二六―〇二〇二一）

にご連絡ください。

（田中喜美子）

りさいくるしよつぶ

「瑠璃屋」

会員募集中！

まだ使えるけどいらさない、

買ったけど気に入らない、小さ

くなっちゃったということが

きっかけで友人二人でりさいく

るしよつぶを開きました。衣類

ギフト品、ジュエリー、くつ、

バッグ、子供服などいろいろ。

たくさん同じ思いの方がいる

のでは？ そんな方はぜひ会員

になりませんか。

売り値の七〇％が戻ります。

但し預かれないものもありま

す。買い取りも可。

詳しいことはまずはお電話で。

休みは毎週月・火・第一・三日曜

営業時間、正午～夜七時まで

秩父市道生町四十九

〇四九四―二四―三三二五

（長田孝子）

見本紙 お届けします。お問い合わせ下さい。

草の根は

伸びつづける。

女たちの情報紙
ふえみん
f e m ♀ n
婦 人 民 主 新 聞
WOMEN'S DEMOCRATIC JOURNAL

からだのしんぱい
はたらくもんだい
こころのえいよう
なべつへのいかり
アジアのうごき
あんぜんてなに？
きのうまでのみち
あしたへのみち
わたしのいけん
あなただのいけん
おんなという
ちから。

世の中に？を
もちかめたい
男たちにも。

新聞代
(送料込)
1ヶ月 750円
3ヶ月 2,250円
6ヶ月 4,500円
1年 9,000円

創立以来、無党派の立場で50年。
女の視点で創る、もうひとつのメディア。

毎月・5日・15日・25日発行

東京都渋谷区神宮前3-31-18-301 大阪府協 大阪市北区中崎西3-1-5
TEL 03(3402)3244,3238 TEL 06(371)2429
FAX 03(3401)3453

ふえみん婦人民主新聞
婦人民主クラブ責任編集

『母と子』2月号 定価500円/送料68円

〈今月の視点〉 学校評議員の制度化

学校を開き改革する大きな流れ 荒井 文昭

—父母/住民の学校参加の契機として関心—

——保存用『母と子』臨時増刊シリーズ 定価1050円/送料78円——

◇学校自治を豊かに

—所沢高校の事例を通して— 子どもの人権と体罰研究会 編

◇学校化過剰の時代

—登校拒否いじめに悩む親への手紙— 山岸 秀 著

203-0054 東久留米市中央町5-4-8 電話0424-74-9125 母と子社

実

生で育てているさざんかが三本。五年目の秋、メートルほどになって、そのうちの一本が初めて二輪の花をつけてくれました。うすピンクに赤の入った一重の可憐な花に感激。

皆

春に拾った二個のどんぐりも、まだ十六センチですが、五枚の葉が真っ赤に紅葉してくれています。落ちている実について手を伸ばしてしまいます。(望月)

様、お気づきでしょうか。二七五号から封筒の宛て名タックシールが新しくなりました。これは「わいふ」の事務を一人で切り盛りしている野村さんが一年がかりでパソコンに取り組み、休日も返上して作り上げたものです。会員番号やいつまで購読料が入っているかが、わかりやすくなったと思いま

す。身内のことですが、野村さん、ごくろうさまでした。(成井)

寒

風の日、二階の屋根へ。テレビのアンテナ取替への補助役として登った。電波は見えないけど、仕組みがわかった。こんなおもしろい経験が出来るのに、夫も息子も「高い所と寒いのはイヤ」と拒否する。

寝

降り積る雪かきも嫌いだから今年も私かな。近所の人が「お宅は男性がいないのね……」と励まして(?)くれる。(菊池)

たきりに近いお年寄りでするのよとお世話役が言った。無駄だ、もつたいないという声が多かった。私も一度は頷いたがはつと気づいた。今はこんな状態でも、いつか歩いてバスに乗れるようになるかもしれない。お年寄りのかすかな希望の証としてのパスなら、それもいかな。(山本)

人

の手で書いた字の宛名も味わい深いものがありました。したが二七五号からパソコンの字となりました。会員の浜田悦子様のご主人のお力添えで会員管理システムのプログラムもでき、事務能力があがることは、まちがいないでしょう。パソコン一年生の私としましては、会員データの入力を正確にと緊張しましたが、いかがでしたでしょうか。(野村)

五

年ぶりに愛知県奥三河地方に伝わる「花祭り」を見に行ってきました。仲良くなった地元の人たちにも会え、旧交をあたためワクワクしながら始まりを待ちました。天竜川の水を入れた大きな釜を囲んで一晩中舞う民俗芸能ですが、初めて見たときの感激がありませんでした。千三百年続いたこのお祭りも、気がつかないところであらゆる変わっているのかも

年

知れませんが。(水落)

寄りの私(六十九歳になつた)はよろず旧式だ。おせち料理のきんとんも弱火で丹念に練って作っていたが、一昨年テレビで電子レンジ利用の方法を知り、以来実行している。すぐできるのに驚く。

最近まで電子レンジで牛乳を温める方法を知らず、娘に笑われた。田中編集長が電子レンジを買ったのは二十年近く前、十三万円で買った。それで主にごはんを温めていた。(和田)

正

月は怠け主婦の私にとつて家事を一手に引き受けなければならぬ苦手の季節ですが、最近息子も帰ってきて、食事の度に手伝ってくれるのが有難いです。キッチンでゴソゴソ始めると現れて、「手伝いましょうか」。食べ終ると、「たいい片づけもやってください。何という親孝行！」(田中)

「ファミ・ポリテイク」より

●このところ教育改革の問題を連続して追いかけています。

そこでお願ひがあるのですが、皆さんの通っておられる小・中学校で、父母の目から見て、「これはすばらしい校長先生だ！」と感じた校長がいらしたら、ぜひご一報くださいませんか。

校長さんにはろくな人がいない、と悲観的な意見が多いのですが、ごく希ではあっても「いい校長」はいらっしゃるんですよ、ホント。

一人でも多く、そういう校長先生にお目にかかり、よき学校経営の実績を探りたい。そしてよりよき学校づくりのお手本にしたいのです。

どんな改革にもモデルがないと、改革も空回りしてしまいます。みなさんの情報を頼りにしています。ご連絡は〇三二三六〇一五五〇〇 田中までお電話ください。

NMS研究会より

今回から「子育てフォーラム」を正式に「NMSのページ」に切り替えさせていただきますました。「NMS友の会」の方々に、より大きなスケールで子育てを考えるチャンスを提供するためのです。

幼児を育てていると、とかく目の前の大変さにふりまわされて、自分の子育てのひとつひとつがどういう未来につながっていくかが見えなくなることも多いのですが、「わいふ」を通じて数多くの先輩・同輩・後輩の子育てや母子関係をみたり、あーでもない、こーでもない議論を重ねていくことで、視界がぐつと広がっていくと思います。

NMS友の会のメンバーである方も、そうでない方も、どうかこのページをフルに活用してください。NMSからお返事することも予定しています。ご投稿をお待ちしています。

老人ホーム情報センターにご相談を!

老人ホームを選ぶとき、自分が入居する場合は自分の好みを優先して選びますが、介護が必要な親のために子が選ぶ場合は、入居する親より子の都合に合わせて選ぶ方が多く見受けられます。

介護を必要としている方にも自分の好みがあります。ホームに入居している痴呆がある方も、好きなヘルパー、嫌いなヘルパーがあるのです。時々面会に行く子の都合よりも、入居して毎日生活する親の快適性を考えてホーム選びをして欲しいものです。

高齢になっての住まいのご相談をお受けします。

- 無料電話相談 毎週木曜日
- 面接相談もお受けします (有料)。

電話でご予約ください。
〇三二三三五五二八五四

募集します

特集テーマ

二七八号（九九年六月一日発送分）の特集テーマは、「おけいここと」との格闘」です。

たくさんのお母さんが、わが子にピアノやバイオリンを習わせたり、バレエを習わせたりしています。

座談会 私も言いたい

二七八号のテーマは、「親の死をどう受け止める」です。

「わいふ」には最近の田中慶子さんの看護記録をはじめ、肉親の病や死をみとった話がよく出てきます。誰にとっても親の死をみとるのは、大きな悲し

私の意見・あなたの意見

二七七号のテーマは、「私が犬を嫌う理由」「私が犬を好む理由」です。

大の男が小さな犬に追いかけてられて、必死で逃げることもあれば、二、三歳の子どもが大きな犬にまたがって、「おウマさん走れ！」と横腹を蹴った

「わいふ」ではずっと以前に一度この

テーマを取り上げたことがあるのですが、そのころのお母さんに比べると、どうも最近の若いお母さんは、子どもが練習をなまけると、すさまじい勢いで「キレる」ことが増えているようです。子どもが不真面目なので、ピアノ

みをとまなう大事件ですが、みとりの状況がそれぞれ違う上、子どもとしての心のいたみもさまざまです。

すでに親を見送った方、そのときどんな状況、どんな思いでいらっしたか、ぜひ心おきなく語ってください。さて、いつも座談会の日取りがぎり

りする図もあります。

犬は人類最良の友、ときえいわれる動物ですが、嫌いな人は見るも怖く、汚いからさわれないという人もいます。

好き嫌いは大い幼児期の経験に根ざしているもので、咬み付かれて嫌いになったり、親が飼っていたため好き

の楽譜を破いてたたきつけた、という話まで耳に入ってきました。

そうした現実をふまえて子どもに、どんなものを、どんなふうにやらせているか、結果はどうだったのかなど、ホットなレポートを寄せてください。締め切りは四月十日・四千字前後。

ぎりになりますので、二七七号の座談会は一号見送って、二七八号に掲載することとし、日取りも奇数月の初めに設定しました。そこで次回は三月三日（水曜）二時から、「わいふ」分室で。出席希望の方は、必ず二月末までに編集部にご連絡ください。

になったりするようです。

それも含めて、なぜあなたが好きなのか、嫌いなのか、こんなところがいや、またはかわいい、などの理由をあげてください。二七五号一三四ページの『ライナス』ちゃん」を参考に。

締め切り 二月二十五日必着

きまり

定期購読を申し込まれている方はどなたも投稿できます。
投稿の前に以下を必ずお読みください。

◆グラフィア「私の……」

写真と文で登場してみませんか。ご希望の方は、編集部へ電話でお申し込みを。詳しく説明します。

◆特集

毎回テーマを設定しています。一四九ページをご覧ください。

一六〇〇字のコラム

(どのコラムも字数は目安で、多少長くても内容がよければ掲載します)

◆エッセイスト・クラブ

キマった文章、豊かな内容の随筆をお送りください。

◆ズバリ一言

オビニオン、評論のページ。あなた独自の考えを。

◆家族のスケッチ

同居、別居を問わず、あなたの家族のことをお書きください。

◆子育てフォーラム

おさない子、思春期の子。どんなときも親にとって子どもの存在は気になるもの。ありのままの関係を描いてみませんか。

◆ワーキングライフ

あなたは、どんな働き方をしていますか。さまざまな仕事の喜びや苦労話を。

◆今これに夢中

人生八十年時代。趣味その他、仕事以外に生きがいを持つ方も多はず。あなたは何に夢中ですか。

◆フリートーク

どんなテーマでもどうぞ。どのコラムにも当てはまらないテーマを、自由なコーナー。

八〇〇字のコラム

◆あなたへスマツシュ

本誌の投稿や記事についての感想、意見を載せます。何号のどの投稿に対するものかを明記して。

◆ことばでハッピー

ことばの使い方はとても難しいですね。時には人間関係をこわしたり。でも、発想を変えて工夫することで、お互いの関係をよくすることも可能です。

◆失敗談も含めて明い話題をどうぞ。

◆パソコンワールド

急速に普及し始めたパソコン。楽しんでい

る人、振り回されている人、体験談を。

◆おすすめの一冊

書評のコラム。どんなジャンルのものでも結構です。お読みになった本について感想を含めて、ご紹介ください。

四〇〇字のコラム

◆笑える！

嫌な話題の多い世の中。思わず笑ってしまう楽しい話を。

◆私の意見・あなたの意見

賛成か、反対か一四九ページにテーマを載せています。皆さんの素直な意見を求めます。

その他

◆私もひとこと(一四六ページ参照)

どんなことでも気軽に書きください。

◆わいふネット(一四六ページ参照)

教えて欲しい、聞きたい！ それに対するお答えも。読者参加のQ&A。

◆情報コーナー

お知らせ、募集など。要旨を漏れなく整理してお寄せください。(一四二〇行にまとめて)

投稿の

◆特別寄稿

字数自由。どのようなジャンルのものでも結構。本誌に適當と思われるものは掲載します。出版社に紹介することもあります。(ただし詩、短歌、俳句を除く)

◆コミック、イラスト、写真

一度作品をお送りください。本誌に合うものであれば依頼したいので。

注意

- 原稿はお返しできません。
- 投稿は一人一篇。ただし、「あなたへスマッシュ」「おすすめの一冊」「私もひとこと」「わいふネット」「情報コーナー」とはだぶっても可。
- 締め切りは原則として偶数月の二十五日。郵送で当日必着。(読みにくいので、ファクスではお送りにならないようお願いします)

- 他誌との二重投稿はお断りします。
- 写真や、イラストを用意できる方は原稿とあわせてお送りください。
- 誌上での匿名、ペンネーム使用可。ただし

いくつものペンネームを使い分けるのはご遠慮ください。

●掲載を希望しないお便りは「私信」と断り書きを。

●投稿は多少添削することがあります。

●最初に次のようにお書きください

原稿用紙は必ず開いたまま右上1カ所を留める

ペンネーム・匿名希望の方は明記

本文……	タイトル	コラム名
		住所 ペンネーム・匿名 会員番号 本名 電話番号
		年齢

①

ページを明記
(場所はどこでもよい)

匿名の方は住所を
載せるかどうかを明記

●四〇〇字詰原稿用紙に縦書き。

●ワープロ打ちも二〇字×二〇行一枚で。

へあて先 〒162-0815 新宿区筑土八幡町一―三―二〇―一

わいふ編集部

投稿のきまり

編一集一だ一よ一り

◆二十世紀もあと二年、かえりみれば本当に激動の一世紀でした。世界大戦が二度もあり、しかも科学技術の発達によって大量殺戮、大量破壊の悲惨な結果をもたらしました。

しかし戦後の繁栄はすばらしく、現在四十代の方はもはややしきとも貧しさとも無縁でしょう。さて二十一世紀は……？

◆今年もまた読者の方々から、たくさんのお年賀状をいただきました。個々にお返しはさし上げませんが、誌上をかりて厚くお礼を申し上げます。

◆今回の投稿数は七十三通と少なめでし

た。が、特集や特別寄稿に力作が多く、一段とおもしろくなったと思います。冬の夜長をどうぞお楽しみください。

◆二七五号の一二二ページ「我が友・250cc君」の、初めから一行目、「二万二千五百キロ走行した中古車」は、「一万二千五百キロ」の間違いです。おわびして訂正します。

◆同じく二七五号の一四四ページ、情報コーナー「段目、若岡富子刺し子展の「藍木綿」が「線」になっていました。まことに申し訳ありません。

◆「Eメール友達」についてですが、これは友達求むのコラムです。規定にある以外のことをいろいろお書きくださるのはご容赦ください。編集部からメールでご返事をさ

し上げることでもできませんので悪しからず。今後募集規定を改め、このへんをもっとはつきりさせたいと思っています。

今回のEメール友達は、求む友達という内容のメールが来ませんでしたので、お休みしました。

◆いつも年末は、二月一日号の編集のため忙しくあわただしい日が続きます。正月休み中の出勤もしばしばやりました。そこで二十五日の締切りを二十日にしようかと相談しながら書き忘れ、今回も二十八日夜遅くまでかかりました。

それでも投稿がたくさん来て、整理に手間どるのはいらいらいことです。次号も多くの投稿をお寄せください。

購読申込は……

ハガキか電話、ファクスでどうぞ。すぐに、本に郵便振替用紙を添えてお送りします。折り返しご送金ください。バックナンバーのご注文も同様。限られた書店にしかおいてありませんので、直接お申し込みください。

購読中止は……

必ずお申し出ください。誌代が切れる際には、郵便振替用紙を同封していますが、送金をお忘れになる方があるため、誌代が切れても、引き続き送本しています。ご連絡がないと、お送りしてしまいますので、ぜひハガキかお電話を。

わいふ◆276 (隔月刊)

- 発行日 1999年3月1日
- 編集 わいふ編集部
- 定価 620円 (本体590円)
- 年間購読料 4224円 (送料共)
- 印刷 平河工業社
- 発行所 ㈱グループわいふ、〒162-0815 東京都新宿区筑士八幡町1-3-201
- 電話(03)3260-4771
- FAX (03)3260-4773
- 郵便振替 00150-3-110430
- 加入者名 わいふ編集部

窓社

〒165-0073 東京都
新宿区百人町4-7-2
TEL 03-3362-8641
FAX 03-3362-8642

不況時代に強い味方

『生活の知恵』シリーズ

適温クッキング

元気がよみがえる

ついに見つけた美味しさを秘蔵

小林寛・小林正恵著

定価1600円+税

簡単に安く、栄養価を損なわずに誰にもできる革命的調理法。ガン、アトピー、糖尿病などの難病克服に効果を示した驚異のレシピ満載。
帝国ホテル前総料理長・村上信夫氏激賞推薦!

もう一度おしやれに

リファッシュ

なんてすてきな私ブランド

三輪倫子著

定価1600円+税

着あきた服も、サイズのあわない服も、ハサミと針とアイデアで、私ブランドに大変身。リファッシュンならではのとっておき作品の作り方を、挙紹介。

それでも
小説家になりたい!

丸山あかね著

定価1500円+税

やっぱり

スポーツが気にかかる!

大貫映子著

定価1600円+税

教育史料出版会

〒101 千代田区西神田2-4-6
☎03(5211)7175

自分にあつた学校をえらぶ私立高校ガイド

ハイスクールレポート

入学してからでは遅すぎる!
服装・頭髮規定は? 生活指導の身中は?
どんな行事があるのか? 力を入れてい
る教育内容は? 進学への取り組みは?
学校生活がこの一冊で見えてくる!

関東版 わいふ編集部編 4月未刊 ★1800円+税
関西版 公立校も収録 / 5月未刊 ★1710円+税

子どもはなぜ
★1500円+税

渡辺位
学校に行くのか
★1500円+税

自分にあつた
★1602円+税

早川裕子
高校のえらび方

●生徒・父母・教師が語る 私の北星余市物語

やりなおさないか
君らしさのまままで

北星学園余市高校編
中退生を受け入れる北の学園!
★1500円+税



ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1番 宅配可・価格は税別
TEL075-581-0296 FAX075-581-0589 郵便振替01020-0-8076

わが子をいじめてしまう母親たち



武田京子著 ● 育児ストレスからキレるとき 普段は子どもを愛している母親が、抑えきれない衝動からいじめてしまう。これは特別なことなのか。長年、子育て相談に携わってきた著者が、年々増える「わが子いじめ」について語る。一八〇〇円

一人ひとりが支える高齢社会

樋口恵子著 ● 女性が進める介護の社会化Ⅲ 各自が当事者として、高齢社会を築いていくために、今知っておきたいことを、幅広い分野の専門家が語る。二〇〇〇円

老いを看とり 老いを見つめる

阪野光子著 ● 私の介護奮戦記 父・母を看とり、そして今また夫の介護と、著者自身が家族の介護を通して、老いを見つめ、家族とは何か、死とは何か、また現代医療のかかえる課題について考える。一八〇〇円

女・挫折からの出発

来栖琴子著 ● 人生半ばで出会った危機を乗り越える 夫を突然亡くし、立ち直りに苦勞した著者が、絶望を逆に人生の糧とした話を集めた。「悲しいけれど、生きていく」女性たちの力強さを描ききる。一八〇〇円

住んでみた老人ホーム

安宅 温著 ● 上手な選び方暮らし方 いざとなる前に知っておきたい、自分に合った老人ホームを探すコツと、上手な利用方法を著者の体験から紹介する。一八〇〇円

自分でできる家族でできる

寝たきりにしない・ならないQ&A

佐久間淳著 医学博士の著者が、寝たきり予防とケアの視点でまとめたQ&A。ちよつとしたコツで自立した健康な老後を楽しむための必読書！ 一八〇〇円

英米文学を楽しむ新しい視点

好評発売中！

イギリス小説のヒロインたち



久守和子著 ● 〈関係〉のダイナミックス イギリス小説に登場するヒロインたちは、どのような時代を生きてきたのか。オースティン、プロンテ、エリオットなどの代表作の技法やテーマなどからアプローチを試みる。三〇〇〇円

たのしく読める英米女性作家



久守和子／窪田憲子／石井倫代編著 ● 作品ガイド20 17世紀頃から現代にわたる英語圏女性作家の代表作の全体図を描く。一作品を見開きに収録、あらすじ紹介・読み方・作家の履歴・読書案内にわけて解説する。二八〇〇円

平成九年十二月十九日 第三種郵便物認可
一九九九年二月一日(奇数月の一日)発行

わいふ 二七六号

定価六二〇円(本体五九〇円)